

学校法人 埼玉医科大学

埼玉医科大学短期大学

Saitama Medical University College

令和元年度自己点検・評価報告書

(2019年度年報)



埼玉医科大学短期大学

令和2年3月31日発行

学校法人 埼玉医科大学

埼玉医科大学短期大学

Saitama Medical University College

令和元年度自己点検・評価報告書

(2019年度年報)

埼玉医科大学短期大学

令和2年3月31日発行



適格認定証

埼玉医科大学短期大学

貴短期大学は令和元年度
認証評価の結果 適格と認定する



ACCREDITED
2019

令和2年3月17日

一般財団法人 短期大学基準協会

理事長

関口 修



目 次

ページ

埼玉医科大学短期大学の概要	<ul style="list-style-type: none"> 1. 沿革 2. 概要 3. 組織・役員 	<ul style="list-style-type: none"> 1 1 5
I 建学の精神と教育の効果	<ul style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神 <ul style="list-style-type: none"> 1)建学の精神 2)本学の目的 3)本学の三つの方針・学修成果 2. 教育の効果（看護学科・専攻科） <ul style="list-style-type: none"> 1)教育理念 2)教育目的 3)教育目標 4)三つの方針 3. 内部質保証（自己点検・評価体制） <ul style="list-style-type: none"> 1)本学における自己点検・評価体制 2)自己点検・評価の担当部門一覧 3)教員評価への取り組み 4)卒業生・修了生による本学に関する評価 	<ul style="list-style-type: none"> 7 7 7 7 8 8 9 9 10 18 18 23 24 27
II 教育課程と学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 1. 教育課程 <ul style="list-style-type: none"> 1)卒業認定・学位授与，修了認定 2)学修成果 3)教育課程の編成・実施 4)入学者の受け入れ 2. 学生支援 <ul style="list-style-type: none"> 1)教育活動 2)社会活動 3)生活への支援 4)学生の健康管理 5)クラブ・同好会 6)学生のボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> 35 35 36 38 61 70 70 73 91 94 94 95

Ⅲ 教育資源と財的資源	1. 人的資源	98
	1)活動組織	98
	2)学生による授業評価	98
	3)FD 活動	106
	4)SD 活動	108
	5)委員会活動	110
	6)教育・研究活動（実績）	139
	2. 物的資源	144
	1)施設設備の整備・運用状況	144
	2)令和元年度購入物品	144
	3)図書利用状況	145
	3. 技術的資源をはじめとするその他の教育資源	146
	1)学術情報システムの整備・活用状況	146
	4. 財的資源	146
Ⅵ リーダーシップと ガバナンス	1. 理事長のリーダーシップ	147
	2. 学長のリーダーシップ	147
	3. ガバナンス	147

埼玉医科大学短期大学の概要

1. 沿革

1) 認可申請から現在まで

昭和62年 6月	埼玉医科大学短期大学設置認可申請 第一次申請
昭和63年 6月	埼玉医科大学短期大学設置認可申請 第二次申請
昭和63年 12月22日	埼玉医科大学短期大学設置認可
平成元年 4月1日	埼玉医科大学短期大学開学
平成 8年 12月19日	埼玉医科大学短期大学専攻科設置認可
平成 9年 4月1日	埼玉医科大学短期大学専攻科開設 (地域看護学専攻・母子看護学専攻)
平成20年 3月31日	埼玉医科大学短期大学臨床検査学科 閉学科
平成21年 3月31日	埼玉医科大学短期大学理学療法学科 閉学科
平成21年 3月31日	埼玉医科大学短期大学専攻科地域看護学専攻 閉攻

2) 短大看護学科の母体校

埼玉医科大学附属看護専門学校（学校法人 埼玉医科大学）

設立	昭和51年4月	(昭和54年より専修学校)
閉校	平成 3年3月	
入学者総数	718名	
卒業生総数	701名	

2. 概要

1) 所在地：埼玉県入間郡毛呂山町大字毛呂本郷 38 番地

2) 校舎

埼玉医科大学短期大学校舎	地下1階 地上7階	6,789.4m ²
同専攻科校舎	9号館 6階	383.3m ²

3) 看護学科・専攻科入学定員、修学年限

看護学科入学定員、修学年限

	定員	修学年限
看護学科	100名	3年

専攻科入学定員、修学年限

	定員	修学年限
母子看護学専攻	20名	1年

4) 図書

(1) 埼玉医科大学短期大学図書室 (令和2年3月31日現在)

延面積		187.2 m ²
総蔵書冊数		22,094 冊
年間受け入れ冊数		322 冊
雑誌数	国内誌	155 誌
	国外誌	12 誌
年間入館者数		5,247 人

(2) 埼玉医科大学附属図書館および分館一覧 (平成31年3月31日現在)

		埼玉医科大学 附属図書館	川角キャンパス 分館	総合医療センター 分館	日高キャンパス 分館
延面積		4,238 m ²	1,055 m ²	279 m ²	1,400 m ²
総蔵書冊数		287,138冊	11,906冊	23,414冊	40,617冊
年間受け入れ冊数		2,871冊	808冊	680冊	2,134冊
雑誌数	598誌	53誌	133誌	152誌	157 誌
	117誌	7誌	18誌	10誌	10 誌
年間入館者数		24,247人	10,556人	13,645人	49,252人

5) 関連施設

(1) 学校法人 埼玉医科大学

埼玉医科大学医学部（毛呂山町）
埼玉医科大学保健医療学部（日高市・毛呂山町）
埼玉医科大学病院（毛呂山町）
埼玉医科大学総合医療センター（川越市）
埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子センター（川越市）
埼玉医科大学国際医療センター（日高市）
埼玉医科大学ゲノム医学研究センター（日高市）
埼玉医科大学かわごえクリニック（川越市）
埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校（川越市）
埼玉医科大学訪問看護ステーション（毛呂山町）
埼玉医科大学介護支援センター（毛呂山町）
埼玉医科大学総合医療センター訪問看護ステーション（川越市）
埼玉医科大学総合医療センター介護支援センター（川越市）
埼玉医科大学在宅介護支援センター（川越市）
保育園めぐみ（毛呂山町）
埼玉医科大学川越保育園（川越市）
託児所あすなろ（日高市）

(2) 社会福祉法人 埼玉医療福祉会

丸木記念福祉メディカルセンター（毛呂山町）
障害者自立支援施設やすらぎ（毛呂山町）
デイケアセンター・地域活動支援センターのぞみ（毛呂山町）
ケアハウス薫風園（毛呂山町）
介護老人保健施設薫風園（毛呂山町）
地域包括支援センター薫風園支所（毛呂山町）
特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷（毛呂山町）
老人福祉センター 山根荘（毛呂山町）
光の家療育センター（毛呂山町）
埼玉医療福祉会看護専門学校（毛呂山町）

(3) 社会福祉法人 育心会

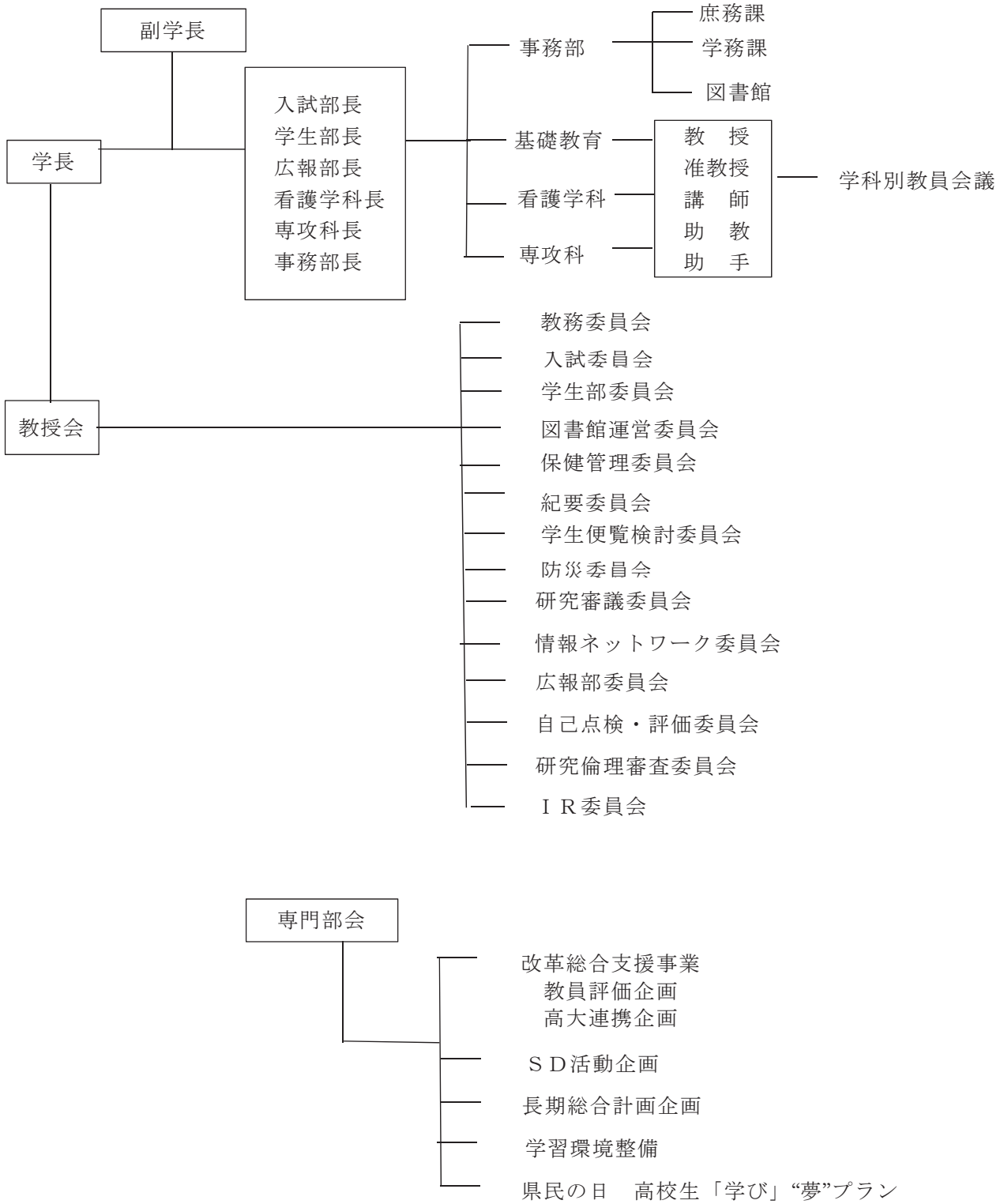
障害児入所施設 障害者支援施設 育心寮 (毛呂山町)
救護施設 育心寮 (毛呂山町)
特別養護老人ホーム 悠久園 (毛呂山町)
悠久園 短期入所支援センター (毛呂山町)
悠久園 居宅介護支援センター (毛呂山町)
悠久園 デイサービスセンター (毛呂山町)
養光保育園 (毛呂山町)
障害者支援施設 光風寮 (毛呂山町)
障害者支援施設 第2光風寮 (毛呂山町)
障害者支援施設 第3光風寮 (毛呂山町)
障害者支援施設 松山荘 (毛呂山町)
障害者支援施設 報恩施設 (毛呂山町)
生活支援センター 向陽 (毛呂山町)

(4) 社会福祉法人 埼玉医大福祉会

医療型障害児入所施設 カルガモの家 (川越市)

3. 組織・役員

1) 学校法人・短期大学の組織図



2) 法人役員（令和元年度）

学校法人埼玉医科大学

理事長：丸木 清之

理事：丸木 清之、別所 正美、相木 七良右エ門、江利川 毅、小室 秀樹、小山 勇、塩川 修、
関根 則之、田島 賢司、棚橋 紀夫、堤 晴彦、原 敏成、武藤 光代、茂木 明、吉野 重彦、
吉本 信雄

監事：石井 道夫（令和元年 8 月 30 日まで）、香西 敏男、三和 彦幸

3) 短期大学役職者（令和元年度）

学 長	丸木 清之
副学長	所 ミヨ子
入試部長	所 ミヨ子
学生部長	平良 朝子
図書館長	平良 朝子
広報部長	今野 葉月
看護学科長	久保かほる
専攻科長	稲井 洋子
看護学科教務主任	霜田 敏子

I 建学の精神と教育の効果

1. 建学の精神

1)建学の精神

- 一、 真に求められる、人間性、技術共に優れた医療技術者の育成
- 二、 自ら学び、努め、以て病める者への労りと奉仕心の育成
- 三、 師弟同行の学風の育成

2)目的

本学は、教育基本法及び学校教育法にした従い、医療技術に関する高度の理論と技能を教授研究し、あわせて豊かな教養と人格を備えて、ひろく国民の保健医療の向上に寄与することのできる医療技術者を育成することを目的とする。

設立の趣旨

現代社会の目ざましい進歩発展は、医学の分野にも著しい進歩をもたらした。医療の内容もますます高度化し、複雑化し、かつ専門分化し、医療技術者が医療チームの一員として、医師と共に果たす役割は一段と重要性を増している。より高度な専門知識と技術、そして人類愛に燃える豊かな人間性を備えた医療技術者が切実に求められている。また単に知識や技術のみでなく、人間に対する深い洞察力を発揮し得る資質の高い人材も強く求められる。

そこで、本法人において、既設の看護専門学校、医学技術専門学校ならびに本法人設立の母体である、社会福祉法人毛呂病院が設立する埼玉リハビリテーション専門学校の三専門学校を母体として、「看護学科、臨床検査学科、理学療法学科」の三学科を置き『埼玉医科大学短期大学』を開設した。その後、専攻科を設置し、地域看護学専攻、母子看護学専攻を開設した。保健医療学部の開設に伴い、臨床検査学科と理学療法学科、専攻科地域看護学専攻は閉学科・閉攻となった。

3)本学の三つの方針・学修成果

(1)ディプロマポリシー（卒業・修了認定・学位授与の方針）

本学は「人間性、技術共に優れた医療技術者の育成」、「自ら学び、努め、以て病める者への労りと奉仕心の育成」、「師弟同行の学風の育成」という建学の精神のもと、医療技術に関する高度の理論と技術を教授研究し、豊かな教養と人格を備えて、国民の保健医療の向上に寄与することのできる医療技術者を育成することを目的として教育課程を編成している。このカリキュラムを履修し医療技術者として必要な次の「知識・技能」、「思考・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を身につけた学生には卒業・修了を認定し、看護学科は短期大学士（看護学）の学位を授与する。

[学修成果]

【知識・技能】

1. 人間を総合的に理解できる
2. 科学的な知識・技術を身につける

【思考力・判断力・表現力】

1. 知識・技術・態度を統合して看護実践できる

【主体性・協働性】

1. 高い倫理観をもって看護者として自己成長できる
2. 社会の変化に対して適応できる
3. 自己の責任を自覚し、問題解決のために積極的にさまざまな立場の人と協働できる

(2)カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

豊かな教養と看護の専門的知識を身につけ、地域の保健医療に貢献できるよう、教養教育の充実、双方向型教育、早期からの臨地実習、臨床指導教員の配置などきめ細かな学習支援を心がけた教育を実施している。

(3)アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

看護の対象となる人々の信頼を得られる看護師・助産師の育成を目的としているため、専門的な知識・技術と同時に高い倫理観や人の痛みがわかるような人間愛を兼ね備えた医療人を目指す学生の入学を希望している。

2. 教育の効果

看護学科

Plan

- 1) 建学の精神を基盤として看護学科の教育理念・教育目的・教育目標を設定しており、今年度もこれらを学内外へ明確に表明する。看護学科の教育理念、教育目的、教育目標は次のとおりである。

教育理念

看護学科の教育は、優れた看護専門職業人の育成を目指している。看護専門職には生命に対する深い畏敬の念とそれに基づく確かな看護観、教養ある社会人としての豊かな人間性と良識を持って積極的に社会に貢献する姿勢が望まれる。また科学技術や医療の著しい進展に対応しうる絶え間ない努力が求められている。すなわち看護の学問的研究を推進する能力、新しい知識と技術に裏づけられた看護実践能力が求められる。

さらに本学は、高度医療機関であり地域医療の中核的役割を担っている埼玉医科大学病院に併設しているため、学んだ成果を地域に還元することを自らの社会的役割として自覚できる人材を育成しなければならない。以上の観点から、教育目的・目標を以下のように設定している。

教育目的

看護専門職として、看護に関する専門的知識と技術の教育研究活動を通じ、生命に対する深い畏敬の念とそれに基づく確かな看護観を持ち、また、教養ある社会人として、豊かな人間性と良識をもって積極的に社会に貢献できる看護師を養成する。

教育目標

- a. 幅広く豊かな教養を身につけた社会人になる。

豊かな感受性と幅広い教養を身につけるだけではなく、科学的に問題を解決する能力を持つことや、倫理的判断能力があること、自らの社会的役割を認識して自主的に行動し、社会的責任を担う能力を持つことが含まれる。

- b. 社会の変化に対応しつつ、生涯に亘って社会に貢献できる看護の専門職業人になる。

看護を実践するための専門的な知識や技術を修得することはもちろんのこと、社会における医療や看護の役割を認識し、その責任を果たす能力を身につけることが含まれる。また看護の専門職業人として研究的態度を培い、看護の発展に寄与するため生涯に亘って学習を継続していく姿勢を身につけることを意味する。

- c. 看護の専門家として地域の医療水準の向上に貢献できる人となる。

本学の社会的役割は優秀な人材の育成によって、地域の医療水準の向上に貢献することである。この理念に沿って、地域の医療に関心と情熱をもって対処する姿勢と実践能力を身につけることを意味する。

- 2) 教育理念・教育目的・目標をもとに看護学科の三つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を策定する。
- 3) シラバスに看護学科科目構造図と科目進度表を掲載する。

Do

- 1) 学生に対しては、学生便覧や教室、掲示版にこれらを明示し、入学時及び新年度時にオリエンテーションを行い教育目標と各授業科目との関連を説明している。教員に対しては様々な会議で定期的に教育目的・目標を確認した。新任教員に対しては新任教員研修に組み入れて周知できるようにした。学外に向けては Web ページ上やパンフレットへの掲載、新入生保護者オリエンテーションでの説明を行った。
- 2) シラバスに看護学科の科目構造図と科目進度表を掲載した。
- 3) 看護学科の教育目標とディプロマポリシーを掲載した「行動のしおり」を作成した。学生には常に携帯し、掲載内容を学年・実習グループごと、週に一度唱和するように指導した。

4) アドミッションポリシーとして示した能力をより理解しやすいように表現を修正し、次年度から活用する準備をした。

5) 三つの方針

A. ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

看護学科の課程を修め、授業科目区分ごとの所定の単位 101 単位以上の単位を修得したうえで、下記のような知識・技術・態度を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

〔学修成果〕

① 社会の変化に対応できる能力

- a. 社会情勢の変化に関心を持つ。 b. 社会の変化に対応する。

② 人間を総合的に理解できる能力

- a. 他者を尊重し共感的に理解する。 b. 人間を多角的な視点で理解する。

③ 科学的な思考ができる能力

- a. 論理的に思考する。 b. 物事を系統的に考える。

④ 専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力

- a. 専門的知識を活用し、健康状態をアセスメントする。
b. あらゆる健康レベルに対応した看護を計画・実施・評価する。
c. 高い倫理観をもち、他者の尊厳と権利を擁護する。

⑤ 保健医療福祉チームメンバーとして地域に貢献する能力

- a. 継続看護（支援）の重要性を理解する。
b. 保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し遂行する。
c. 地域の医療水準の向上に貢献する。

⑥ 看護者として自己成長ができる基盤を身につける能力

- a. 自分自身を客観視する。
b. 主体的に行動し、建設的な人間関係を構築する。
c. 自分が置かれている立場・役割を認識し行動する（リーダーシップ・メンバーシップ）。
d. 継続的に学習し、新しい知見を得る。

B. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマポリシーを学生が修得できるように以下の教育内容と教育方法を取り入れた授業を実施し、学修成果の評価を行う。教育内容については、科目構造図と科目進度表に示し、順次性に配慮し体系的かつ効果的に教育課程を編成する。

① 教育内容

- a. 3年間で 101 単位以上を履修する。
b. 保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下、指定規則とする）本学の教育内容の対比は、表 1 の通りである。
c. ディプロマポリシーを修得するための教育内容は、表 2（p.12）の通りである。

d. 看護専門職の責任を自覚し、自ら学ぶ力を高めるために早期から臨地実習を設定する。

表 1 指定規則と本学の教育内容との対比

指 定 規 則		本 学
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進 健康支援と社会保障制度	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進
		健康支援と社会保障制度
専門分野 I	基礎看護学（臨地実習を含む）	看護の基本（臨地実習を含む）
専門分野 II	成人、老年、小児、母性、精神看護学 （それぞれ臨地実習を含む）	ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法（成人、老年、小児、母性、精神、在宅看護学） （それぞれ臨地実習を含む）
統合分野	在宅看護論、看護の統合と実践 （それぞれ臨地実習を含む）	看護の総合（臨地実習を含む）

表2 ディプロマポリシーを修得するための教育内容

学 修 成 果		教 育 内 容					
		人 科 間 学 と 的 生 思 活 考 ・ 社 社 会 会 の 理 解	人 科 体 の の 成 構 り 造 立 ち と 機 と 回 能 復 の 疾 促 病	健 康 支 援 と 社 会 保 障 制 度	看 護 の 基 本	ラ イ フ サ イ ク ル と 生 活 の 場 に 応 じ た 看 護 の 方 法	看 護 の 総 合
① 社会の変化に対応できる能力	a. 社会情勢の変化に関心を持つ。	○		○			○
	b. 社会の変化に対応する。	○		○			
② 人間を総合的に理解できる能力	a. 他者を尊重し共感的に理解する。	○					○
	b. 人間を多角的な視点で理解する。	○	○	○			
③ 科学的な思考ができる能力	a. 論理的に思考する。	○	○				○
	b. 物事を系統的に考える。	○	○	○			
④ 専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力	a. 専門的知識を活用し、健康状態をアセスメントする。				○	○	
	b. あらゆる健康レベルに対応した看護を計画・実施・評価する。				○	○	○
	c. 高い倫理観をもち、他者の尊厳と権利を擁護する。				○	○	○
⑤ 保健医療福祉チームメンバーとして地域に貢献する能力	a. 継続看護（支援）の重要性を理解する。				○	○	○
	b. 保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し遂行する。				○	○	○
	c. 地域の医療水準の向上に貢献する。			○		○	○
⑥ 看護師として自己成長ができる基盤を身につける能力	a. 自分自身を客観視する。				○	○	○
	b. 主体的に行動し、建設的な人間関係を構築する。				○	○	○
	c. 自分が置かれている立場・役割を認識し行動する（リーダーシップ・メンバーシップ）。				○	○	○
	d. 継続的に学習し、新しい知見を得る。				○	○	○

②教育方法

- a. 講義・演習は、学生の主体的な学びを促進するために、双方向型教育を実践する。また、参加型授業形態の工夫として、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。
- b. 臨地実習は、実践の機会を多く持つように、指導教員および臨地実習指導者が連携する。
- c. シラバスに、卒業認定・学位授与の方針に基づく学習の到達目標、評価方法、予習・復習の内容と学習時間の目安を具体的に記載する。
- d. 授業評価アンケートを実施し、授業内容や教授方法の改善、組織全体として授業が円滑に運営されているかを検証する。

③学修成果の評価

- a. 授業科目の到達目標に応じて到達基準を明確化し、その到達状況を適切に評価する。
- b. 授業科目の学修成果は、授業内容に応じて筆記試験、レポート、実技試験、学習態度などを総合して評価する。
- c. 学修成果はフィードバックを行ない、学生が自身の学修成果と課題を把握できるようにする。

d. GPA を用いてフィードバックを行ない、学生が自身の学修成果と課題を把握できるようにする。

e. 毎年アセスメントテストを実施し、学生・教員の双方が学修成果を確認する。

C. アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

①ディプロマポリシーに定める知識・技術・態度の修得を目指し、カリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、a.～d.の基礎学力を身につけるための科目を履修していることが望ましい。

a.「読む・書く」能力及び論理的思考能力を必要とする基礎学力

科目：国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ等

b.科学的判断・問題解決能力を高める基礎学力

科目：数学Ⅰ・数学A、化学基礎、生物基礎等

c.人間・健康・生活・社会（環境）への関心を高める基礎学力

科目：現代社会等

d.倫理観を高める基礎学力

科目：倫理等

②保健医療福祉の分野で活躍、貢献したいという目的意識をもっている。

③豊かな感性、表現力、他者との協調性やコミュニケーション能力を身につけるために、下記 a.～c.のような活動をしていることが望ましい。

a.課題への積極的・主体的な取り組み（総合的な学習時間など）

b.生徒会活動や部活動

c.ボランティア活動

Check

1) 卒業生を対象に実施している当短期大学に関するアンケート結果では、全ての項目の平均が中央値以上ということから教育理念・目的・目標は周知できた。

2) 教員は常に意識しながら教育活動及び委員会活動等を行った。

Action

1)看護学科の教育理念や教育目的、教育目標を今後も学内外へ表明することを継続する。

2)情報化社会や少子高齢社会、また疾病構造の変化や大災害の発生等に伴い、今日の医療・看護に対する国民のニーズが変化してきているので、時代の変化を見据えながら常に点検、見直しをする。

3)看護大学が年々増加し短期大学が激減している現状において、短期大学における教育の特色を出すために、教育内容をさらに精選し、教育方法を工夫しながら質の向上に努める。

4)県内の医療・福祉および医療教育の中核的役割を担う埼玉医科大学病院に併設されている利点を最大限に生かし、病院看護部と協同して学生の教育はもとより地域の医療水準の向上に貢献できるように卒業生の卒後教育、公開講座等を行う。

専攻科 母子看護学専攻

Plan

1)建学の精神を基に専攻科の教育理念・教育目的・教育目標を設定しており、本学専攻を希望する学生へ明確な教育方針を周知する。専攻科の教育理念・教育目的・教育目標・修了生の特性は次の通りである。

教育理念

埼玉医科大学短期大学の教育の基本姿勢は、一般社会人としての幅広く豊かな教養と良識を持ち、生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持って、積極的に社会に貢献できる人材を育成することである。母子看護学専攻の教育は医療全般にわたる広範な視野と高い見識を持ち、急速かつ多様に変化しつつある社会状況を的確にとらえ、対象者および家族・地域に対して母子看護専門職としての社会的役割を担う人材を育成することである。さらに、本学は、高度周産期医療機関であり地域医療の中核的役割を担っている埼玉医科大学病院に併設しているため、高い専門性を活かし専門的指導的役割を果たせる人材を育成しなければならない。

教育目的

看護基礎教育を基盤として、母子看護学に関する専門的知識と技術を深く身に付け、社会に貢献できる助産師を養成する。

教育目標

- A. 広範な視野と高い見識を持った社会人になる。
- B. 多様に変化する社会状況及び価値観を的確にとらえ、高い専門性と指導的役割を担い生涯に亘って社会に貢献できる母子看護専門職業人になる。
- C. 母子看護専門職として、周産期医療の水準・向上に貢献できる人となる。

修了時の特性

- A. 広範な視野と高い見識を培う。
 - a. 生命に対する深畏敬の念と人類愛を持つことができる。
 - b. 倫理観を持った行動ができる。
 - c. 社会情勢の変化を的確にとらえることができる。
 - d. 生涯学習を行い自己研鑽することができる。
- B. 高い専門性を持った実践能力を培う。
 - a. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援することができる。
 - b. 高度周産期医療に対応する知識・技術を高めることができる。
 - c. 科学的思考を持ち総合的に判断することができる。

d.社会資源を活用し、他職種と協働・連携できる。

C. 地域の医療水準の発展に貢献する姿勢を培う。

a.保健医療福祉チームの一員として連携・協働して医療水準の向上に貢献することができる。

b.自律的に生涯学習を継続することができる。

c.臨床場面で得た課題を研究する能力。

d.研究成果を臨床に活かす能力。

2)本学専攻を希望する学生へ明確な教育方針の提示が必要であり、専攻科独自の3つの方針を策定する。

Do

1)専攻科の教育方針の周知

昨年同様に学外に対してはホームページに掲載やパンフレットへの掲載およびオープンキャンパス時に入学を希望する学生と保護者へ説明を行った。また在学生に対しては、入学オリエンテーション時と実習オリエンテーション時に教育目標と各科目の設定理由について、説明する機会を持った。特に助産師としてのアイデンティティとして、助産師の役割や責務を自覚し、助産師であるということの認識と誇りを持つことの周知に力を注いだ。合わせて近年の周産期医療の変化に伴い、基礎的知識に加え高度周産期医療に対応できる能力として最新の知識と技術さらに周産期医療チームの一員として様々な職種と連携を図り協働できることが求められている旨を強調し説明を行った。

2)3つのポリシーの策定

現行の教育理念・教育目的・教育目標・修了生の特性を基に次に示す【三つの方針】を検討した。結果として次のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを完成させ、次年度より活用する準備を整えた。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

専攻科の課程を修め、授業科目区分毎の所定の単位を修得し、且つ修了要件の31単位以上を修得したのものには、全ての女性および周産期にある母子とその家族に対して健康を支援し、地域母子医療・保健の向上に寄与できる助産師に相応したことを認め、修了を認定する。

〔学修成果〕

1. 広範な視野と高い見識を培う能力

(1)生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持つ。

(2)倫理観を持った行動ができる。

(3)社会情勢の変化を的確にとらえる。

2. 高い専門性を持った実践能力を培う能力

(1)女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援する。

(2)高度周産期医療に対応する知識を持つ。

- (3)科学的思考を持ち総合的に判断する。
- 3. 地域の保健医療福祉水準の発展に貢献する姿勢を培う能力
 - (1)社会資源を活用し、保健医療福祉の向上に貢献する。
 - (2)保健医療福祉チームの一員として多職種と連携し協働できる。
- 4. 助産師としての専門的自立能力を培う能力
 - (1)生涯学習を行い自己研鑽する。
 - (2)課題意識を持ち研究を行い、成果を活用する。

カリキュラムポリシー（教育課程の実践方針）

女性と子どもの健康的な生活を支援するための基本理念と知識、周産期にある母子と家族のケアに必要な助産診断と実践のための基礎的能力を修得し、地域社会に貢献できる助産師を養成する教育課程を編成する。

- 1. 基礎助産学：女性と子どもの健康を支える基本理念と知識・技術を養う。
- 2. 助産診断技術学：助産学領域における専門的な実践能力を養う。
- 3. 地域母子保健：地域の特性を知り、助産師として多職種と協働できる能力・態度を養う。
- 4. 助産管理：助産管理者として必要な基礎的知識と能力を養う。
- 5. 助産学実習：知識を統合し、ウェルネスもしくは問題解決の視点で助産過程を展開できる能力を養う。

表3 ディプロマポリシーを修得するための教育内容

学 修 成 果		教 育 内 容				
		基礎助産学	助産診断・技術学	域母子保健	助産管理	助産学実習
1. 広範な視野と高い見識を培う能力	(1) 生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持つ。	○				○
	(2) 倫理観を持った行動ができる。	○				○
	(3) 社会情勢の変化を的確にとらえる。	○		○	○	○
2. 高い専門性を持った実践能力を培う能力	(1) 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援する。	○	○	○	○	○
	(2) 高度周産期医療に対応する知識を持つ。	○	○			○
	(3) 科学的思考を持ち総合的に判断する。	○	○			○
3. 地域の医療水準の発展に貢献する姿勢を培う能力	(1) 社会資源を活用し、保健医療福祉の向上に貢献する。			○	○	○
	(2) 保健医療福祉チームの一員として多職種と連携し協働できる。			○	○	○
4. 助産師としての専門的自立能力を培う能力	(1) 生涯学習を行い自己研鑽する。	○	○	○	○	○
	(2) 課題意識を持ち研究を行い、成果を活用する。	○	○	○	○	○

アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）

1. 人間に対する関心を持ち、生命の尊厳を重視できる人
2. 責任感と倫理観を備え、社会性を兼ね備えた人
3. 生涯学習を行い自己研鑽することができる人
4. 看護師として、基礎学力を有している人
5. 協調性があり、高いコミュニケーション能力を備え、多職種連携に意欲を持つ人
6. 保健医療分野の指導的役割を担う意欲のある人
7. 課題意識を持って科学的に探究し保健・医療に貢献しようとする意欲のある人

Check

1)専攻科の教育方針の周知

ホームページとオープンキャンパス時に周知する機会をもち、また入学生については入学時と実習開始時および実習終了時に繰り返し説明をする機会を設けた。助産師を目指そうとする時期に本学専攻科の教育方針を周知する時期を確保できたと考える。

2)専攻科の3つのポリシーの策定

現在の教育理念・教育目的・教育目標・修了生の特性を基に【三つの方針】を策定し、次年度から実施する準備が整った。

Action

本学専攻を希望する学生へ明確な教育方針の提示が必要である。そのためにも専攻科独自の三つの方針（ディプロマポリシー／修了認定にあたっての具体的な方針の提示、カリキュラムポリシー／1年課程でのカリキュラム編成と運用の方針の提示、アドミッションポリシー／専攻科で募集する入学者の明確な表現）を策定し、一貫のある取り組みを学内外へ表明することとした。今後は3つのポリシーを基に学内外へ教育方針を周知することを継続し、国内外の助産師教育の動向を捉えつつ、常に点検と修正を行う必要がある。さらに変化する学生の特徴を捉えながら、教育方法を工夫し、助産師としての質の向上に努めてゆきたい。

3. 内部質保証（自己点検・評価体制）

1) 本学における自己点検・評価体制（p.22）

Plan

大学が自らの教育研究の理念・目標に照らして、教育活動及び研究活動の状況を点検・評価するという理念の基に、本学は自己点検・評価委員会規則（平成 30 年 11 月 16 日改正）に則って、教育・研究水準の向上を図り、かつ本学の目的及びその使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自己点検・評価を実施する。

Do

- (1) 自己点検・評価委員会を 12 回開催し、自己点検・評価委員会規則に則って各活動の自己点検・評価を行った。
- (2) 令和 2 年 3 月『2019 年度自己点検・評価報告書（2019 年度年報）』を発行した。
- (3) 昨年に引き続き、私学振興・共済事業団の情報公開要件に応じて次を HP 上で公開した。『2019 年度シラバス』、『2019 年度学生便覧』、『2019 年度自己点検・評価報告書』
- (4) 2019 年度に実施した学生による授業評価の集計結果を『学生による授業評価アンケート集計報告書・2019 年度』として令和 2 年 3 月に発行した。これは全教員に配布され、これまで通り図書館にも配架して学生にも閲覧可能としている。
- (5) 卒業生・修了生による短大に関するアンケートは、平成 30 年度と令和元年度の卒業生および修了生を対象に実施した。
- (6) ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーをふまえた教育活動の取り組みの適切性を確保するために学外（毛呂山町教育委員会）に点検・評価を依頼した。
- (7) ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーをふまえた教育活動の取り組みの適切性を確保するために、学生参画の自己点検・評価委員会を開催した。
- (8) ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーをふまえた教育活動の取り組みの適切性を確保するために、外部アドバイザー会議を開催した。
- (9) ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーをふまえた教育活動の取り組みの適切性を確保し内部質保証に努めるため、一般財団法人短期大学基準協会による第 3 回目の認証評価を受審した。
- (10) 授業評価アンケート（学習態度）結果の学生自身の活用方法について検討し、看護学科の 1、2 年次生に指導した。
- (11) 授業評価アンケート（臨地実習）を作成し（p.104 参照）看護学科の全学年と専攻科で実施した。
- (12) FD・SD 活動については本誌 p.106-109 を参照。

Check

- (1) 卒業生・修了生による卒業・修了時、卒業・修了後 1 年目の短期大学に関するアンケートの結果（p.27-34 参照）。

①卒業時・修了時の結果は、看護学科も専攻科もすべての項目が3ポイント以上で、概ね良い評価を得ている。

看護学科は平成29年度から評価した理由を学生に記述してもらっている。これにより学生の意識がより明確になった。看護学科でポイントが低かった項目は「科学的思考の基盤、人間と生活・社会の理解」の科目（心理学、社会学、情報学、英語、体育実技等）は役に立った」「当短期大学の施設・設備は充実していた」「3年間の授業は順序立てた構成であり、科目間の関連が理解しやすかった」の3項目が3.4ポイント以下であった。対象学生が異なるので一概に比較することはできないが、前年度と比べ全体的にポイントが下がっている。教務委員やアドバイザーからの科目履修に関する指導によって動機づけが強化され、施設・設備に関しては学習環境整備委員会との連携により、少しずつ設備が整ってきているにもかかわらず、ポイントが下がったのは、学生はまだ満足できる内容ではないと意識していると考えられる。この結果を基に更に改善していく必要がある。

専攻科は前年度と比べ7項目のポイントが下がっている。やはり看護学科同様に対象学生が異なるので一概に比較することはできないが、最も低い項目「助産ケアに必要な知識・技術・態度が身についた」をみると、カリキュラム構築の見直しや授業方法の検討の必要性が示唆された。

②卒業・修了後1年目の調査結果では、看護学科も専攻科もすべて3ポイント以上であった。

卒業・修了時の調査は、看護学科・専攻科ともに集合調査ができたため回収率は高かったが、卒業後・修了後1年目は若干低くなった。同じ学年の卒業・修了時と卒業・修了後1年目の結果を比較してみると、看護学科・専攻科ともに卒業・修了後1年目の方は全体的に若干ポイントが下がっている（専攻科は修了時と修了後1年目の調査項目が異なるので、同一項目で比較した）。これは看護学科のアンケートの自由記載内容から、卒業・修了後は臨床経験の中で視野も広がり、自己をより客観視できるようになったためよりの確な評価になったためではないかと考えられる。

(2)授業評価アンケート集計結果（別冊：学生による授業アンケート集計報告書-令和元年度-参照）

①教員側の集計結果の活用

それぞれの担当科目は70点以上獲得していることから、教員は授業改善に努めていると考えられる。平成28年度から教員個々が担当科目（または単元）の中で最も評価が低かったものについて、その内容を分析し次年度に向けて具体的な改善策を考え指定の用紙に記述し年度初めに学科長、専攻科長に提出している。そして今年度の授業改善計画も立案し提出している。これにより一層の授業改善がなされていると考える。

②学生側の集計結果の活用

授業評価アンケート集計結果（学習態度）を学生が十分活用できていないことが、今年度の学生参画自己点検・評価委員会で課題となった。これをふまえ看護学科では、自己評価した結果を学生自身が分析して記述する用紙（p. 105）を作成し活用法を1、2年次生に指導した。こ

の用紙はアドバイザーへ提出し、内省するだけでなく助言も受けられるようにした。1回目の活用状況からは自己分析の方法についての指導の必要性が示唆された。さらにアドバイザーからの情報も得て、活用の効果を検証していく。

③3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）をふまえた教育活動の適切性

- i. 学外(毛呂山町教育委員会)の評価者より点検を受けた結果、「適切である」との評価を得た。
- ii. 学生参画による点検は昨年度より実施し今年度で2回目であった。看護学科の1、2年次生（3年次生は臨地実習のため欠席）及び専攻科のクラス委員が出席し、自己点検・評価委員と協議した。その結果、「教材の不足」、「設備の改善」、「アドバイザーの指導方法の問題」、「学生自身の授業評価アンケート結果の活用の不足」「ディプロマポリシーの認識不足」等が課題となった。協議の内容は全学掲示板で全学生と教職員に周知した。「教材の不足」、「設備の改善」については学習環境整備委員会との連携で少しずつ改善されている。「アドバイザーの指導方法」については看護学科会議等で教員個々の内省を促しFD活動等を通して改善に努めている。「学生自身の授業評価アンケート結果の活用の不足」については前述した。

また、ディプロマポリシー（学修成果）を意識づけるために作成した「行動のしおり」は、全学生と全教職員が常時携帯しているが、学生自身が自主的に読み合わせすることになっていた件は前期は実施していたが継続されていない。再度、意識づける必要がある。

- iii. 外部アドバイザー会議を随時開催した。卒業後の看護技術の修得度やキャリアアップの状況、離職率等から、教育活動は適切に行われているとの評価を得た。今後も基礎教育と継続教育の連携を密にしていく。
- iv. 一般財団法人短期大学基準協会による第3回目の認証評価を受審した結果は、「適格である」との評価を得た。短期大学の学修成果を具体的に明記した方がよいのではないかとの助言を受け、短期大学のディプロマポリシーから学力の3要素にあわせて学修成果を明確にした。これは教授会の承認を得て、2020年度の学生便覧から記載することになった。さらに、いくつかの課題も明確になったので、各関連委員会や部署と連携し改善に努める。

④授業評価アンケート(臨地実習)実施

これまで実施してきた学生による授業評価アンケート（講義・演習）に加え、今年度から臨地実習用を作成し実施した。

看護学科はどの領域の実習においても「学習環境」、「実習内容・方法」について、多くの学生が高い満足度を示した反面、基礎看護実習Ⅰ・Ⅱ、成人看護実習Ⅰ、老年看護実習Ⅰでは不満と応えた学生も多かった。また、「内容の理解」の項目は満足度が低かった。基礎看護実習Ⅰ、Ⅱは、1,2年次にかけて初めて臨地で学習する科目であること、短期間の実習であること等から、臨地での学習環境や学習方法に慣れるまでに時間がかかり、不満感が残ったのではないかと考えられる。また、成人看護実習Ⅰ、老年看護実習Ⅰは、基礎看護実習と比べ、看護の対象がより複雑

になり、内容も生活行動の援助のみではなく、診療の補助も学習内容となる。このため、基礎看護実習と同様に、学習方法を身につけるまでに時間がかかり不満足感があつたのではないかと考えられる。今後はさらに学習環境を整え、学生が自己の理解度に応じて学習できるような指導方法の工夫が必要である。「学習態度」に関しては、どの領域の科目においても3番目に満足度が高く、やや不満足と応えた学生は0~4名であつた。学生個々が課題への取り組み等、努力している様子が伺える。

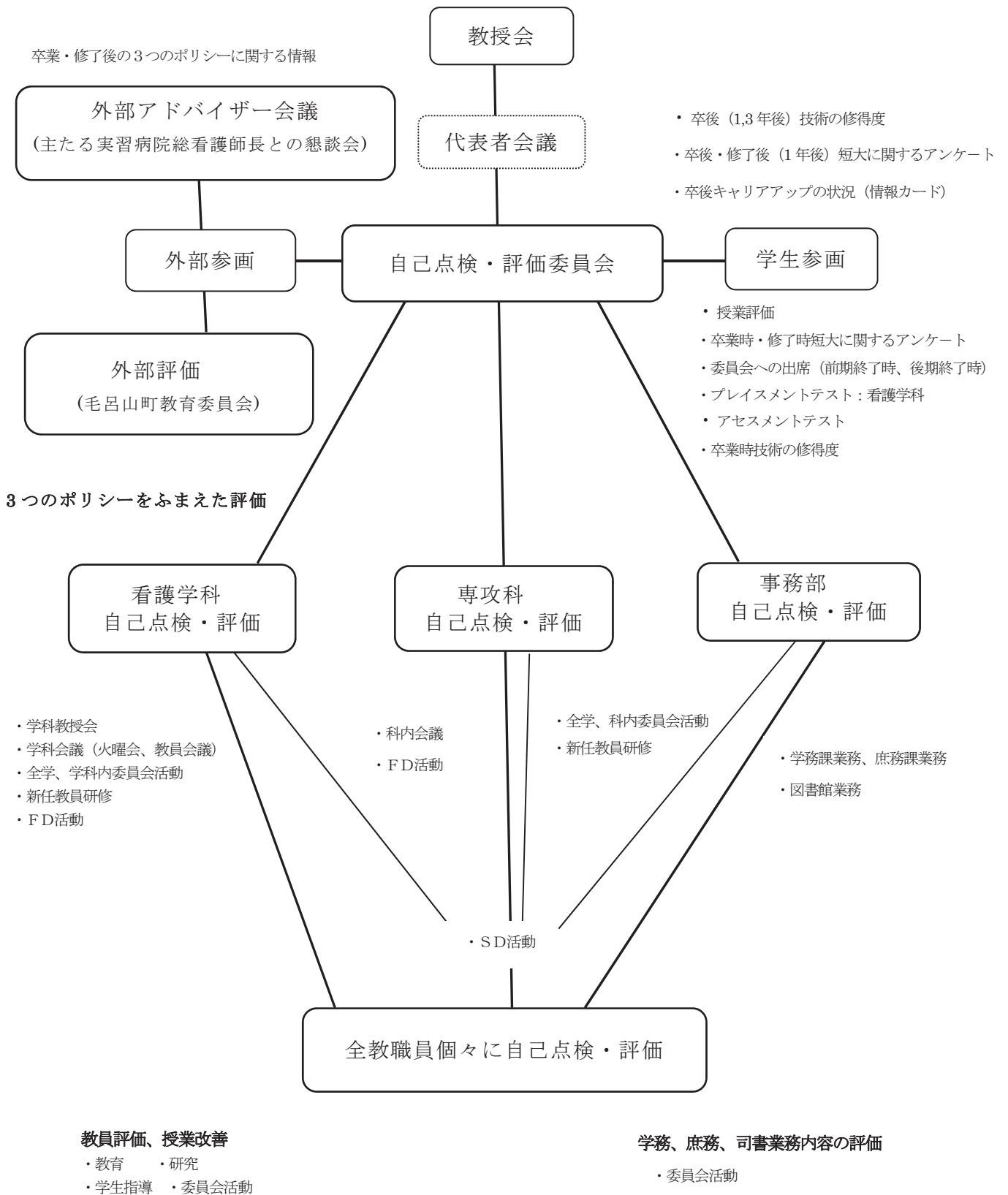
以上の結果は、看護学科会議、教員会議等を通して教員へ周知し、臨地実習環境の整備や指導方法の改善に努める。

専攻科は看護学科と同様に、「学習環境」「実習内容・方法」「学習態度」の順に満足度が高かつた。分娩期援助実習のみ「学習環境」「実習内容・方法」「学生への配慮」の項目で、やや不満足・不満足と応えた学生が5名程度いた。これは、実習期間中に分娩件数が少なく、思うような実習ができにくかつたためではないかと考えられる。今後は、課題である分娩件数、実習期間内に対応できるような実習施設等を検討し環境を整えていく必要がある。

Action

- (1)令和2年度の自己点検・評価報告書を発刊
- (2)令和2年度卒業生・修了生の卒業時・修了時の本学に関するアンケート結果の分析、報告
- (3)平成30年度卒業生・修了生の卒後・修了後1年目の本学に関するアンケート実施、集計、分析、報告
- (4)看護学科は授業評価アンケート集計結果(学習態度)を学生が十分活用できるようにする。また、専攻科は自己評価した結果を学生自身が分析できるような用紙を作成し活用する。
- (5)授業評価アンケート(臨地実習)評価基準 F(該当外)の意味、評価方法について周知できるようにする。
- (6)ディプロマポリシー(学修成果)を学生に意識づけられるようにする。
- (7)3つのポリシーをふまえた教育活動の適切性について学外及び学生参画による点検・評価の実施
- (8)外部アドバイザー会議の充実

【本学における自己点検・評価体制】



2)自己点検・評価の担当部門一覧

平成3年大学審議会答申による自己点検・評価項目について、本学における本年度の担当部門を教授会の議を経て下表のように決定した。なお、どの項目についても事務部が関与・協力するものとする。

自己点検・評価項目	担当部門
1. 教育理念及び目的に関すること 短期大学（学科）の教育理念・目標の設定 教育理念・目標の点検・見直し 短期大学（学科）の将来構想 教育研究の活性化・充実のためのこれまでの取組み	自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科
2. 教育活動に関すること 1)学生の受入れ (1)学生募集・入学者選抜の方針・方法 (2)学生定員充足状況	広報部委員会，入試委員会 入試委員会，事務部
2)学生生活への配慮 (1)奨学金制度・授業料免除の状況 (2)学生生活相談 (3)課外活動 (4)保健管理	事務部，教務委員会 学生部委員会 学生部委員会，各学科 保健管理委員会
3)カリキュラムの編成 (1)カリキュラムの編成方針と教育理念・目標との関係 (2)基礎教育の内容とカリキュラム全体における位置付け (3)専門基礎教育の内容とカリキュラム全体における位置付け (4)専門教育の内容とカリキュラム全体における位置付け (5)カリキュラムの編成及び見直しの方法・体制	学科 学科 学科 学科 学科
4)教育指導の在り方 (1)科目ごとの授業計画の作成状況 (2)カリキュラムガイダンスの実施状況 (3)クラスの大きさ、編成方法 (4)教員1人当たりの授業時間数 (5)各授業科目担当者間での授業内容の調整 (6)演習・実験等の実施状況 (7)視聴覚教育の実施状況 (8)他大学・短大等との単位互換の方針と状況 (9)編入学希望者への指導状況 (10)職業資格取得に係る指導状況・取得状況 (11)進級状況（留年・休学・退学）	教務委員会 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 教務委員会，各学科 各学科 各学科 各学科
5)教授方法の工夫・研究 (1)教授方法の工夫・研究のための取組み (2)教員の教育活動に対する評価の工夫 (3)成績評価・単位認定	自己点検・評価委員会 自己点検・評価委員会 教務委員会
6)卒業生の進路指導 (1)職業指導及び就職状況 (2)卒業生の大学への編入学状況	各学科 各学科
3. 研究活動に関すること 1)構成員による研究成果の発表状況 2)研究誌の発行状況と編集方針 3)共同研究の実施状況 4)研究費の財源 5)研究費の分配方法 6)学会活動への参加状況	各学科 紀要委員会 研究審議委員会 研究審議委員会 研究審議委員会 各学科

4. 教員組織に関すること 1)専任教員・非常勤講師の配置状況 2)教育補助者・研究補助者の配置状況 3)出身大学の構成 4)年齢構成 5)採用・昇進の手順・基準 6)教員の兼職の方針と状況 7)教員人事についての長期計画	各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科
5. 施設設備に関すること 1)施設設備の整備 2)図書館の利用状況 3)学術情報システムの整備・活用状況	事務, 防災委員会 図書館運営委員会 情報ネットワーク委員会
6. 国際交流に関すること 1)留学生の受入れ状況・指導体制 2)在学生の海外留学・研修(研修旅行)の方針と状況 3)教員の在外研究の方針と状況 4)海外からの研究者の招致状況 5)海外の短大との交流協定の締結状況・活用状況	各学科 各学科 各学科 各学科 各学科
7. 生涯学習への対応に関すること 1)公開講座の開設状況 2)生涯学習センターの設置・活動状況 3)社会の生涯学習事業に対する連携協力状況	各学科 各学科 事務
8. 社会との連携に関すること 1)教員の学外活動状況 2)学外の意見を教育研究に反映させる仕組み	各学科 各学科
9. 管理運営・財政に関すること 1)教育研究に関する意志決定の方法・体制 2)事務組織 3)予算の編成と執行の方針と状況 4)学外資金の導入状況	事務部, 研究審議・紀要委員会 事務部 事務部 事務部
10. 自己評価体制に関すること 1)自己評価を行うための学内組織 2)教育研究活動等の公表 3)評価をフィードバックするための仕組み	自己点検・評価委員会, 各学科 自己点検・評価委員会, 各学科 自己点検・評価委員会, 各学科

3)教員評価への取り組み

Plan

平成27年7月より発足した専門部会“教員評価企画部会”は質の高い教育を目指すために、教員が自ら教育活動を見直し、主体的に改善していくとともに、教員の能力を的確に把握することによって、計画的な人材育成を実現し、組織の活性化を図るという教員評価の目的を達成するために活動している。

年間目標：(1)昨年度の活動の評価結果を全教員にフィードバックする。

(2)自己評価、他者評価の総合点の最高得点者1～2名を表彰する。

(3)実施要領の見直しを行いながら引き続き教員評価を実施する。

Do

企画部会は2回開催した。活動した内容は次の通りである。

(1)平成30年度の評価結果を全教員へフィードバックした。

・全教員の評価項目の得点の平均点をグラフ化(p.26)し、全教員に電子メールで配布し説明した。

(2)自己評価と他者評価の総合点の最高得点者2名について“埼短賞”として副賞を添えて表彰した。
(表彰状、図書カード1万円分)

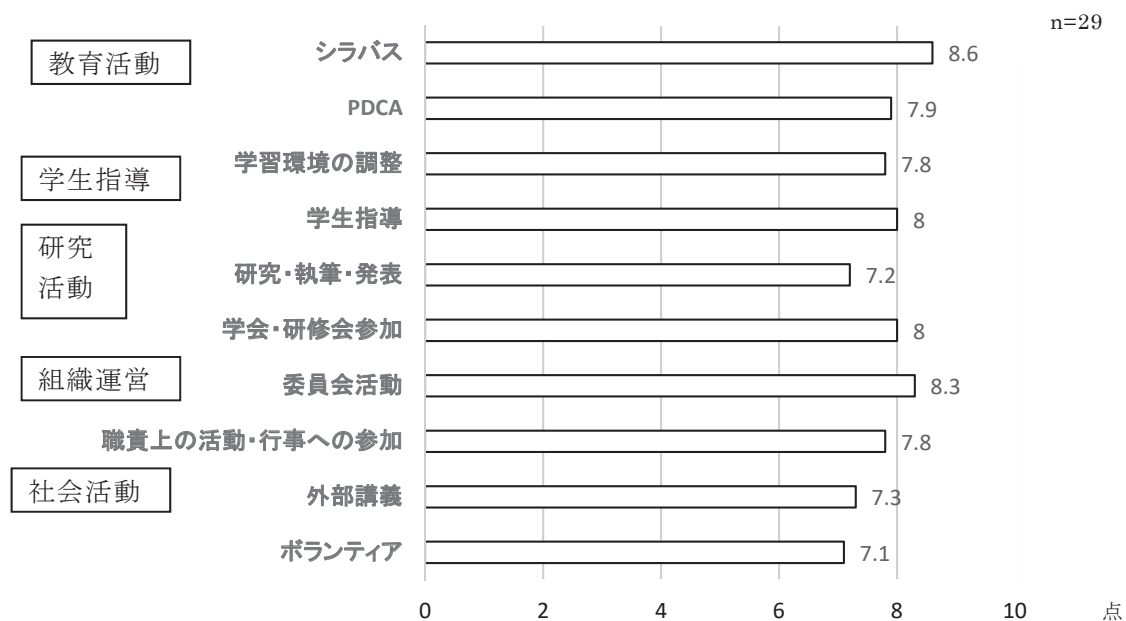
Check

(1)全教員の全項目の平均得点は149.4点(74.7%)の到達度であった。昨年度の平均得点155.8点(77.9%)と比べ若干低くなっている。平成30年度と29年度は教員のメンバーも若干変化しているため、単純に比較することはできないが全体的に若干ダウンしている。教員評価も今年度で4回目になり、評価することに慣れてきたことや、教員自身が成長し自己評価も厳しくなったことから点数が低くなったのではないかと考えられる。昨年度と比べ若干アップした項目は「研究活動」、「社会活動」であった。この中でも大きくアップしたのは「研究活動」の中の“学会・研修会参加”と「社会活動」の中の“ボランティア活動”であった。特にボランティア活動は、昨年度まで平均得点が6点台であったが、今年度は7点以上となり、これで全項目が7点以上となった。業務遂行だけでなく、自己の教育能力の向上や社会活動の必要性等に関する意識が高まってきたのではないかと考えられる。

しかし、基礎学力の低下、生活経験の希薄さからくる技術修得の困難、人間関係がつかれない等の問題を抱える学生が多くなることが考えられ、ますます学生指導に多くの時間を要することが予測される。今後は自己の働き方を見直しながら、限られた時間を有効に活用し、大学教員としての責務である教育研究活動(教育活動、学生指導、研究活動)を中心に、組織運営活動や社会活動も積極的に遂行していく必要がある。

(2)教員評価は職位に応じた活動基準の絶対評価である。毎年、自己評価の高い教員もみられるが、これは授業担当時間数や委員会の役割等から十分活動できたという満足感によるものと考えられる。一次評価後、個別にフィードバックできるように希望者との面接を設定したが、期間内に希望した教員はいなかった。処遇に直接反映されないためか、他者評価の必要性に関する意識が低いのではないかと考える。より客観的に自己の活動内容をふりかえるためにも、フィードバックシステムを積極的に活用できるようにしていく。

自己評価と他者評価の総合点の最高得点者に“埼短賞”を贈ることについては、活動の貢献度に対する顕彰と、さらにモチベーションをアップし、組織の活性化を図るというねらいがある。受賞者のモチベーションにどのような影響を及ぼしているかについての検証が必要である。



平成 30 年度 教員のための振り返りシート集計結果

(3)教員評価の目的の1つである「主体的に教育活動を見直して改善している」の達成度を測定する方法として、今年度も学生の授業評価結果を基に「授業改善策」を全教員が提出した。この結果をみると、教員それぞれが、自己の授業内容を省察しており、工夫しながら授業を実施していることが明確になった。改善策を実施した結果については、自己分析し所定の用紙に記述して提出している。これによりさらに授業改善がなされると考える。

Action

・教員評価の目的・方法をふまえ次の内容を検証していく。

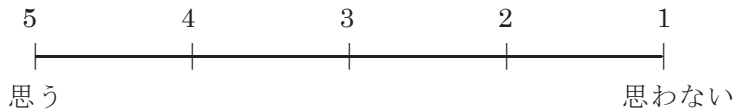
- (1)教員の能力を的確に把握し、計画的な人材育成につながっているか
- (2)組織は活性化しているか
- (3)表彰の効果

4)卒業生・修了生による本学に関する評価

卒業生による当短期大学に関するアンケート 卒業後1年

対象：看護学科 平成30年度卒業生（令和元年5月実施）

目的：当短期大学で学んだこと、身についたことが看護師として働くうえで活かされているか、学習環境・学生生活についてどう感じたかを知り、教育や学習環境に関してさらなる向上を図る。
あなたが卒業した当短期大学に関して、下記の質問に1～5でお答え下さい。



※ I. II. に関して、専攻科および編入学をした方は臨地実習等学習への取り組みについてお答え下さい。

I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。

1. 専門的な知識・技術と共に人間性を育みながら実践している。
2. 看護師として自ら学び、努力している。
3. 他者への労り、奉仕心を持って実践している。
4. 先輩・後輩（学生）とともに学ぶ気持ちを持って実践している。

II. 当短期大学看護学科の「ディプロマポリシー」は現在、身につけていますか。

5. 社会の変化に対する適応力
6. 人間を総合的に理解できる能力
7. 看護師としての自己成長を促す能力
8. 専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力
9. 科学的な思考ができる能力
10. 保健医療福祉チームメンバーとしてその役割を果たす能力

III. 当短期大学看護学科の「学習環境・学生生活」について現在はどのように思いますか。

11. 3年間の授業は順序立てた構成であり、科目間の関連が理解しやすかった。
12. 「科学的思考の基盤」・「人間と生活・社会の理解」の科目（心理学、社会学、情報科学、英語、体育実技等）は役に立っている。
13. 講義、演習、実習の評価は公平だった。
14. 臨地実習の指導体制は今の自分に良い影響を及ぼしている。
15. 短大で身につけた学習方法は役立っている。
16. 教員、司書、事務職員の対応は現在参考になっている。
17. 在学当時の友人と悩みを相談したり励ましあったりしている。
18. 在学中に出会えた看護専門職業人をモデルとして働いている。
19. 卒業後も困った時に教員、司書、事務職員に相談しよう（したい）と思う時がある。
20. 当短期大学の施設・設備は充実していた（教室、図書館、コンピュータ室、実習器具等）。
21. 勉学以外の部活・ボランティア・委員会活動は役立っている。
22. 学生生活は有意義だった。
23. 当短期大学で学べて良かった。

ご協力ありがとうございました。

看護学科

卒業生による当短期大学に関するアンケート集計結果

(卒業後1年:R1.5)

		看護
		卒業者数
		回収数
		回収率(%)
I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。		
1.	専門的な知識・技術と共に人間性を育みながら実践している。	3.8
2.	看護師として自ら学び、努力している。	4.0
3.	他者への労り、奉仕心を持って実践している。	4.1
4.	先輩・後輩(学生)とともに学ぶ気持ちを持って実践している。	3.9
II. 当短期大学看護学科の「ディプロマポリシー」は現在、身につけていますか。		
5.	社会の変化に対する適応力	3.7
6.	人間を総合的に理解できる能力	3.7
7.	看護師としての自己成長を促す能力	3.8
8.	専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力	3.7
9.	科学的な思考ができる能力	3.4
10.	保健医療福祉チームメンバーとしてその役割を果たす能力	3.9
III. 当短期大学看護学科の「学習環境・学生生活」について現在はどう思いますか。		
11.	3年間の授業は順序立てた構成であり、科目間の関連が理解しやすかった。	3.5
12.	「科学的思考の基盤」・「人間と生活・社会の理解」の科目(心理学、社会学、情報科学、英語、体育実技等)は役に立っている。	3.2
13.	講義、演習、実習の評価は公平だった。	3.5
14.	臨地実習の指導体制は今の自分に良い影響を及ぼしている。	3.8
15.	短大で身につけた学習方法は役立っている。	3.6
16.	教員、司書、事務職員の対応は現在参考になっている。	3.6
17.	在学当時の友人と悩みを相談したり励ましあったりしている。	4.2
18.	在学中に出会えた看護専門職業人をモデルとして働いている。	3.7
19.	卒業後も困った時に教員、司書、事務職員に相談しよう(したい)と思う時がある。	3.0
20.	当短期大学の施設・設備は充実していた(教室、図書館、コンピュータ室、実習器具等)。	3.2
21.	勉学以外の部活・ボランティア・委員会活動は役立っている。	3.2
22.	学生生活は有意義だった。	3.8
23.	当短期大学で学べて良かった。	3.9

専攻科修了生による当短期大学専攻科に関するアンケート

対象：平成専攻科 平成30年3月修了生（令和元年5月実施）

目的：当短期大学専攻科で学んだこと、身についたことが助産師として働くうえで活かされているかを知り、教育や学習環境のさらなる向上を図る。

あなたが修了した当短期大学に関して、下記の質問に1～5でお答え下さい。

5：そう思う 4：やや思う 3：どちらとも 2：やや思わない 1：思わない

I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。

1. 知識・技術・態度を活用して助産ケアを実践している。
2. 修了時に明確になった自己の母子看護観・倫理観を持って助産ケアをしている。
3. 助産師として自ら学び、研鑽している（研究、研修会・学会参加、社会貢献等）。
4. 他者への労り、奉仕心を持って常に助産ケアを実践している。
5. 先輩・後輩（学生）とともに学んでいる。

II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。

6. 生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持って行動している。
7. 「助産師の倫理綱領」に沿った行動ができています。
8. 社会情勢の変化を的確にとらえることができています。
9. 生涯学習を行い自己研鑽ができています。
10. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援している。
11. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めている。
12. 科学的思考を持ち総合的に判断している。
13. 社会資源を活用し、他職種と協働・連携ができています。
14. 保健医療福祉チームの一員として連携・協働することができています。
15. 地域貢献の為に、自律的に学習を継続している。

III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。

16. カリキュラムは系統だった。
17. 授業科目は役に立った。
18. 臨地実習の指導体制は整っていた。
19. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。
20. 学生生活は有意義だった。
21. 専攻科で学んでよかった。

修了生による当短期大学に関するアンケート集計結果

(修了後1年:R1.5)

(5:そう思う 4:やや思う 3:どちらとも 2:やや思わない 1:思わない) として点数化		専攻科	
		修了者数	20
		回収数	13
		回収率(%)	65.0
I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。			
1. 知識・技術・態度を活用して助産ケアを実践している。		3.6	
2. 修了時に明確になった自己の母子看護観・倫理観を持って助産ケアをしている。		3.4	
3. 助産師として自ら学び、研鑽している(研究、研修会・学会参加、社会貢献等)。		3.5	
4. 他者への労り、奉仕心を持って常に助産ケアを実践している。		3.7	
5. 先輩・後輩(学生)とともに学んでいる。		3.8	
II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。			
6. 生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持って行動している。		3.7	
7. 「助産師の倫理綱領」に沿った行動ができています。		3.7	
8. 社会情勢の変化を的確にとらえることができています。		3.3	
9. 生涯学習を行い自己研鑽ができています。		3.4	
10. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援している。		3.4	
11. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めている。		3.2	
12. 科学的思考を持ち総合的に判断している。		3.2	
13. 社会資源を活用し、他職種と協働・連携ができています。		3.6	
14. 保健医療福祉チームの一員として連携・協働することができています。		3.7	
15. 地域貢献の為に、自律的に学習を継続している。		3.3	
III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。			
16. カリキュラムは系統だった。		3.5	
17. 授業科目は役に立った。		3.5	
18. 臨地実習の指導体制は整っていた。		3.2	
19. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。		3.8	
20. 学生生活は有意義だった。		3.7	
21. 専攻科で学んでよかった。		3.5	

専攻科修了生による当短期大学専攻科に関するアンケート

対象：専攻科 令和元年度修了生（令和2年3月実施）

目的：修了生から当短期大学専攻科に対する意見を知り、教育や学習環境のさらなる向上を図る。

あなたが修了する当短期大学に関して、下記の質問に1～5でお答え下さい。

5：そう思う 4：やや思う 3：どちらとも 2：やや思わない 1：思わない

I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。

1. 助産ケアに必要な知識・技術・態度が身についた。
2. 自己の母子看護観・倫理観が明確になった。
3. 助産師として自ら学び、努力する姿勢が身についた。
4. 他者への労り、奉仕心が身についた。
5. 同級生とともに学ぶことができた。

II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。

6. 生命に対する畏敬の念と人類愛を持つことができた。
7. 倫理観を持った行動ができた。
8. 社会情勢の変化をとらえることができた。
9. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援することができた。
10. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めることができた。
11. 科学的思考を持ち総合的に判断することができた。
12. 社会資源を活用し、他職種との協働・連携が理解できた。
13. 保健医療チームの一員として連携・協働することができた。
14. 臨床場面で得た母子看護学の課題を研究する姿勢が身についた。

III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。

15. カリキュラムは系統だった。
16. 授業科目は役に立った。
17. 講義、演習、実習の評価は公平だった。
18. 教員、司書、事務職員の対応は適切だった。
19. 当短期大学の施設・設備は充実していた(講義室、図書館、コンピューター室等)。
20. 演習時の物品は充実していた。
21. 臨地実習の指導体制は整っていた。
22. 学内および実習施設で職業人としてモデルになる人に出会えた。
23. 国家試験対策は主体的に取り組めた。
24. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。
25. 学生生活は有意義だった。
26. 専攻科で学んでよかった。
27. 専攻科での1年間は自己成長につながった。

修了生による当短期大学専攻科に関するアンケート集計結果

(修了時：R2.3)

(5：そう思う 4：やや思う 3：どちらとも 2：やや思わない 1：思わない) として点数化	専攻科	
	修了者数	19
	回収数	19
	回収率(%)	100
I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。		
1. 助産ケアに必要な知識・技術・態度が身についた。		4.3
2. 自己の母子看護観・倫理観が明確になった。		4.0
3. 助産師として自ら学び、努力する姿勢が身についた。		4.2
4. 他者への労り、奉仕心が身についた。		4.4
5. 同級生とともに学ぶことができた。		4.4
II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。		
6. 生命に対する畏敬の念と人類愛を持つことができた。		4.3
7. 倫理観を持った行動ができた。		4.2
8. 社会情勢の変化をとらえることができた。		3.9
9. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援することができた。		4.2
10. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めることができた。		4.0
11. 科学的思考を持ち総合的に判断することができた。		3.8
12. 社会資源を活用し、他職種との協働・連携が理解できた。		3.8
13. 保健医療チームの一員として連携・協働することができた。		4.1
14. 臨床場面で得た母子看護学の課題を研究する姿勢が身についた。		3.7
III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。		
15. カリキュラムは系統だった。		3.8
16. 授業科目は役に立った。		4.0
17. 講義、演習、実習の評価は公平だった。		3.9
18. 教員、司書、事務職員の対応は適切だった。		4.1
19. 当短期大学の施設・設備は充実していた(講義室、図書館、コンピューター室等)。		2.9
20. 演習時の物品は充実していた。		3.2
21. 臨地実習の指導体制は整っていた。		4.2
22. 学内および実習施設で職業人としてモデルになる人に出会えた。		4.2
23. 国家試験対策は主体的に取り組めた。		4.3
24. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。		4.3
25. 学生生活は有意義だった。		4.0
26. 専攻科で学んでよかった。		4.4
27. 専攻科での1年間は自己成長につながった。		4.2

II 教育課程と学生支援

1. 教育課程

1) 卒業判定・学位授与、修了認定

看護学科

(1) 卒業要件

授業科目の区分		履修単位	
科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	人文科学	2 単位以上	16 単位以上
	社会科学	2 単位以上	
	自然科学	2 単位以上	
	外国語	4 単位以上	
	体育	1 単位以上	
小 計		16 単位以上	
人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進		14 単位	
健康支援と社会保障制度		7 単位	
小 計		21 単位	
看護の基本	基礎看護学	13 単位 (3)	64 単位以上
ライフサイクルと 生活の場に応じた 看護の方法	成人看護学	12 単位 (6)	
	老年看護学	7 単位 (4)	
	精神看護学	5 単位 (2)	
	在宅看護学	5 単位 (2)	
	小児看護学	5 単位 (2)	
	母性看護学	5 単位 (2)	
看護の総合	看護の総合	12 単位以上 (2)	
小 計		64 単位以上 (23)	
合 計		101 単位以上	

() は実習単位

(2) 資格取得

看護師国家試験受験資格，保健師・助産師学校の受験資格，大学への編入学の受験資格

専攻科 母子看護学専攻

(1) 修了要件

授業科目の区分	履修単位数
専門科目	31 単位以上
合 計	31 単位以上

(2) 資格取得

助産師国家試験受験資格

受胎調節実地指導員認定講習終了資格

新生児蘇生法普及事業における NCPR 講習会（A コース）の受験、申請資格

*上記の資格保有者はインストラクター補助の申請資格

2)学修成果

(1)成績評価

Plan

①各科目担当教員が、シラバスに記載された成績評価方法及び成績評価基準に沿って成績評価を行う。

②シラバスの成績評価方法及び成績評価基準は、各科目の授業内で科目責任者が説明する。

③各科目の成績評価は、S・A・B・C・Dの5段階区分で実施する。S・A・B・Cを合格としDを不合格とする。

Do

計画（Plan）に沿って、各科目の成績評価を行った。

Check

成績評価は、定期試験の他、中間試験やレポート、グループワークや学習態度等、多様な評価方法で行われていた。定期試験不合格者への対応は、再試験やレポート提出等担当教員により様々であった。試験結果により、個別フィードバックや補講を実施する科目もみられた。しかし、個別フィードバックや補講を受講せずに再試験を受験し、成績不振となる学生が一部にみられた。

Action

成績評価は、全体的には多様な評価方法で行われている。今後も、形成的評価の視点からの見直しを継続していく。個別フィードバックや補講に参加しない学生への指導が必要である。シラバスの成績評価方法及び成績評価基準等について、非常勤講師も含めて、授業内で科目責任者が適切に学生に説明できるようにする。看護学科では、令和元年度認証評価受審で課題が明らかになったルーブリック評価表の形式を統一できるよう、継続して検討する。

(2)留年・退学・休学・復学・除籍者数：平成31年4月1日～令和2年3月31日

	留年*			退学			休学			復学			除籍		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
看護学科	0	0	8	9	2	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0
専攻科	0	—	—	1	—	—	0	—	—	0	—	—	0	—	—

*留年は令和元年度末に決定した者

(3) 卒業者数・修了者数（令和2年3月卒業・修了者）

看護学科 卒業者： 101名

専攻科 母子看護学専攻 修了者： 19名

(4) 国家試験合格状況

看護学科 : 看護師国家試験 (平成30年3月～令和2年3月卒業生; 括弧内は合格率%)

	新卒者		既卒者		新卒+既卒		全国合格率
	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	
第107回(平成30年)	115	111(96.5)	7	6(85.7)	122	117(95.9)	(91.0)
第108回(平成31年)	101	100(99.0)	5	1(20.0)	106	101(95.3)	(89.3)
第109回(令和2年)	101	94(93.1)	5	2(40.0)	106	96(90.6)	(89.2)

専攻科 母子看護学専攻 : 助産師国家試験 (平成30年3月～令和2年3月修了者; 括弧内は合格率%)

	新卒者		既卒者		新卒+既卒		全国合格率
	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	
第101回(平成30年)	20	20(100)	3	1(33.3)	23	21(91.3)	(99.4)
第102回(平成31年)	20	20(100)	2	1(50.0)	22	21(95.5)	(99.6)
第103回(令和2年)	19	19(100)	—	—	19	19(100)	(99.4)

(5) 就職状況

看護学科 (令和元年度卒業生 就職状況: 令和2年3月31日現在)

就職先		人数
埼玉医科大学関連病院	埼玉医科大学病院	87
	埼玉医科大学国際医療センター	
	埼玉医科大学総合医療センター	
	埼玉医療福祉会	
外部病院	1	
進学	10	
その他	3	
合計	101	

母子看護学専攻科 (令和元年度修了生 就職状況: 令和2年3月31日現在)

就職先	人数
埼玉医科大学関連病院	11
県内他病産院	4
県外病産院	4
合計	19

(6) 卒業生の大学等への進学状況

看護学科 (令和2年度に進学する者; 令和2年3月1日現在; 学科で把握している者のみ)

進学先	助産師養成	保健師養成	合計
人数	10	0	10

3)教育課程編成・実施

(1) 学年暦 看護学科・専攻科

日時	看護学科	日時	専攻科
4月 1日 (月) 2日 (火) 3日 (水) 4日 (木) 5日 (金) 8日 (月) 13日 (土)	入寮式 (入寮1年) オリエンテーション (1・3年) 入学式 (1年) オリエンテーション (1・2・3年) 模擬試験 防災訓練(1・2・3年) 授業・領域別看護実習開始(3年：11/15まで) ハイキング(1年)	2日 (火) 3日 (水) 4日 (木) 5日 (金) 8日 (月) 13日 (土)	オリエンテーション 入学式 オリエンテーション 防災訓練・オリエンテーション 授業開始 ハイキング
5月 4日 (土) 9日 (木) 10日 (金) 11日 (土) 25日 (土)	創立記念日 健康診断 (1年) 健康診断 (2年) 健康診断 (3年) 第2回オープンキャンパス	9日 (木) 27日 (月) 31日 (金)	健康診断 前期試験 周産期援助実習 (水・金曜日計5回) (31、6/7・14・19・26)
6月 8日 (土)	模擬試験	30日 (日)	第19回日本母子看護学会学術集会参加
7月10日 (水) 13日 (土) 29日 (月) 29日 (月) 31日 (水)	基礎実習 I (1年) 第3回オープンキャンパス 前期授業終了(1・2年) 模擬試験 前期試験開始(1・2年)8/6まで	4日 (木) 9日 (火) 10日 (水) 13日 (土) 23日 (火) 29日 (月)	第1回臨地実習会議 新生児援助実習 (NICU見学実習) (7/12・16・19) 前期試験 第1回オープンキャンパス 第1回模擬試験 地域母子保健実習：8/9まで5施設で1人6日間実施
8月 7日 (水) 12日 (月) 24日 (土)	試験予備期間(1・2年)8/7～10、22・23 夏季休業 (8/21まで) 第4回オープンキャンパス 基礎看護実習Ⅱ①(2年) 9/6まで 後期開始前オリエンテーション	24日 (土)	第2回オープンキャンパス
9月 9日 (月) 9日 (月) 9日 (月) 24日 (火) 28日 (土)	基礎看護実習Ⅱ②(2年) 9/13まで 総合実習(3年) 11/8まで 後期開始前オリエンテーション(1年) 後期授業開始 模擬試験	9日 (月) 17日 (火)	前期試験開始 9/10まで 後期実習開始 12/13まで 〔産期援助実習 分娩期援助実習 新生児援助実習 助産管理実習
10月5日 (土) 19日 (土)	遙光祭 第5回オープンキャンパス 模擬試験	5日 (土) 11日 (金)	遙光祭 第60回日本母性衛生学会参加
11月16日 (土)	戴帽式	20日 (木)	第2回模擬試験 第3回模擬試験(希望者10名のみ)
12月 6日 (金) 13日 (金) 16日 (月) 25日 (水)	模擬試験 後期授業年内終了 基礎看護実習Ⅰ (1年) 12/20まで 冬期休業 1/3まで	16日 (月) 23日 (月)	延長実習(1名) 2/7まで 冬季休業開始
1月 6日 (月) 7日 (火) 10日 (金) 27日 (月) 31日 (金)	後期授業開始 模擬試験 模擬試験 模擬試験 看護後期授業終了	6日 (月) 8日 (水) 20日 (月) 21日 (火) 24日 (金)	始業 第4回模擬試験 後期試験 補講期間1/23まで 第5回模擬試験
2月 1日 (土) 3日 (月) 10日 (月) 16日 (日) 19日 (水)	補講 後期定期試験 2/8まで 試験予備期間 2/18まで 第109回国家試験 学年度末休業 3/31まで	13日 (木)	第103回助産師国家試験
3月 7日 (土) 19日 (木)	卒業式 第109回看護師国家試験発表	7日 (土) 19日 (木)	修了式 第103回助産師国家試験合格発表

(2) 授業科目一覧

① 看護学科 授業科目

授業科目の区分		単位数		内 訳			学年配当時間						
		必修	選択	講義	演習	実 習	1 年次		2 年次		3 年次		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	
科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	人文科学	哲 学		2	○					30			
		心理学 I		2	○					30			
		心理学 II		1	○						15		
		論 理 学		2	○					30			
		文 学		2	○					30			
	社会科学	社 会 学		2	○			30					
		法 学		2	○						30		
		教 育 学		2	○			30					
		統 計 学		2	○				30				
	自然科学	物 理 学		2	○			30					
		化 学		2	○			30					
		生 物 学		2	○				30				
		情報科学		2	○				30				
	外国語	英語 I	2			○		30	30				
		英語 II		2		○				30	30		
		ドイツ語		2		○				30	30		
	体育	体育実技 I	1					30					
		体育実技 II		1						30			
	小 計		3	30				180	120	210	105		

(看護学科)

授業科目の区分		単位数		内 訳			学年配当時間					
		必修	選択	講義	演習	実技 実習	1年次		2年次		3年次	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期
疾病の成り立ちと回復の促進 人体の構造と機能	解剖学	2		○			30	30				
	生理学	2		○			30	30				
	生化学	1		○			30					
	微生物学	1		○			30					
	薬理学	1		○				30				
	病理学	1		○				30				
	疾病総論	1		○				30				
	疾病治療論Ⅰ (成人・老年)	1		○					30			
	疾病治療論Ⅱ (成人・老年)	1		○						30		
	疾病治療論Ⅲ (成人・老年)	1		○				30				
	疾病治療論Ⅳ (成人・老年)	1		○					30			
	成育医療論	1		○					30			
社会保障制度 健康支援と	公衆衛生学	2		○					30			
	社会福祉	2		○						30		
	関係法規	1		○						15		
	健康と栄養	1		○			15					
	健康と運動	1		○				15				
小 計		21					135	195	120	75		

(看護学科)

授業科目の区分			単位数		内 訳		学年配当時間							
			必修	選択	講義	演習	実技	実習	1年次		2年次		3年次	
									前期	後期	前期	後期	前期	後期
看護の基本	基礎看護学	看護概論	2		○			30						
		看護の方法Ⅰ	2		○			60						
		看護の方法Ⅱ	2		○			52	8					
		看護の方法Ⅲ-1	2		○				60					
		看護の方法Ⅲ-2	1			○				30				
		看護の方法Ⅳ	1			○				30				
		基礎看護実習Ⅰ	1				○	5	40					
		基礎看護実習Ⅱ	2				○			90				
ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法	成人看護学	成人看護概論	1		○			15						
		成人看護Ⅰ	2		○				60					
		成人看護Ⅱ	1		○					30				
		成人看護技術Ⅰ	1			○				30				
		成人看護技術Ⅱ	1			○							30	
		成人看護実習Ⅰ	3				○					135		
		成人看護実習Ⅱ	3				○					135		
	老年看護学	老年看護概論	1		○				15					
		老年看護Ⅰ	1		○					30				
		老年看護Ⅱ	1		○					30				
		老年看護実習Ⅰ	2				○					90		
		老年看護実習Ⅱ	2				○					90		
	精神看護学	精神看護概論	1		○				15					
		精神看護Ⅰ	1		○					30				
		精神看護Ⅱ	1		○					30				
		精神看護実習	2				○					90		

(看護学科)

授業科目の区分		単位数		内 訳			学年配当時間					
		必修	選択	講義	演習	実技	1年次		2年次		3年次	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期
ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法	在宅看護学	在宅看護概論	1		○				15			
		在宅看護	2		○					60		
		在宅看護実習	2				○					90
	小児看護学	小児看護概論	1		○			15				
		小児看護Ⅰ	1		○				30			
		小児看護Ⅱ	1		○					30		
		小児看護実習	2				○					90
	母性看護学	母性看護概論	1		○			15				
		母性看護Ⅰ	1		○				30			
		母性看護Ⅱ	1		○					30		
		母性看護実習	2				○					90
	看護の総合	看護倫理	1		○			15				
コミュニケーション論		1			○		30					
生涯発達論		1		○			15					
看護管理		1		○					15			
生活習慣と看護		2		○			30					
災害・救急看護		2		○					30			
社会活動			1		○		30					
国際医療福祉事情			1		○			4	26			
看護学セミナー		1			○				30			
看護研究			1		○						45	
総合実習		2				○					90	
小 計		63	3				207	243	349	341	810	165
合 計		87	33				522	558	679	521	810	165

②専攻科 母子看護学専攻 授業科目

区分	授業科目	単位数		内訳			学年配当時間	
		必修	選択	講義	演習	実習	前期	後期
専 門 科 目	助産学概論	1		○			15	
	助産形態・機能学	1		○			30	
	母子健康管理学	1		○			15	
	母子栄養学		1		○		30	
	性行動科学	1		○			15	
	母性の心理・社会学	1		○			15	
	家族社会学	1		○			15	
	乳幼児保健学	1		○			15	
	妊娠期の助産診断・技術学	2		○			45	
	分娩期の助産診断・技術学	3			○		60	
	産褥期の助産診断・技術学	2			○		45	
	新生児診断学	1		○			30	
	生殖医学の生理と病理	1		○			30	
	周産期援助実習		2			○	90	
	分娩期援助実習	6				○		270
	新生児援助実習		1			○		45
	出産前教育実習		1			○	45	
	地域母子保健学	1		○			15	
	地域母子保健実習	1				○		45
	助産管理	2		○			30	
助産管理実習	1				○		45	
母子看護学研究Ⅰ（基礎）	1			○		30		
母子看護学研究Ⅱ（応用）		2		○		60		
合計		28	7			1,035		

(3) シラバスの作成状況

Plan

- ①令和2年度シラバスの編集と発行を行う。
- ②学生の主体的で効果的な学習に役立てられるように記載事項を見直す。
- ③シラバス作成上の注意点の周知をはかる。

④シラバス検討小委員会で、全科目の記載内容の確認を行う。

Do

- ①教務委員会およびシラバス検討小委員会が連携し、令和 2 年度シラバスの編集と発行を行った。
- ②記載事項を見直し、令和 2 年度シラバスは、実務経験のある教員を記す、グループワークを実施する場合は該当回の欄に明記する、履修に当たっての心構えと要望に 2 年次 3 年次の望ましい GPA 値を記載することとした。以上も含め、看護学科と専攻科の記載内容を統一することとした。
- ③令和 2 年度シラバス作成 FD 活動を、全教職員を対象として令和元年 12 月 19 日に実施した。
- ④シラバス検討小委員会で、全ての科目の記載内容（用語の統一、必要事項の記載の有無等）をシラバス掲載原稿チェックリストを用いて確認した。

Check

シラバスの編集作業は、12 月に全教員参加の FD を開催して周知を徹底すると共に、参加教員からの意見・質問を参考に記載事項を再検討した。原稿提出は共有ファイルを活用した。シラバス検討小委員会で確認したところ、科目に記載事項の不足や訂正の必要性が認められ、科目責任者に追加・修正してもらった。原稿修正、印刷依頼等は、計画通りに進めることができた。

Action

学生の主体的で効果的な学習に役立てられているか、学生の学習への取り組みや学習成果を、自己点検・評価委員会で実施している授業評価アンケート結果を把握しながら、科目担当教員と連絡調整をはかり、シラバスの内容を検討していく必要がある。

(4) 教育指導

看護学科

①カリキュラムに関する計画と実施状況

Plan

- i. カリキュラムの見直し
- ii. カリキュラムの運用
- iii. 時間割作成の見直し
- iv. 看護実践力の実態把握（卒業時、1 年後、3 年後に調査）
- v. 「教育課程（2009 年 4 月 1 日実施）」の見直し

Do

- i. カリキュラムの見直し

本学は、平成元年 4 月開学時のカリキュラムの卒業要件は 103 単位以上の修得であった。その後、平成 9 年度の改正、平成 11 年度一部改正、平成 15 年度の改正、平成 19 年度一部改正、平成 20 年度の改正の 5 回にわたりカリキュラムの改正を行ってきた。平成 20 年度改正（平成 21 年度から実施）の現行カリキュラムの卒業要件は 101 単位であり、指定規則と本学の教育

内容の対比の概要は、下記の表に示す（詳細については、平成 21 年度～平成 26 年度自己点検・評価報告書を参照）。

指定規則		本学
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	科学的思考の基盤，人間と生活・社会の理解
専門基礎 分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能，疾病の成り立ちと回復の促進
	疾病の成り立ちと回復の促進 健康支援と社会保障制度	健康支援と社会保障制度
専門分野Ⅰ	基礎看護学（臨地実習を含む）	看護の基本（臨地実習を含む）
専門分野Ⅱ	成人，老年，小児，母性， 精神看護学 （それぞれ臨地実習を含む）	ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法 （成人・老年・小児・母性・精神・在宅看護学） （それぞれ臨地実習を含む）
統合分野	在宅看護論 看護の統合と実践 （それぞれ臨地実習を含む）	看護の総合 （臨地実習を含む）

ii. カリキュラムの運用

今年度も、授業科目の内容と順序についての基本的な考え方をふまえたカリキュラム編成（詳細は、平成 21 年度～平成 26 年度自己点検・評価報告書を参照）で運用した。選択科目の履修人数と受講状況を確認した。看護学セミナーは、領域ごとに開講するため、昨年度に引き続き学生選択の方法と領域別の履修人数を再確認した。

iii. 時間割作成の見直し

時間割は、科目の内容と順序性をふまえ、定められた学年ごとの配当時間にそって作成した。月曜日から金曜日まで 90 分授業で、9:00～16:10 までに 4 時限の授業を組み入れた。原則として、5 時限目はクラブ活動、土曜日は自己学習ができる時間とした。しかし、令和元年度も一部の科目で非常勤講師の都合により、5 時限目の講義や後期の土曜日に集中講義を実施した。

iii. 看護実践力の実態把握

平成 26 年度に「看護技術の教育・指導の概要と到達度」の一覧を、文科省の看護師教育の技術項目と卒業時の到達度を基に見直した。それまでの 7 領域別の技術到達度を、平成 21 年度実施の現行カリキュラム編成の区分に合わせて、「看護の基本」の到達度、「ライフサイクルと生活の場に応じた看護」「看護の総合」の卒業時の到達度について、それぞれⅠ：単独でできる、Ⅱ：指導のもとで実施できる、Ⅲ：学内演習で実施できる、Ⅳ：知識としてわかる、の

4段階で示した。平成24年度卒業生から卒業時に調査を実施している。今年度も卒業時、及び卒業後1年と3年の調査を行った。

iv. 「教育課程（2009年4月1日実施）」の見直し

「教育課程（2009年4月1日実施）」（以後、「教育課程」とする）を平成29年度には看護学科の三つの方針の明確化、各科目の概要等を追加・修正した。昨年度からHP上に三つの方針を掲載している。「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」の選択科目の「法学」を今年度より1年次後期開講に変更した。

Check

今年度も、看護実践力の実態調査（卒業時・1年後・3年後）の結果や各学年で行ったアセスメントテストの結果等をふまえて、カリキュラムについて見直しを行った。

カリキュラムの現状、及び運用、時間割作成の現状と見直しについては、計画に沿って適時検討した。「看護学セミナー」は全ての領域で開講した。7領域で履修者の人数を調整し、2回の選抜で学生を決定した。3年次の「看護研究」は、今年度から指導體制を見直し、全教員が領域の枠を超えて各3名で1組の研究を指導することとした。しかし、学生1組の指導教員3名ではスケジュール調整が難しかった。1年次後期の時間割が過密のため見直しをしたが、卒業要件の単位等で現段階では調整が難しく現行のままとした。

Action

- i. カリキュラムの定期的な見直し（選択科目の履修者数の見直しと履修状況、前期・後期の科目変更等）は継続課題である。
- ii. 看護学科の三つの方針とそれに基づくカリキュラム構造を教員と学生が相互に理解し、学生が主体的に学習に活用できるよう、周知方法を更に工夫する。
- iii. 看護実践力の実態把握（卒業時、1年後、3年後に調査）、アセスメントテスト結果の把握、学生の学習状況の評価等を継続し、カリキュラムの見直しに活用する。
- iv. 2022年度カリキュラム改正に向けた情報収集と検討を、具体的に進める必要がある。

② 初年次教育

Plan・Do

目的：入学前の学習や生活から、能動的な学習活動と自律した学生生活に円滑に移行する。

目標：1. 大学で学ぶ意義を理解し、計画的に学習する習慣を身につける。

2. 大学で学ぼうえで必要な基本的読解力、文章力、表現力、情報収集力を身につける。

3. 将来をイメージし、学習意欲をもつ。

4. 卒業までの学習の見通しを立てる。

5. ルールやマナーを守り、社会人としての自覚と責任をもち行動する。

6. 自ら他者と関わり、人間関係を構築する。

プログラム：

回	月/日(曜)時限	内容	回	月/日(曜)時限	内容
1	5/13(月)2 限	初年次教育の概要	6,7	7/ 2(火)1,2 限	看護師に必要な接遇
2	5/27(月)2 限	大学生活と大学の授業	8	7/19(金)2 限	学習活動と学生生活
3	6/14(金)2 限	レポートの書き方①	9	9/ 9(月)1 限	レポートの書き方②
4	6/21(金)2 限	文献検索の方法	10	11/27(水)2 限	中間 PDCA
5	6/28(金)2 限	私が目指す看護師像	11	2/19(水)1 限	最終 PDCA

Check

個々に目標を設定し評価したことで、自己の課題を明確にしていた。他のプログラムへの学生の参加状況と取り組みは概ね良好であった。しかし、授業時間外の限られた時間で6つの目標を達成することは困難である。学生のリアクションシートには文献の活用やレポート作成が苦手であるという記載が多かった。プログラムの内容と委員会、アドバイザー等での学習・生活指導と重複していることがあるため、様々な場面で学生は同様の自己評価を求められ、混乱している現状もある。よって、それぞれの取り組みを整理する必要があると考えた。

Action

初年次教育の目標 1, 2 を学習スキル、とくに「聴く・読む・調べる・まとめる・書く」に焦点化する。講義を聴きノートにまとめる力、教科書を読む力、図書館で文献を探す力、レポートを書く力が身につくことを目標としたプログラムを構成する。プログラムは前期に集中させ、各授業に即活用できるようにする。目標 3, 4, 5, 6 は担当者を明確にして、目標達成できるような取り組みを行う。2022 年度のカリキュラム改正時に、初年次教育の科目を整理することを検討する。

専攻科 母子看護学専攻

①カリキュラムに関する計画と実施状況

Plan

- i. カリキュラムの確認
- ii. カリキュラムの運用と科目進捗の見直し
- iii. 助産師に求められる実践能力と到達状況の確認

Do

- i. カリキュラムの確認

本学専攻科のカリキュラムは、すべての女性と子どもの健康的な生活を支援するための知識とケアの実践能力さらに地域社会に貢献できる助産師を養成できるよう編成し、さらに高度周産期医療に対応できる知識を修得できるようにしている。

現在のカリキュラムは、平成 24 (2012) 年度の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部変更(基礎助産学：6 単位、助産診断・技術学：8 単位、地域母子保健：1 単位、助産管理：2 単位、臨地実習：11 単位—合計 28 単位：930 時間以上とする)に伴い変更が加えられたものである。また、短期大学の修了要件の 31 単位を網羅した内容が履修できるように必修単位を 28 単位、選択を 7 単位で編成している。その内訳は基礎助産学：11 単位、助産診断・技術学：8 単位、地域母子保健学：1 単位、助産管理：2 単位、臨地実習：12 単位の必須科目と選択科目(「専攻科授業科目」参照)である。さらに、昨年度同様に、修了時に申請可能な資格として「受胎調節実地指導員認定講習」(平成 26 年埼玉県申請承認)の内容を授業内容に盛り込み、さらに助産師国家試験の出題頻度の高い新生児蘇生法に関する内容を「新生児診断学」の中で展開しており、昨年度に比較し大きな変更はない。

ii. カリキュラムの運用と科目進捗の見直し

高度周産期医療に対応できる人材の育成を図るために、今年度より麻酔分娩についての学習内容を「助産形態・機能学」に設けた。さらにケアの実践能力を高めるために正常分娩のみならず帝王切開を受ける対象のケアを「周産期援助実習」の中で展開できるように計画した。

前年度に引き続き、助産学を系統的に学習できるよう、知識の習得として助産診断学に関する学科目の殆どを前期に集中させ、後期の 9 月から 12 月に助産学実習(臨地実習)を配置して知識の統合学習が効果的に図れるようにした。また通年科目として、助産学概論、母子看護学研究Ⅱ、助産管理、周産期援助実習を展開し、助産師としてのアイデンティティを常に意識し育め、研究的視点に基づき助産を実践できる人材を育成できるよう計画している。自己学習の時間的配慮として、前期には月曜日から金曜日までの 1 限から 4 限で授業を組むように計画し、後期の臨地実習は国家試験のための自己学習に取り組めるように 12 月上旬(延長しても 12 月中旬)までにすべての実習科目を終了できることを計画した。

iii. 助産師に求められる実践能力と到達状況

本年度も「助産師教育に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」に示された教育内容を網羅できるように講義、演習、実習を展開した。特に学内の学習では、臨地実習では実践できない会陰切開および裂傷に伴う縫合技術と緊急時の処置である新生児蘇生を演習として計画した。また【新生児蘇生法講習会(NCPR)「専門コース(Aコース)」】については、受講者全員が修了認定証を取得できることを目指した。さらに今年度も修了前に「助産師教育に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」についてアンケート調査を計画した。

Check

i. 実施したカリキュラムについて

本学の教育理念・目的・目標に照らして、ほぼ沿った内容になっていると考える。特に麻酔分娩の知識と帝王切開時のケアについては、全員が経験し学習を深めることができた。

ii. カリキュラムの運用と科目進捗の見直しについて

前期科目の進捗は、必ずしも周産期のメカニズムに応じた順序性にそったものではなかったが、

随時アドバイスをを行ったことで、混乱はなかったと考える。助産師養成指定規則に示されている一人あたり 10 例程度の分娩介助が確保できるように、法人内施設の医大病院、総合周産期母子医療センターをはじめとする県内の病院（5 施設）と同じく県内の診療所（2 施設）の計 7 施設を確保し予定している実習期間内に終了できるように臨んだが実習期間内に要件を満たすことはできなかった。また「地域母子保健実習」については実習施設の受け入れ状況により夏季休業中に展開した。

後期の助産学実習では各施設の分娩状況進捗にバラツキを生じた。分娩介助例数 10 例を一番早く達成した学生は 11 月 16 日、一番遅かった学生は国家試験終了後に 10 例目を到達した。分娩介助状況に左右されてしまうため、十分な休息と学習時間の確保に課題が残る。

iii. 助産師に求められる実践能力と到達状況について

修了時に実施した「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」を用いたアンケート調査は、①母子の生命の尊重 ②妊娠期の診断とケア ③分娩期の診断とケア ④産じょく期の診断とケア ⑤出産・育児期の家族ケア ⑥地域母子保健におけるケア ⑦助産業務管理⑧ライフステージ各期の生と生殖のケア ⑨助産師としてのアイデンティティの形成の 9 つである。課題となっていた「⑧ライフステージ各期の生と生殖のケア」については、一般的な知識の認知に留めず、医療従事者の視点で支援方法を学習できるように変更したことで、到達度が前年度よりも上昇していた。

Action

- ・現行カリキュラムは、令和 4（2022）年度に改正される予定である。保健師助産師看護師学校養成所指定規則の変更に伴う資料を熟読し、本学専攻科のポリシーに沿うカリキュラム設計をしてゆきたい。
- ・県内の周産期医療の環境変化は、本学専攻科の教育にも正常分娩の確保困難という形で学習進捗に影響しつつある。分娩介助実習を 12 月下旬迄に学生 20 名（200 例）を確保することために、実習施設の確保や実習期間の拡大、学生配置と夜間実習の調整等を図ることが課題である。

②授業について

Plan

- i. 授業展開の工夫、教授法の検討、教材の工夫
- ii. 授業の調整、非常勤講師との連携
- iii. 演習の調整、準備、実施
- iv. 学習マニュアルの作成、学内教員の連携
- v. 学習支援、国家試験対策

Do

- i. 授業展開の工夫、教授法の検討、教材の工夫

助産師に求められる実践能力を身につけるために適切に助産診断を行うことが求められる。

そのため診断に必要な知識として基礎助産学を系統的に学び、学生の学びのプロセスに合わせ助産診断・技術学での紙上事例を用いたグループワーク演習や技術演習を計画した。非常勤講師の専門性の高い講義は、講義資料を事前に配布し、事前学習や講義の中で使うスライドに動画やDVDを用い内容を深めることができた。使用する教材を事前に確認し、スムーズに講義を進めることができた。

ii. 授業の調整、非常勤講師との連携

多くの非常勤講師がおり、講義内容の確認や連絡・調整を行った。遠方から来校する講師の時間調整と学生の学習効果を考え、川越クリニックをサテライトキャンパスとして活用した。また、講義に使う参考書等学生がいつでも活用できるよう図書室で購入してもらい調整した。

演習では、「会陰切開及び裂傷に伴う縫合技術」、「新生児蘇生法講習会（NCPR）」、「調理実習」を行うために講師や業者を含めた事前調整を密に行い、授業を展開した。

なお、2019年度の専任教員及び非常勤講師を下記に示す。

専任教員	非常勤講師	
教授1	法人内	法人外
講師2	29	12
助教1		
4	41	

iii. 演習の調整、準備、実施

助産診断・技術学は「診断技術」と「助産技術」に分類される。学習マニュアルを活用して基礎助産学の授業進度に合わせ、妊娠期のペーパーペイシェントによる助産過程と保健指導技術（個別指導）の展開を行い、分娩期、産褥期・新生児期、新生児訪問と進めた。グループごとにそれぞれの事例をディスカッションし、最終的に修正された内容を臨地実習で応用して活かせるように工夫した。分娩期における介助技術は、教員がデモンストレーションを行い学生がイメージし、基本技術を学んだ。そして全教員が学生一人一人の技術を確認した上で、実習に臨むよう取り組んだ。本学専攻科では、新生児蘇生法講習会「専門コース（Aコース）」（5時間）への変更を行い、今年度は17名が受講した。

iv. 学習支援、国家試験対策

入学時オリエンテーションで国家試験に向けたガイダンスを組んだ。ガイダンスでは、国家試験までの心構えと2020年2月の国家試験をイメージするため第102回助産師国家試験問題を解いた。さらに、入学時アセスメントテストを実施し、既存の学習を振り返り課題を明確にした上で講義に参加してもらうようにした。実習前には、学習成果を確認するためアセスメントを実施して臨んだ。

国家試験対策委員会を中心に年間計画として模擬試験の日程を決定した。今年度は、模擬試験を実習前に1回と実習終了から1月末までに合計5回実施した。そして、補習講義として1月に「助産形態・機能学」、「母子健康管理学」、「新生児診断学」の3科目を行った。第103回助産師国家試験は2019年2月13日に実施され、発表は2019年3月19日であった。

Check

講義と演習の殆どが4～7月に集中的に開講しており、学生は、入学したばかりで他者とのコミュニケーションもうまくとれていない状況である。グループワーク学習や技術演習を効果的に進めるための対策が必要である。グループワーク演習や技術演習は、即実習に活かすべき学習内容である。学生の状況として演習内容を実習に活かすことはできているもの対象に合わせた内容になっているとは言い難い。実習場面での助産過程の展開や技術は、学内演習を振り返りながら実践していくことが必要である。

新生児蘇生法講習会においては、受講者が試験に合格し、認定資格の手続きを行うことができた。

Action

学生全員が看護師国家資格を有する学生である。しかし、基本的な知識や技術が十分でないまま入学している現状がある。グループ演習や技術演習を臨地実習で即実践にいかせるようにしたい。そのために入学時に基本的な技術(ガウンテクニック等)について習得状況を確認する。そして、講義時間が有効に活用できるようにしていく必要がある。分娩介助技術の基本的技術は、講義時間と自己学習を行い確実に習得する。そして技術を習得した上で実習に臨む必要がある。

知識は、入学時のアセスメントテストも活用し、確かな知識を持ち基礎助産学を学び助産診断・技術学に活かしていく。助産過程の展開は、実際に反映するため記録のしかたを共通認識することも課題である。学習のベースとなる学習マニュアルを全教員が理解し、活用することで学生の理解を深めることができると考える。学生が事前に学習内容を理解し主体的・積極的に準備をすることでグループワークを効果的な学習にできるようにする。

本学専攻科は修業年限が1年であることから入学から国家試験までの期間は短く過密であり、より効果的な指導が求められる。学習マニュアルを活用し、机上の学習と実習を結びつけ学習を高めていく必要がある。

(5) 他大学・短期大学との単位互換

Plan

短期大学設置基準16条に定める入学前の既修得単位の認定は、学則19条により、看護学科は全ての科目を対象として、一人46単位を上限として行う。

Do

新入生に対し、短期大学学位規則4. 既修得単位認定規則に則り、認定手続きを行った。

Check

令和元年度は、新入学生1名、合計4単位の既修得単位認定の申請があり、必要な手続きを経て、全て認定された。

Action

次年度、申請があった場合は、学則に則り認定を行う。

(6) 専任教員・非常勤教員一覧

①基礎教育

兼任・非常勤

講師	橋爪 大輝	哲学	
講師	佐藤 礼子	心理学Ⅰ・Ⅱ	埼玉医科大学 神経医学教室
講師	田村 慶一	論理学	
講師	丸木 洋子	文学	
講師	牧野 修也	社会学	
講師	今出 和利	法学	
講師	矢島 伸男	教育学	
講師	山本 雅義	統計学, 物理学	
講師	土田 敦子	化学	埼玉医科大学 教養教育
講師	山崎 芳仁	生物学	埼玉医科大学 教養教育
講師	有田 彰	情報科学	
講師	荻原 利彦	情報科学	
講師	種田 佳紀	英語Ⅰ・Ⅱ	埼玉医科大学 教養教育
講師	リウ・サントス	英語Ⅰ	
講師	スティーブン・マーク・オトゥール	英語Ⅰ・Ⅱ	
講師	高橋 幸	英語Ⅱ	
講師	林 禅之	英語Ⅱ	
講師	市岡 正適	ドイツ語	
講師	森 史枝	体育実技Ⅰ・Ⅱ	

②看護学科

専任

教授	所 ミヨ子	基礎看護学
教授	田村 直俊	疾病総論, 疾病治療論Ⅰ・Ⅱ, 成育医療論
教授	久保 かほる	成人看護学
教授	平良 朝子	老年看護学
教授	霜田 敏子	小児看護学
教授	今野 葉月	基礎看護学
教授	浅見 多紀子	成人看護学
准教授	蒲生 澄美子	基礎看護学
准教授	内田 貴峰	母性看護学
准教授	瀧山 文恵	老年看護学

准教授	秋山 千恵子	成人看護学
講師	鈴木 夕岐子	成人看護学
講師	宮崎 素子	基礎看護学
講師	勝久 淳	精神看護学
講師	清水 百子	基礎看護学
講師	小池 啓子	基礎看護学
助教	佐藤 菜穂美	成人看護学
助教	海野 文子	在宅看護学
助教	渡邊 あゆみ	精神看護学
助教	榎本 佑美	基礎看護学
助教	加藤 久栄	小児看護学
助教	石川 裕貴	母性看護学
助教	秋山 佑紀	成人看護学
助教	布施 好朗	小児看護学
助教	加藤 穂高	基礎看護学
助教	持田 奈穂美	老年看護学
助教	杉本 真弓	成人看護学
助教	増田 睦美	母性看護学

兼任・非常勤

講師	小島 龍平	解剖学	埼玉医科大学 保健医療学部
講師	内田 康子	生理学	埼玉医科大学 保健医療学部
講師	有田 彰	生理学	
講師	仁科 正美	生化学	埼玉医科大学 中央研究施設 実験動物部門
講師	平賀 千兼	微生物学	埼玉医科大学短期大学 名誉教授
講師	周防 諭	薬理学	埼玉医科大学 薬理学
講師	淡路 健雄	薬理学	埼玉医科大学 薬理学
講師	吉川 圭介	薬理学	埼玉医科大学 薬理学
講師	柳下 楠	薬理学	埼玉医科大学 薬理学
講師	安田 政実	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	浜田 芽衣	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	小路口 奈帆子	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	佐藤 次生	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	篠塚 望	疾病治療論Ⅲ・Ⅳ	埼玉医科大学病院 消化器・一般外科
講師	井口 篤志	疾病治療論Ⅲ	埼玉医科大学国際医療センター 心臓血管外科
講師	前山 昭彦	疾病治療論Ⅲ	埼玉医科大学病院 麻醉科

講師	藤巻 高光	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学病院 脳神経外科
講師	小林 正人	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学病院 脳神経外科
講師	梶原 健	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	朝倉 博康	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学病院 泌尿器科
講師	門野 夕峰	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学病院 整形外科・脊椎外科
講師	亀井 良政	成育医療論	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	難波 聡	成育医療論	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	高橋 幸子	成育医療論	埼玉医科大学 社会医学
講師	田丸 俊輔	成育医療論	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	荒木 隆一郎	公衆衛生学	埼玉医科大学 社会医学
講師	高橋 美保子	公衆衛生学	埼玉医科大学 社会医学
講師	小林 明弘	社会福祉	丸木記念福祉 MC 法人事務局
講師	本橋 千恵美	関係法規	埼玉医科大学 社会医学
講師	堀口 さやか	健康と栄養	埼玉医科大学 栄養部
講師	浅見 真一	健康と運動	
講師	小川 真央	基礎看護学	
講師	石川 由加里	成人看護技術Ⅰ	埼玉医科大学病院 ICU
講師	森永 江利	成人看護技術Ⅰ 成人看護実習Ⅱ	埼玉医科大学病院 南館 8階病棟
講師	中泉 直子	成人看護技術Ⅰ 成人看護実習Ⅱ	埼玉医科大学病院 南館 9階病棟
講師	大田 千穂	成人看護技術Ⅱ	埼玉医科大学総合医療センター 5階西病棟
講師	森川 早苗	成人看護実習Ⅱ	埼玉医科大学病院 南館 11階病棟
講師	高橋 由貴	成人看護技術Ⅱ	埼玉医科大学病院 南館 6階病棟
講師	川村 日輪	成人看護技術Ⅱ	埼玉医科大学病院 中央手術部
講師	野澤 利佳	成人看護技術Ⅱ 成人看護実習Ⅰ	埼玉医科大学病院 本館 8階病棟
講師	田口 奈穂	成人看護技術Ⅱ 成人看護実習Ⅰ	埼玉医科大学病院 本館 7階病棟
講師	長谷部 愛覧	成人看護技術Ⅱ 成人看護実習Ⅱ	埼玉医科大学総合医療センター 8階西病棟
講師	大塚 宏美	成人看護技術Ⅱ 成人看護実習Ⅱ	埼玉医科大学総合医療センター 10階東病棟
講師	山根 望	成人看護技術Ⅱ 成人看護実習Ⅱ	埼玉医科大学総合医療センター 7階西病棟

講師	本橋 奈津紀	成人看護実習 I	埼玉医科大学総合医療センター 5階西病棟
講師	宮前 奈々	成人看護実習 II	埼玉医科大学病院 南館 6階病棟
講師	金森 恵美	老年看護 II	埼玉医科大学病院 本館 9階病棟(アイセンター)
		老年看護実習 I	
講師	小林 聖恵	老年看護実習 I	丸木記念福祉 MC 回復期リハビリテーション 薫風園 5階
講師	山田 雄一	老年看護実習 I	丸木記念福祉 MC 回復期リハビリテーション 薫風園 6階
講師	吉益 晴夫	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	安田 貴昭	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	藤井 良隆	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	倉持 泉	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	棚橋 伊織	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	志賀浪 貴文	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	梅村 智樹	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	嶋崎 広海	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	栗原 瑛太	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	長谷川 哲也	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	畠田 順一	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	和氣 大成	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
講師	小倉 圭介	精神看護 II	
講師	小林 貴子	在宅看護学	
講師	益田 育子	在宅看護	
講師	矢島 伸男	小児看護 I	
		小児看護 II	
講師	原 智子	小児看護 I	埼玉医科大学病院 東館こどもセンター外来
		小児看護 II	
講師	村野 久仁雄	小児看護 II	埼玉医科大学病院 南館 4階病棟
講師	永野 真弓	小児看護 II	
講師	佐竹 直子	小児看護実習	埼玉医科大学総合医療センター 3階東病棟
講師	大竹 慎次	小児看護実習	埼玉医科大学総合医療センター 3階東病棟
講師	小林 由貴	小児看護実習	埼玉医科大学総合医療センター 3階東病棟
講師	加藤 順子	母性看護 I	埼玉医科大学病院 南館 2階病棟
講師	宮岡 律子	母性看護 I	埼玉医科大学病院 南館 2階病棟
講師	西川 裕美	母性看護 I	埼玉医科大学病院 南館 2階病棟
講師	平賀 咲江	母性看護 I	埼玉医科大学病院 南館 2階病棟
講師	木口 マリ	母性看護 II	

講師	青木 正康	看護管理	埼玉医科大学総合医療センター 看護部
講師	畠中 完	看護管理	埼玉医科大学病院 院内感染対策室
講師	武川 礼子	災害・救急看護	埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター
講師	猿谷 倫史	災害・救急看護	埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター
講師	古舘 利沙子	初年次特別講義	埼玉医科大学病院 南館 11 階病棟
講師	島野 実季	初年次特別講義	埼玉医科大学病院 本館 8 階病棟
講師	奥村 出穂	初年次特別講義	埼玉医科大学病院 中央手術部
講師	松本 幸子	社会活動	

③専攻科母子看護学専攻

専任

教授	稲井 洋子	助産学概論、乳幼児保健学、分娩期の助産診断・技術学、助産管理、母子看護学研究 I、助産管理実習
講師	北川 典子	妊娠期の助産診断・技術学、周産期援助実習、新生児援助実習、地域母子保健実習
講師	今村 久美子	産褥期の助産診断・技術学、分娩期援助実習
助教	鈴木 操	周産期援助実習、分娩期援助実習、新生児援助実習

兼任・非常勤

講師	岡本 喜代子	助産学概論	
講師	石原 理	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	亀井 良政	母子健康管理学 助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	相馬 廣明	助産形態・機能学	
講師	梶原 健	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	高井 泰	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科
講師	齋藤 正博	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科
講師	照井 克生	助産形態・機能学	埼玉医科大学総合医療センター 産科・麻酔科
講師	岡垣 竜吾	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	高橋 幸子	助産形態・機能学 母子健康管理学	埼玉医科大学 社会医学
講師	左 勝則	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	田丸 俊輔	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	鈴木 裕之	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	栃木 秀乃	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科

講師	難波 聡	母子健康管理学	埼玉医科大学病院	栄養部
講師	須田 幸子	母子栄養学	埼玉医科大学病院	栄養部
講師	竹下 美穂	母子栄養学	埼玉医科大学病院	栄養部
講師	村山 美紀	母子栄養学	埼玉医科大学病院	栄養部
講師	齋藤 益子	性行動科学		
講師	齋藤 章佳	性行動科学		
講師	虎井 まさ衛	性行動科学		
講師	田之内 厚三	母性の心理・社会学		
講師	對馬 秀子	家族社会学		
講師	阿部 一子	産褥期の助産診断・技術学		
講師	側島 久典	新生児診断学	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 新生児科	
講師	加部 一彦	新生児診断学	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 新生児科	
講師	國方 徹也	新生児診断学	埼玉医科大学病院	小児科
講師	本多 正和	新生児診断学	埼玉医科大学病院	小児科
講師	馬場 一憲	生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 母胎胎児部門	
講師	海老根 真由美	生殖医学の生理と病理		
講師	菅沼 真樹	生殖医学の生理と病理		
講師	本橋 千恵美	地域母子保健学	埼玉医科大学	社会医学
講師	武藤 光代	助産管理	埼玉医科大学	看護部
講師	山口 次子	助産管理	埼玉医科大学病院	成育医療センター南館 2階病棟
講師	中島 桂子	助産管理		
講師	伊藤 匡子	助産管理		
講師	内田 美恵子	助産管理	埼玉医科大学総合医療センター	看護部
講師	関口 六月	新生児診断学	埼玉医科大学病院	こどもセンター

教員人事異動

①採用

看護学科	杉本 真弓	助教	(平成 31 年 4 月 1 日)
看護学科	増田 睦美	助教	(平成 31 年 4 月 1 日)

②退職

看護学科	秋山 佑紀	助教	(令和 2 年 3 月 31 日)
専攻科	今村久美子	講師	(令和 2 年 3 月 31 日)
専攻科	鈴木 操	助教	(令和 2 年 3 月 31 日)

③配置転換

看護学科	佐藤 菜穂美	助教	(令和元年 9 月 1 日)
看護学科	加藤 久栄	助教	(令和 2 年 4 月 1 日)

(7) 学外実習施設一覧

看護学科

授業科目名	実習施設	実習フロア
基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ	埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター薫風園	南館11階病棟 南館10階病棟 南館9階病棟 南館8階病棟 南館6階病棟 南館5階病棟 本館11階病棟 本館8階病棟 本館9階病棟 本館7階病棟 西館6階病棟 西館5階病棟 東館4階病棟 2ビル3階病棟 中央放射線部 霊安室 他 6階(回復期リハビリテーション)病棟 5階(回復期リハビリテーション)病棟
成人看護実習Ⅰ 成人看護実習Ⅱ 総合実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター	南館11階病棟 南館9階病棟 南館8階病棟 南館6階病棟 南館5階病棟 本館8階病棟 本館7階病棟 西館6階病棟 中央手術部 内科外来センター 外科センター 腎臓病センター血液浄化ユニット 中央放射線部 生活習慣病センター 内視鏡センター ICU 10階東病棟 10階西病棟 8階東病棟 7階西病棟 6階西病棟 5階東病棟 5階西病棟 4階西病棟 中央手術部 GICU 中央放射線部 血液浄化センター 内視鏡センター 消化器・肝臓内科、内分泌・糖尿病内科外来 心臓内科、呼吸器内科、心臓血管外科外来 在宅療養指導室
精神看護実習	埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター デイケアセンター のぞみ 丸木記念福祉メディカルセンター 障害者自立支援施設 やすらぎ	西館4階病棟 西館3階病棟
小児看護実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター 社会福祉法人育心会 養光保育園 埼玉医科大学 保育園めぐみ 埼玉医科大学日高キャンパス 託児所 あすなる 学校法人 聖公会北関東学園 毛呂山愛仕幼稚園 学校法人 村田学園 ときわぎこども園	南館4階病棟 南館3階NICU・GCU 東館こどもセンター(外来) 3階東病棟 4階中央病棟 小児科外来 総合周産期母子医療センターNICU 新生児科(発達外来)
母性看護実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター	南館2階病棟 産婦人科外来 総合周産期母子医療センター(産科外来・産科病棟・新生児室) 産婦人科外来
老年看護実習	埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター 薫風園 丸木記念福祉メディカルセンター 介護老人保健施設薫風園 丸木記念福祉メディカルセンター 特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷 埼玉医療福祉会 毛呂山町老人福祉センター山根荘	本館10階病棟 本館9階病棟(アイセンター) 6階(回復期リハビリテーション)病棟 5階(回復期リハビリテーション)病棟 4階(介護老人保健施設) 3階(介護老人保健施設) 3階(特別養護老人ホーム) 2階(特別養護老人ホーム)

在宅看護実習	埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 毛呂山町保健センター 越生町保健センター 鳩山町保健センター 埼玉医科大学 訪問看護ステーション 埼玉医科大学総合医療センター 訪問看護ステーション 埼玉成恵会病院 訪問看護ステーション 成恵 医療法人 啓仁会 訪問看護ステーション 平成の森 東松山医師会訪問看護ステーション 坂戸鶴ヶ島医師会立 訪問看護ステーション さつき 日高市高萩地域包括支援センター 日高市高麗川地域包括支援センター 丸木記念福祉メディカルセンター 介護老人保健施設 薫風園	通所リハビリテーション
--------	---	-------------

専攻科 母子看護学専攻

実習科目名	実習施設	実習病棟
周産期援助実習	埼玉医科大学病院 成育医療センター 埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 医療法人善淳会 小川産婦人科・小児科	産婦人科外来、南館 2 階病棟 産科外来、母子 3 階病棟、 発達外来 産科外来、病棟
分娩期援助実習	埼玉医科大学病院 成育医療センター 埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 医療法人善淳会 小川産婦人科・小児科 医療法人慈桜会 瀬戸病院 医療法人青山会 吉田産科婦人科医院 医療法人愛和会 愛和病院 医療法人マウナケア会 清水病院	南館 2 階病棟 母子 3 階病棟 病棟 産科 分娩室 病棟 分娩室 分娩室
新生児援助実習	埼玉医科大学病院 成育医療センター 埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 医療法人善淳会 小川産婦人科・小児科	南館 2 階病棟 母子 3 階病棟、NICU 病棟
地域母子保健実習	鶴ヶ島市保健センター 飯能市保健センター 日高市保健相談センター 毛呂山町保健センター 川越市総合保健センター	
助産管理実習	助産院もりあね はとがや助産所 中島助産院 セントラルウェルネスクラブ大宮宮原	

(8) 研究テーマ一覧と指導教員

看護学科

看護研究 テーマ	学籍番号	担当教員
看護学生の化粧に対する意識と実態 －臨地実習経験の有無による相違－	17A067 17A101	瀧山文恵 勝久 淳 小池啓子
国内における救急医療を受ける患者の家族の心理に関する文献研究	17A047	秋山千恵子 宮崎素子 秋山佑紀
文献検討による我が国の避妊方法としてのピルの使用状況と 今後の課題	17A010 17A097	平良朝子 鈴木夕岐子 石川裕貴
妊娠期・分娩期・産褥期における父親役割獲得の過程に関する 文献レビュー	17A038 17A050 17A075	内田貴峰 布施好朗 持田奈穂美
看護短期大学生を対象とした頭痛が学生生活に与える影響 －アンケートによる実態調査－	17A028 17A031 17A032	浅見多紀子 清水百子 佐藤菜穂美

4) 入学者の受け入れ

(1) 学生募集の広報

① オープンキャンパス

平成 29 年度		6/24(土)	7/22(土)	8/26(土)	8/27(日)	10/7(土)	合 計
	看護学科	60名	114名	91名	80名	38名	383名
	母子看護学専攻	実施せず	62名	71名	実施せず	2名	135名
	合 計	60名	176名	162名	80名	40名	518名
平成 30 年度		3/24(土)	7/14(土)	8/25(土)	8/26(日)	10/6(土)	合 計
	看護学科	56名	108名	118名	83名	33名	398名
	母子看護学専攻	実施せず	46名	44名	実施せず	3名	93名
	合 計	56名	154名	162名	83名	36名	491名
令和 元 年度		3/27(土)	5/25(土)	7/13(土)	8/24(土)	10/5(土)	合 計
	看護学科	34名	42名	115名	146名	44名	381名
	母子看護学専攻	実施せず	実施せず	48名	44名	2名	94名
	合 計	34名	42名	163名	190名	46名	475名

内容：学科紹介、入試概要、実習病院紹介、実習病院見学、現役ナースからのメッセージ校舎内
キャンパスツアー、教職員及び学生による個別相談等

10月のオープンキャンパスは大学祭共催；教職員及び学生による個別相談、
学生による体験コーナー、キャンパスツアー、キャンパス自由見学

②ミニオープンキャンパス（午前・午後の2回実施）

	開催日	参加高校生等
平成29年度	5/27(土),11/11(土),12/9(土)	130名
平成30年度	5/26(土), 12/8(土)	47名
令和元年度	6/15(土), 12/7(土)	47名

内容：学科紹介、入試概要、校舎内キャンパスツアー、個別相談（教職員が対応）

③本学への個別見学（ミニオープンキャンパス以外の来学者）

	看護学科	母子看護学専攻	合計
平成29年度	9名	1名	10名
平成30年度	0名	0名	0名
令和元年度	2名	0名	2名

内容：学科紹介、校舎内キャンパスツアー（教職員が対応）

④本学への団体見学（高校単位：平成29年～令和元年度）

	件数	参加高校生等	参加本学教員延べ数
平成29年度	3件	65名	5名
平成30年度	2件	45名	2名
令和元年度	0件	0名	0名

内容：学科紹介、模擬授業、校舎内キャンパスツアー（教職員が対応）

⑤学外説明会（高校生・予備校生等対象：平成29年～令和元年度）

	件数	参加高校生等	参加本学教員延べ数
平成29年度	21件	234名	23名
平成30年度	17件	82+ α 名	17名
令和元年度	17件	132名	19名

内容：模擬授業またはブース対応（教員が出張対応）

⑥高校訪問（平成29年～令和元年度）

	訪問高校延べ数	訪問延べ日数	訪問本学教職員延べ数
平成29年度	61校	15日	9名
平成30年度	59校	16日	2名
令和元年度	58校	22日	4名

(2) 選抜方法（推薦入学，社会人特別選抜，一般入試）

推薦入学・社会人特選・一般入試の選抜方法は下記である。

	定員	推薦入学	一般入試	一般/社会人選抜
看護学科	100名	○	○	
専攻科	20名	○*		○

*専攻科の推薦は学内のみとする。

①看護学科 入学者の選抜

	推薦入学	一般入学試験 I 期	一般入学試験 II 期
募集人員	70 名	28 名	若干名
試験日	令和元年11月10日 9:30～	令和2年1月19日 9:30～	令和2年3月1日 9:30～
試験会場	埼玉医科大学短期大学		
出願資格	2020 年度 学生募集要項（別冊子）を参照		
出願期間	令和元年10月24日～11月7日	令和元年12月9日～ 令和2年1月16日	令和2年1月22日～2月28日
試験科目	科目等	科目・時間等（I 期・II 期 共通）	
	小論文	9:30～10:30	国語総合（古・漢文を除く） 9:30～10:20 コミュニケーション英語I・II 数学I・Aより1科目選択 10:50～11:40
	面接	11:00～15:00 頃	面接 13:00～15:00 頃 その他：書類選考（入学者の選抜は試験の成績および調査書による総合的選抜を行う。）
合格者発表	令和元年 11 月 12 日 10:00	令和 2 年 1 月 21 日 10:00	令和 2 年 3 月 2 日 16:00
	埼玉医科大学短期大学校舎前 及び 本学ホームページに掲載 本学ホームページ： http://www.saitama-med.ac.jp/tandai/		
入学手続期間	令和元年11月13日～11月20日	令和2年1月22日～1月31日	令和2年3月3日～3月11日

②看護学科 入学者の選抜結果

	志願者	受験者(A)	合格者(B)	競争率(A/B)
推薦入学試験	98 名	98 名	78 名	1.3 倍
一般入学試験 I 期	63 名	61 名	40 名	1.5 倍
一般入学試験 II 期	21 名	20 名	2 名	10.0 倍

③専攻科 入学者の選抜

	推薦入学	一般・社会人選抜	
募集人員	6 名	14 名（社会人選抜 4 名程度を含む）	
試験日	令和元年 11 月 10 日 9:30～	令和 2 年 1 月 12 日 9:30～	
試験会場	埼玉医科大学短期大学		
出願期間	令和元年 10 月 24 日～11 月 7 日	令和元年 12 月 9 日～令和 2 年 1 月 10 日	
試験科目	書類選考	科目等	
		時間	
		小論文	9:30 ～ 10:30
		学力試験	11:00 ～ 12:00
	面接	13:15 ～ 17:00 頃	
合格発表	令和元年 11 月 12 日	令和 2 年 1 月 16 日 10 時	
	埼玉医科大学短期大学校舎前 及び 本学ホームページに掲載 本学ホームページ： http://www.saitama-med.ac.jp/tandai/		
入学手続期間	令和元年 11 月 13 日～11 月 20 日	令和 2 年 1 月 17 日～1 月 31 日	
一般選抜・社会人選抜：入学者選抜は、小論文・学力試験（専門基礎分野・専門分野）・面接による総合的選抜を行う			
出願資格（令和 2 年度入学者） ＜推薦入学＞ 埼玉医科大学短期大学 看護学科 を令和 2 年 3 月卒業見込みの者 ＜一般選抜＞ 1. 大学・短期大学の看護に関する学科を卒業した者、または令和 2 年 3 月卒業見込みの者 2. 看護に関する養成所を卒業した者、または令和 2 年 3 月卒業見込みの者 3. 外国において、学校教育における 15 年の課程を修了した者で、その最終の課程において看護に関する課程を修了した者、または令和 2 年 3 月までに修了見込みの者 ＜社会人選抜＞ 埼玉県内の産婦人科を標榜する病院、または産婦人科の診療所に勤務し施設長の推薦を受けた看護師で、合格した場合入学を確約できる者。			

④専攻科 入学者の選抜結果

	志願者	受験者(A)	合格者(B)	競争率(A/B)
推薦入学	6名	6名	6名	1.0倍
一般/社会人選抜	30名	29名	14名	2.1倍

(3) 学生定員充足状況

① 学生数（留年生を含む；括弧内は定員充足率）：令和元年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	計
看護学科	105 (105%)	109 (109%)	114 (114%)	328 (109%)
専攻科 母子看護学専攻	20 (100%)	—	—	20 (100%)

② 男女比：令和元年5月1日現在

		1年生	2年生	3年生	計
看護学科	男	4 (3.8%)	1 (0.9%)	4 (3.5%)	9 (2.7%)
	女	101 (96.2%)	108 (99.1%)	110 (96.5%)	319 (97.3%)
専攻科 母子看護学専攻	女	20 (100%)	—	—	20 (100%)

③ 学生出身地一覧（令和元年度）

令和元年5月1日現在

都道府県名	看護学科				専攻科 母子看護学専攻	合計
	1年生	2年生	3年生	小計		
北海道			4	4	1	5
青森	1	2	1	4	1	5
岩手	3		5	8		8
宮城	2	1	3	6	1	7
秋田	3	1		4		4
山形	2	1	2	5		5
福島		6	3	9	1	10
茨城	2	2		4		4
栃木	8		2	10		10
群馬	1	2	1	4	1	5
埼玉	60	68	67	195	8	203
千葉			1	1	2	3
東京	11	12	9	32	1	33
神奈川		2	2	4		4
新潟	4	2	4	10	1	11
富山			1	1		1
石川		1		1		1
福井						
山梨	3	1		4	1	5
長野	2	4	3	9		9
岐阜					1	1
静岡	1	1	2	4		4
愛知	1			1		1
三重						
滋賀						
京都			1	1		1
大阪						
兵庫						
奈良						
和歌山						
鳥取						
島根		1		1		1
岡山						
広島	1	1		2		2
山口						
徳島						
香川						
愛媛						
高知						
福岡					1	1
佐賀						
長崎						
熊本						
大分						
宮崎		1		1		1
鹿児島						
沖縄			2	2		2
その他			1	1		1
合計	105	109	114	328	20	348

(4) 入学前教育

Plan

①学習の習慣化とモチベーションの維持・向上のために下記の取り組みを行う。

i. 入学前に取り組む課題の提示

a. 課題図書から1冊選択し、関連する本を各自で選択する。2冊の内容の関連性と自己の考えをまとめる（推薦入学試験合格者のみ）。

b. 現代社会の状況や志望動機をふまえて、入学後の3年間の日々の生活をどのように過ごしたらよいかをまとめる。

c. 生物のワーク（ドリル）の学習、または業者による「入学前基礎学習講座」（医療系生物入門、生物総合、医療学生のための国語力入門《以下、国語》から1講座もしくは、生物系と国語の2科目）の案内

ii. 「埼玉医科大学短期大学へようこそ」の配付

平成30年度入学生のアンケート結果を基に作成した入学前の学習の準備と課題についてまとめた「埼玉医科大学短期大学へようこそ」を合格者全員に配付する。

②「埼玉医科大学短期大学へようこそ」や入学前の課題の活用状況に関するアンケートの実施

入学前教育の評価に活かせるように、昨年アンケート内容を見直し、平成31年度入学生に入学3ヶ月後、アンケートを実施する。

Do

①学習の習慣化とモチベーションの維持・向上のための取り組み

i. 課題は、課題に関する説明書（課題内容・レポート様式と注意事項・提出時期等）を、事務部が合格者へ郵送するものに同封した。毎年、指示通り提出できない入学生がいるため、具体例を示し詳細な説明を加えた。提出されたレポートは、入学後にアドバイザーが内容や提出方法を含めて指導し、返却した。「入学前基礎学習講座」は、事前に業者と内容や時期などを検討後、業者が作成した「入学前基礎学習講座」の案内を同様に郵送した。以降は、業者と希望者間で進めてもらった。

ii. 「埼玉医科大学短期大学へようこそ」を郵送した。

②「埼玉医科大学短期大学へようこそ」や入学前の課題の活用状況に関するアンケートを、平成31年度入学生に入学3ヶ月後、実施した。

Check

①学習の習慣化とモチベーションの維持・向上のための取り組み

i. アンケートによると、推薦入学試験（以下、推薦入試）合格者の課題図書への取り組み日数は、4～6日が最も多かった。課題に取り組むことで、入学前に学習が「習慣化した・どちらか」というと習慣化した」が約57%であった。入学後、「役立っている・どちらか」というと役立っている」は約65%、モチベーションが「高まった・どちらか」というと高まった」は約62%であった。課題bは、推薦入試、一般入学試験（以下、一般入試）I・II期ともに学習

が「習慣化した・どちらかというとした」と回答していた。課題に取り組むことでモチベーションが「高まった・どちらかという高まった」については、推薦入試で「変わらない」と回答した学生が最も多かった。課題cについては、推薦入試、一般入試Ⅰ・Ⅱ期ともに生物のワークに取り組んだ学生が多かった。生物のワークに取り組むことで、学習が「習慣化した・どちらかというとした」という回答は、一般入試に比べ、推薦入試の方が少なかった。「入学前基礎学習講座」は、昨年度まで推薦入試合格者のみへの案内であった。今年度、一般入試合格者へも案内を出したが、受講者は昨年度よりさらに減少した。しかし、受講者は学習が「習慣化した・どちらかというとした」と約80%回答していた。特に「国語」の受講者は、入学後、関連する授業に「活かしている・どちらかという活かしている」という回答が約80%であった。

- ii. 「埼玉医科大学短期大学へようこそ」の先輩からのメッセージを読んで、「入学前に学習しておけば良いこと（理科系）」は、「取り組んだ・どちらかという取り組んだ」と回答した学生が、推薦入試で約96%、一般入試で100%であった。「入学前につけておく良い力（読む・書く力など）」は、「取り組んだ・どちらかという取り組んだ」と回答した学生が、推薦入試・一般入試ともに80%以上であった。「世の中の流れや一般常識を身につけるためにしておく良いこと（新聞や本を読む等）」は、推薦入試・一般入試ともに約90%以上の学生が取り組んでいた。「様々な年代の人と会話する力を身につけるためにしておく良いこと（ボランティア・看護体験）」は、「取り組んだ・どちらかという取り組んだ」という回答が少ない項目であったが、推薦入試で約70%、一般入試では61%という結果であった。このことに取り組んだ学生の90%以上が、入学後「役立っている・どちらかという役立っている」と回答していた。

- ②「埼玉医科大学短期大学へようこそ」や入学前の課題の活用状況に関するアンケートを実施したことで、次年度の課題が明確になった。

Action

- ①学習の習慣化とモチベーションの維持・向上のための取り組み

- i. 推薦入試合格者に対する学習の習慣化に向けて、今後も課題内容・方法を検討していく必要がある。基礎学力及びモチベーションの維持・向上のために、一般入試合格者にも入学前に課題提出を求め、業者による「入学前基礎学習講座」も案内した。課題提出状況や受講状況を把握し、入学前教育の目的が達成できるように検討する。業者による「入学前基礎学習講座」を受講した学生が少ないため、合格者の多くが受講できるよう、内容や案内の方法についても継続して検討する。入学時のプレイスメントテストの結果も参考にして、入学前教育の評価を実施する。
- ii. 推薦入試・一般入試合格者全員に「埼玉医科大学短期大学へようこそ」と題した入学前の学習の準備と課題については、内容を見直し継続して郵送する。

- ②入学前の課題の活用状況に関するアンケートは、内容を見直し継続して実施・評価する。

(5) これまでの受け入れ状況

看護学科

① 志願者：() は男子内数（平成 30～令和 2 年）

	募集(A)	推薦入学	一般入試	志願者計(B)	倍率 (B/A)
平成 30 年度	100 名	106 (3)名	121 (7)名	227 (10)名	2.3 倍
令和元年度	100 名	99 (4)名	77 (9)名	176 (13)名	1.8 倍
令和 2 年度	100 名	98 (2)名	84 (11)名	182 (13)名	1.8 倍

② 推薦入学の結果（平成 30 年～令和 2 年）

	募集	志願者	受験者(A)	合格者 (B)	入学者	倍率(A/B)
平成 30 年度	70 名	106 名	106 名	78 名	78 名	1.4 倍
令和元年度	70 名	99 名	99 名	73 名	73 名	1.4 倍
令和 2 年度	70 名	98 名	98 名	78 名	78 名	1.3 倍

③ 一般入学試験の結果（平成 30 年～令和 2 年）

	募集	志願者	受験者(A)	合格者(B)	補欠入学者	入学者	倍率
平成 30 年度		121 名	118 名	54 名	0 名	32 名	2.2 倍
I 期	28 名	102 名	101 名	52 名	0 名	31 名	1.9 倍
II 期	若干名	19 名	17 名	2 名	0 名	1 名	8.5 倍
令和元年度		77 名	73 名	41 名	0 名	33 名	1.8 倍
I 期	28 名	65 名	63 名	38 名	10 名	31 名	1.7 倍
II 期	若干名	12 名	10 名	3 名	0 名	2 名	3.3 倍
令和 2 年度		84 名	81 名	42 名	0 名	27 名	1.9 倍
I 期	28 名	63 名	61 名	40 名	2 名	27 名	1.5 倍
II 期	若干名	21 名	20 名	2 名	0 名	0 名	10.0 倍

専攻科母子看護学専攻

① 志願者：(平成 30 年～令和 2 年)

	募集(A)	学内推薦	一般選抜	社会人選抜	志願者計 (B)	倍率 (B/A)
平成 30 年度	20 名	6 名	41 名	47 名	2.3 倍	2.1 倍
令和元年度	20 名	6 名	41 名		41 名	2.1 倍
令和 2 年度	20 名	6 名	30 名		30 名	1.5 倍

②学内推薦の結果（平成30年～令和2年）

	募集	合格者	入学者
平成30年度	6名	6名	6名
令和元年度	6名	6名	6名
令和2年度	6名	6名	6名

③一般／社会人選抜の結果（平成30年～令和2年）

	募集	志願者	受験者(A)	合格者(B)	補欠	入学者	倍率(A/B)
平成30年度	14名	41名	41名	14名	12名	14名	2.9倍
令和元年度	14名	41名	41名	14名	5名	14名	2.9倍
令和2年度	14名	30名	29名	14名	2名	14名	2.1倍

2. 学生支援

1) 教育活動

(1) 新入生ハイキング

Plan

新入生同士、また新入生と教職員の親睦をはかる目的でハイキングを行なう。

日 時：2019年4月13日（土） 場 所：秩父郡横瀬町大字横瀬「小松沢レジャー農園」

Do

参加者：学生125名（看護学科1年次生105名、専攻科生20名）教職員25名 合計150名天候にも恵まれ絶好のバーベキュー日和となった。バスの中では、自己紹介やじゃんけん大会で盛り上がり秩父郡横瀬町大字横瀬にある「小松沢レジャー農園」に向かった。今年度は、レジャー体験として「いちご狩り」を選択したグループはバーベキューの前にいちご大福作り体験があり、58人の学生が参加した。バーベキュー開始の時間が30分遅くなったが、各アドバイザーグループから2名ずつ選出された給食当番が活躍し、混乱することもなく和気あいあいとバーベキューを楽しんでいた。昼食後各々、イチゴ狩り、しいたけ狩り、園内ミニハイキング、札所めぐり等のレジャー体験で親睦を図っていた。怪我等もなく、どの学生の目もキラキラと輝き素敵な笑顔であった。

Check

バーベキューの準備も滞りなく実施でき、親睦を深めることができた。

Action

次年度は、日程を新入生が入学後に慣れてきた時期と、雨天に対応でき昼食の準備が不要であることを配慮し、4月25日（土）に秩父郡横瀬町大字横瀬「小松沢レジャー農園」で新入生歓迎ハイキングを計画する。将来に向けては、新入生だけでなく、上級生の参加（学生会の役員や希望するクラブ部長）等を得ることで、短期大学の学生が一体となって勉学やクラブ活動に取り組み、個々の学生が自己の能力の向上に向けた一歩を踏み出せるように考えていく。

(2) 戴帽式

Plan

戴帽式は、学生自身が選んだ看護の道が適切であったかどうかを自ら振り返る機会であり、自己の目標を明確にし、望ましい看護師として成長できる節目の儀式である。一年次生が、これらを意識して式典に臨めるよう働きかける。

Do

日 時：令和元年11月16日（土） 場 所：短大7階講堂

参加者：戴帽生102名、保護者、来賓、教職員

①委員会の開催：教員のみでの委員会だけでなく、学生委員との合同委員会も開催した。

②式典に向けた活動への支援：1・2・3年次生委員の相談に対応した。

③リハーサル（10/18、10/25、11/1、11/6、11/14）、会場準備、式典の運営を行った。

Check

- ①1年次生にアドバイスをを行う際は、連絡・報告・相談等について、看護師として働く時の行動につながることを意識できるように関わった。
- ②キャッピングを担当していたステージ上の教員は、戴帽の儀の後の学長の話をも、会場内で聞けるように動きを工夫した。
- ③リハーサルは、日時を早めに提示し、担当教員以外の教員の協力を求めたことにより、スムーズに進めることができた。
- ④父兄の受付では、番号札の配布を行ったことにより、問題なく速やかに進めることができた。
- ⑤受付開始時間を父兄への「ご案内」に明確に表示したことで問題なく進めることができた。
- ⑥来賓や父兄の誘導は、インカムを使用することにより情報伝達がスムーズにできた。
- ⑦事前のオリエンテーションが不足していた。

Action

- ①戴帽式委員や学生部の学生への事前オリエンテーションを密に行う。
- ②学生からのアンケートを基に、今後の戴帽式のあり方について検討する。

(3) 卒業生への支援

Plan

- ①就職一年目の本学卒業生が、母校で日頃の体験や思いを表出し共感し合い、情報交換を行うことで、現場でのストレス軽減や早期離職防止、自己成長につなげられる機会を提供する。

Do

- ①就職一年目の会「ふぞろいな YUZU たち」開催
日時：令和元年 6 月 15 日（土）11：00～13：30 場所：5 階学修ホール 1
参加者：就職一年目の本学卒業生 32 名、先輩卒業生 2 名、教員 9 名
- ②会場の準備及び会の運営
- ③卒業生通信の発行・本学ホームページへの掲載（5 月、8 月、2 月）

Check

- ①飲食を楽しみながら近況報告や情報交換、教員との談話が行われた。
- ②先輩に言われて嬉しかったこと、初任給の使い道等の数々のエピソードをゲーム形式で発表し合った。
- ③卒後二、三年目の卒業生 2 名を迎え、新人の頃、辛かった時どのように乗り越えたか等の数々のエピソードを話してもらった。
- ④会を終えてのアンケートでは、「久々に仲間や先生達に会えて楽しかった」「仕事を頑張ろうと思った」等の感想が寄せられた。

Action

- ①参加人数が昨年度よりも増加したが、週末は新人研修が組まれているため、開催時期を含め、この会に対する卒業生のニーズも把握していく必要がある。

(4) 専攻科の学生支援

Plan

- ①学生生活や学習進度に関する相談と支援
- ②夏季冬季休業前の安全、学習面に関する指導

Do

- ①学習面、生活面を学生クラス委員と共に運営、実施した。
- ②アドバイザー制により、4名の教員が学生5名ずつを担当し、教育コンサルト、生活指導を実施した。9月から12月末までの実習期間においては、実習施設担当教員が担当指導した。面接時期は入学後、実習前、模擬試験結果60%未満の学生であった。
- ③入学後と実習終了後に、学生個々の健康問題や学習に対する面接指導を行った。
- ④実習開始前に実習生の感染症抗体検査結果やワクチン接種について調査した。その結果から抗体価の基準値に達していない学生に対し、個別に指導した。
- ⑤国家試験対策委員会を中心として、模擬試験を5回（5月、7月、11月、1月に2回）に決定し、実施した。また、過去の模擬試験問題を活用し行った。さらに、補講を外部講師に依頼をし、設定をした。
- ⑥学生の学生生活が自主運営出来るようにクラス委員活動に関する支援を行った。

Check

- ①学生活動では、クラス内の委員による（クラス委員、学生委員会、国家試験対策、卒業アルバム、謝恩会）役割を担って活動した。それぞれが学生個々の役割を自ら積極的に行う姿があった。教員との打ち合わせを重ねながら活動できた。
- ②国家試験対策について模擬試験を行った。成績不良者については、アドバイザーが面接を行った。

Action

- ①実習開始前の感染症抗体検査結果やワクチン接種は、短期間に学生への支援ができるように入学者データと健康診断のデータ収集を早めに行い指導をしていく。
- ②様々な学習背景、キャリアを持つ学生の一人一人の学習ニーズを捉え、学生が自ら納得できる活動の支援を行う。
- ③学生面接を行う時期を検討する。

2)社会活動

(1) 教員の活動

看護学科

①講義

- 所 ミヨ子. 看護論. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター. 2019.5.8.
- 所 ミヨ子. 看護教育研究演習. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター. 2019.9-2020.2.
- 所 ミヨ子. 看護倫理. 埼玉医科大学認定看護管理者教育課程ーファーストレベルー. 埼玉医科大学職員キャリアアップセンター. 2019.9.13.
- 久保 かほる. 実習指導の評価. 埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会. 2019.7.25,7.27,11.2.
- 久保 かほる. 埼玉医科大学中堅看護師研修「看護研究の実際」. 2019.8.6-2020.7.4.
- 久保 かほる. 小論文の書き方. 埼玉医科大学総合医療センター看護師研修. 2019.6.8.
- 平良 朝子. 埼玉医科大学中堅看護師研修「看護研究の実際」. 2019.8.6.
- 平良 朝子. 看護研究個別指導. 東松山市立市民病院. 看護師. 2019.4.3,11.27.計2回.
- 平良 朝子. 看護研究個別指導. 東松山医師会病院. 看護師. 2019.6.15,11.9.計2回.
- 平良 朝子. 東松山医師会病院看護研究発表会講評. 2020.1.17.
- 霜田 敏子. 令和元年度埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会・看護教育課程Ⅱ「小児看護学」. 2019.6.27.
- 霜田 敏子. 埼玉医科大学中堅看護師研修「看護研究の実際」. 2019.8.5-2020.7.4.
- 今野 葉月. 教材の活用. 埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会. 2019.6.29.
- 今野 葉月. ファシリテーション. 埼玉医科大学認定看護管理教育過程ファーストレベル. 2019.9.7.
- 今野 葉月. 埼玉医科大学中堅看護師研修「看護研究の実際」. 2019.8.6-2020.7.4.
- 今野 葉月. 看護論(演習). 埼玉県看護協会看護学生臨地実習指導者講習会. 2019.6.1,8.
- 浅見 多紀子. 令和元年度看護学生実習指導者講習会. 埼玉医科大学職員キャリアアップセンター. 2019.6.20,22,7.4.
- 浅見 多紀子. 埼玉医科大学中堅看護師研修「看護研究の実際」. 2019.8.6-2020.7.4.
- 浅見 多紀子. 看護研究の進め方. 秩父市立病院. 2019.4-2020.3.
- 蒲生 澄美子. 看護論(演習). 埼玉県看護協会看護学生臨地実習指導者講習会. 2019.6.1, 6.8.
- 蒲生 澄美子. 実習指導案作成の実際. 埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会. 2019.8.1-2,8.9, 8.17,8.23.
- 内田 貴峰. 令和元年度埼玉医科大学病院看護研究支援者研修. 埼玉医科大学病院看護部. 2019.5.11,9.13.計2回.
- 内田 貴峰. 立川市パパママ学級講師 2019.5.27,6.3,6.8. 計3回
- 瀧山 文恵. 看護教育課程Ⅰ. 埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会. 2019.6.20.

宮崎 素子. 実習指導の原理.埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会. 2019.8.15.
宮崎 素子. 実習指導案の実際.埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会. 2018.8.1,2,9,17,23.
清水 百子. 看護論.埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会. 6.22,6.28,7.5,7.12,7.19.
小池 啓子. 認定看護管理者教育課程セカンドレベル「研修設計・授業設計」. 昭和大学. 2019.8.19.
小池 啓子. 看護医療系進学希望者対象進路説明会. 埼玉県立秩父高等学校. 2019.11.7.
石川 裕貴. 助産師相談.越生町子育て世代包括支援センター.育児期の母親とその家族を対象.
2019.4.17,5.15,8.28,10.16,11.13,12.18,2020.2.19.
増田 睦美. 幸手看護専門学校「母性看護学方法論Ⅱ」. 2019.5.31,6.6,6.21,6.27,5.31,6.6,6.21.

②講演その他

所 ミヨ子. ヘンダーソン看護論との真の出会い. 川越市医師会川越看護専門学校. 2019.12.20.
小池 啓子. 熊本大学大学院公開講座（インストラクショナルデザイン応用編）. 東京工業大学キャンパスイノベーションセンター. 2020.1.25.

③所属学会

所 ミヨ子. 日本教育学会, 日本看護学教育学会, 日本教育技術学会, 日本応用心理学会.
田村 直俊. 日本内科学会, 日本神経学会, 日本自律神経学会, 日本神経治療学会, 日本発汗学会, 日本頭痛学会, 日本老年医学会.
久保 かほる. 日本看護研究学会, 日本医学教育学会, 日本感染環境学会, 日本看護学教育学会.
平良 朝子. 日本看護学教育学会, 日本老年看護学会, 日本高齢者虐待防止学会.
霜田 敏子. 日本小児看護学会, 日本看護科学学会, 日本小児保健学会, 日本笑い学会, 日本看護協会.
今野 葉月. 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護診断学会, 日本看護協会, 日本応用心理学会.
浅見 多紀子. 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会.
蒲生 澄美子. 日本看護学教育学会, 日本応用心理学会, 日本教育工学会, 日本教育学会.
内田 貴峰. 日本看護管理学会, 日本看護研究学会, 日本母性衛生学会, 東京母性衛生学会, 日本母子看護学会.
瀧山 文恵. 日本老年看護学会, 日本看護科学学会, 日本高齢者虐待防止学会, 日本認知症ケア学会.
秋山 千恵子. 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会.
宮崎 素子. 日本看護学教育学会, 日本看護技術学会, 日本応用心理学会.
鈴木 夕岐子. 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会.
清水 百子. 日本応用心理学会.
勝久 淳. 日本精神保健看護学会, 日本看護学教育学会.

小池 啓子. 日本教育工学会, 日本看護学教育学会, 日本医療教授システム学会, 日本看護管理学会.
海野 文子. 日本在宅看護学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護科学学会.
渡邊 あゆみ. 日本精神科看護協会, 日本精神保健看護学会.
榎本 佑美. 日本応用心理学会.
加藤 久栄. 日本小児看護学会.
石川 裕貴. 日本母性衛生学会, 埼玉県母性衛生学会, 「性とこころ」関連問題学会, 日本シミュレーション医療教育学会.
秋山 佑紀. 日本看護研究学会, 日本健康医学会, 日本自立支援介護・パワーリハ学会.
布施 好朗. 日本小児看護学会.
加藤 穂高. 日本応用心理学会.
持田 奈穂美. 日本老年看護学会, 高齢者虐待防止学会.
杉本 真弓. 日本看護学教育学会.
増田 睦美. 日本母性衛生学会, GID 学会.

④役員歴

田村 直俊. 日本自律神経学会 (理事, 自律神経機能検査法委員長, 編集委員, 学会教育委員)
田村 直俊. 日本発汗学会 (理事)
田村 直俊. 日本神経治療学会 (功労会員)
久保 かほる. 日本私立看護系大学協会 (理事)
平良 朝子. 日本高齢者虐待防止学会 (選挙管理委員, 査読委員)
平良 朝子. 第16回日本高齢者虐待防止学会 蒲田大会実行委員
内田 貴峰. 公立昭和病院運営協議委員会委員
瀧山 文恵. 社会福祉法人藤和会特別養護老人ホーム四季の郷上尾(評議員)
瀧山 文恵. 日本高齢者虐待防止学会選挙管理委員長
瀧山 文恵. 日本高齢者虐待防止学会査読委員

⑤出席学会

所 ミヨ子. 第12回日本看護倫理学会. 2019.6.8-9.大阪.
所 ミヨ子. 第50回日本看護学会—看護管理—. 2019.10.23-24. 名古屋.
所 ミヨ子. 日本看護学教育学会第28回学術集会. 2019.8.3-4. 京都.
所 ミヨ子. 第33回日本教育技術学会. 2019.12.21-22. 京都.
久保 かほる. 埼玉医科大学卒後教育主催. 「中東地域における難民の現状と赤十字社による医療保健支援」. 2019.5.23. 埼玉.
久保 かほる. 日本看護学教育学会教育制度委員会主催「どうなる? 指定規則」. 2019.6.9. 東京.

- 久保 かほる. 日本私立看護系大学協会. 「専門分野の教育評価機能の成り立ち、運営・活動、今後の課題」. 2019.7.12. 東京.
- 久保 かほる. 日本看護学教育学会第 29 回学術集会. 2019.8.3-4. 京都.
- 久保 かほる. 大学基準協会. 「短期大学の教学 IR 教育の質の保証のために」. 2019.9.6. 東京.
- 久保 かほる. 日本私立看護系大学協会. 「私立大学等改革総合支援事業への取り組みー地域社会への貢献」. 2019.10.28. 東京.
- 久保 かほる. メディカ出版疾患と看護シリーズ刊行記念セミナー「臨床判断能力を養うために必要な『知』とは」. 2019.11.24. 東京.
- 久保かほる. 日本私立短期大学協会「私立大学の教育・研究充実に関する研究会」. 2019.11.25. 東京.
- 久保かほる. 第 27 回埼玉県看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 平良 朝子. 第16回日本高齢者虐待防止学会. 2019.9.7. 東京.
- 平良 朝子. 第27回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 霜田 敏子. 日本「性とこころ」関連学会 第 11 回学術研究大会. 2019.6.29. 東京.
- 霜田 敏子. 日本小児看護学会第 29 回学術集会. 2019.8.3-4. 北海道.
- 霜田 敏子. ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護シリーズ刊行記念セミナー「臨床判断能力」を養うために必要な「知」とは. 2019.11.24. 東京.
- 霜田 敏子. 第 27 回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 今野 葉月. 第 25 回日本看護診断学会学術大会. 2019.7.6-7. 名古屋.
- 今野 葉月. 第 29 回日本看護学教育学会学術集会. 2019.8.3-4. 京都.
- 浅見 多紀子. 日本看護学教育学会第 29 回学術集会. 2019.8.3,4. 京都.
- 浅見 多紀子. 臨床判断力を養うために必要な知とは. メディカ出版セミナー. 2019.11.24. 東京.
- 浅見 多紀子. 第 27 回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 蒲生 澄美子. 日本教育工学会 2019 年秋季全国大会. 2019.9.7-8. 愛知.
- 内田 貴峰. 第 38 回東京母性衛生学会学術集会. 2019.5.19. 東京.
- 内田 貴峰. 第 51 回分娩監視研究会. 2019.6.22. 東京.
- 内田 貴峰. 第 19 回日本母子看護学会学術集会. 2019.6.29. 東京.
- 内田 貴峰. 第 3 回日本産前産後ケア・子育て支援学会. 2019.8.18. 東京.
- 内田 貴峰. 第 7 回シミュレーション医療教育学会学術大会. 2019.9.21. 東京.
- 内田 貴峰. 第 16 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会. 2019.26-27. 千葉.
- 内田 貴峰. 母性看護額の教授ポイント. 2019.11.2. 東京.
- 内田 貴峰. 第 39 回日本看護科学学会学術集会. 2019.11.30-12.1. 石川.
- 内田 貴峰. 2019 年度第 1 回東京都周産期医療ネットワークグループ事業地域連携会議（サブグループ会議）. 2020.2.6. 東京.
- 内田 貴峰. 第 23 回日本母乳哺育学会勉強会. 2020.2.16. 東京.

瀧山 文恵. 日本老年看護学会第24回学術集会. 2019.6.7,8. 宮城.

瀧山 文恵. 第18回日本アディクション看護学会学術集会. 2019.6.29,30. 東京.

瀧山 文恵. 日本看護学教育学会教育制度委員会主催「どうなる？指定規則」.2019.6.9. 東京.

瀧山 文恵. 日本看護学教育学会. 2019.8.3,4. 京都.

瀧山 文恵. 第16回高齢者虐待防止学会. 2019.9.7. 東京.

瀧山 文恵. 第27回埼玉看護研究学会.埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.

瀧山 文恵. 第39回日本看護科学学会. 2019.11.30,12.1. 金沢.

秋山 千恵子. 第49回日本看護学会 看護教育. 2019.8.16-17. 京都.

秋山 千恵子. 第27回埼玉県看護研究会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.

宮崎 素子. 日本看護学教育学会第29回学術集会. 2019.8.4. 京都.

宮崎 素子. 未来のマナビフェスー2030年の学びをデザインするー. 2019.8.21,22. 東京.

宮崎 素子. eラーニングアワード2019フォーラム.2019.11.15. 東京.

鈴木 夕岐子. 第29回日本看護学教育学会学術集会. 2019.8.3-4. 京都.

鈴木 夕岐子. 未来のマナビフェス 2019. 2019.5.18. 東京.

鈴木 夕岐子. 第27回埼玉県看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.

勝久 淳. 日本「性とこころ」関連学会 第11回学術研究大会. 2019.6.29. 東京.

勝久 淳. 第18回 日本アディクション看護学会学術集会. 2019.6.30. 東京.

勝久 淳. 令和元年度埼玉県私立短期大学協会教職員研修会.埼玉私立短期大学協会.2019.8.28
埼玉.

勝久 淳. 日本精神科看護協会研修会「気がかりを見つめ直しケアに繋げる異和感の対自化」.
2019.9.5. 東京.

勝久 淳. 第16回日本高齢者虐待防止学会. 2019.9.7. 東京.

勝久 淳. 日本精神科看護協会研修会「こころの健康出前講座 看護師のプレゼン力を養うセミナー」.
2019.9.13. 東京.

勝久 淳. 日本精神科看護協会埼玉支部 看護研究発表会. 2019.12.1.埼玉.

勝久 淳. 第27回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会.2019.12.7. 埼玉.

清水 百子. 日本看護研究学会 第45回学術集会. 2019.8.20-21. 大阪.

清水 百子. 授業・演習におけるパフォーマンス評価. 2020.2.2. 東京.

小池 啓子. 第23回日本看護管理学会学術集会. 2019.8.23-24. 新潟.

小池 啓子. 日本教育工学会 2019 秋季全国大会. 2019.9.7-8. 愛知.

小池 啓子. 日本教育工学会 2020 春季全国大会. 2020.2.29-3.1. 長野.

小池 啓子. 熊本大学大学院教授システム学定期研究会. 2019.4-2020.3. 東京.

小池 啓子. 第5回地域包括ケア研究発表会. 特定医療法人俊仁会. 2019.10.27. 埼玉.

小池 啓子. 「教育改善スキル修得オンラインプログラム(科目デザイン編)」受講. 熊本大学教授システム学研究センター. <https://kyoten1.cica.jp/moodle/>, 2019.7-2019.9.

- 海野 文子. 第 32 回埼玉県小児在宅医療支援研究会. 2019.3.6. 埼玉.
- 海野 文子. e-nus 授業・研修・カンファレンスで役立つファシリテーションスキル. 2019.4.28. 東京.
- 海野 文子. 第 33 回埼玉県小児在宅医療支援研究会. 2019.6.5. 埼玉.
- 海野 文子. 学び〜と無料セミナー初めての「e ラーニング」導入セミナー. 2019.7.12. 東京.
- 海野 文子. 第 45 回日本重症心身障害学会学術集会. 2019.9.20.21. 岡山.
- 海野 文子. 第 5 回地域包括ケア研究発表会. 2019.10.27. 埼玉.
- 海野 文子. 第 27 回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 海野 文子. 熊本大学公開講座. インストラクショナルデザイン 応用編. 2020.1.26. 東京.
- 海野 文子. 埼玉県小児在宅医療支援研究会. 2020.2.5. 埼玉.
- 海野 文子. 小児在宅医療講習会. 2020.2.11. 埼玉.
- 渡邊 あゆみ. 「インタラクティブ・ティーチング」アカデミー2019-1「学びを促すアクティブ・ラーニング」. 2019.5.26,6.16. 東京.
- 渡邊 あゆみ. 「インタラクティブ・ティーチング」アカデミー2019-2「学びを促す授業設計（授業案づくり）」. 2019.6.2,6.30. 東京.
- 渡邊 あゆみ. 日本精神保健看護学会第 29 回学術集会. 2019.6.8-9. 愛知.
- 渡邊 あゆみ. 「インタラクティブ・ティーチング」アカデミー2019-3「学びを促す授業（模擬授業クリニック）」. 2019.8.4. 東京.
- 渡邊 あゆみ. 「インタラクティブ・ティーチング」アカデミー2019-4「学びを促す評価（ルーブリックづくり）」. 2019.10.27,2020.2.15. 東京.
- 渡邊 あゆみ. 第 27 回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 渡邊 あゆみ. 「インタラクティブ・ティーチング」アカデミー2019-5「学びを促すコースデザイン（シラバスづくり）」. 2019.12.15. 東京.
- 榎本 佑美. 熊本大学公開講座. インストラクショナルデザイン 応用編. 2020.1.26. 東京.
- 加藤 久栄. e-nus 授業・研修・カンファレンスで役立つファシリテーションスキル. 2019.4.28. 東京.
- 加藤 久栄. 第 29 回日本小児看護学会学術集会. 2019.8.3-4. 札幌.
- 加藤 久栄. 第 9 回日本小児在宅医療支援研究会. 2018.9.22. 埼玉.
- 加藤 久栄. 第 27 回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 加藤 久栄. 第 36 回埼玉県小児在宅医療支援研究会. 2020.2.5. 埼玉.
- 石川 裕貴. 日本「性とこころ」関連問題学会 第 11 回学術研究学会. 2019.6.29. 東京.
- 石川 裕貴. 岐阜大学医学教育開発研究センター. 第 73 回医学教育セミナーとワークショップ in 愛知学院大学. 2019.8.9. 愛知.
- 石川 裕貴. 第 7 回日本シミュレーション医療教育学会学術大会. 2019.9.21. 東京.
- 石川 裕貴. 第 60 回日本母性衛生学会学術集会. 2019.10.11. 千葉.

- 石川 裕貴. 看護教育力 UP セミナー. 講義と臨地実習をつなぐ母性看護学の教授ポイント. 2019.11.2. 東京.
- 石川 裕貴. 彩の国思春期研究会西部支部. 性教育留学を経て考える日本での性教育の広め方. 2020.1.25. 埼玉.
- 石川 裕貴. 熊本大学公開講座. インストラクショナルデザイン 応用編. 2020.1.26. 東京.
- 石川 裕貴. 埼玉県看護協会. 助産実践能力習熟段階レベル III 認証更新要件ウィメンズヘルスケア研修—予期せぬ妊娠をした女性の支援—. 2020.2.15. 埼玉.
- 石川 裕貴. 日本母乳哺育学会. 第 23 回日本母乳保育学会勉強会. 2020.2.16. 東京.
- 石川 裕貴. 埼玉県看護協会. 助産実践能力習熟段階レベル III 認証更新要件ウィメンズヘルスケア研修—女性のライフサイクルの観点から—. 2020.2.21. 埼玉.
- 秋山 佑紀. 日本看護研究学会第 45 回学術集会. 2019.8.20-21. 大阪.
- 秋山 佑紀. 令和元年度埼玉県私立短期大学協会教職員研修会. 埼玉私立短期大学協会. 2019.8.28 埼玉.
- 秋山 佑紀. 厚生労働統計協会第 2 回医療職のための統計セミナー. 2019.11.23-24. 東京.
- 秋山 佑紀. 第 27 回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 持田 奈穂美. 第 24 回日本老年看護学会. 2019.6.6. 宮城.
- 持田 奈穂美. 第 16 回日本高齢者虐待防止学会. 2019.9.7. 東京.
- 持田 奈穂美. 第 27 回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 布施 好朗. 日本小児看護学会第 29 回学術集会. 2019.8.3-4. 札幌.
- 布施 好朗. 第 27 回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 杉本 真弓. 第 29 回日本看護学教育学会. 2019.8.3-4. 京都.
- 杉本 真弓. 大学新任教員のための研修会. 2019.2019.8.9. 北海道.
- 杉本 真弓. 第 27 回埼玉看護研究学会. 埼玉県看護協会. 2019.12.7. 埼玉.
- 増田 睦美. 第 19 回日本母子看護学会学術集会. 2019.6.29. 東京.
- 増田 睦美. 大学新任教員のための研修会 2019.2019.8.9. 北海道.
- 増田 睦美. 未来の学びフェス 2019. 2019.8.21-22. 東京.
- 増田 睦美. 第 60 回日本母性衛生学会. 2019.10.11-12. 千葉.
- 増田 睦美. 母性看護教授のポイント. 2019.11.12. 東京.
- 増田 睦美. 産科交流会. 2019.11.30. 埼玉.
- 増田 睦美. 埼玉県看護協会. 助産実践能力習熟段階レベル III 認証更新要件ウィメンズヘルスケア研修—予期せぬ妊娠をした女性の支援—. 2020.2.15. 埼玉.

⑥受賞

⑦ボランティア活動

平良朝子,内田貴峰,瀧山 文恵,鈴木夕岐子,石川 裕貴,持田 奈穂美. 短期大学茶道部ボランティア茶会. 2019.8.23.社会福祉法人 埼玉医療福祉会 特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷.
清水 百子. 利用者支援ボランティア. 2019.7.13. デイサービスセンター蘭風園 (飯能).
清水 百子. 利用者支援ボランティア. 2019.7.27. 老人ホームゆうらく日高 (日高).
清水 百子. 利用者支援ボランティア. 2019.7.30. 友結会 ふるさとけあ (日高).
清水 百子. 季節のイベントボランティア. 2019.8.31. 埼玉医科大学病院 南館 11 階病棟.
石川 裕貴. 短期大学アロマ部ボランティア. 2020.2.20. 社会福祉法人 埼玉医療福祉会 特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷.

⑧その他

(研修会企画・運営)

田村 直俊. 小論文(学術論文)の書き方.埼玉医科大学短期大学第公開講座. 2019. 8.24.
秋山 千恵子. 令和元年度埼玉県私立短期大学協会教職員研修会(座長). 埼玉私立短期大学協会. 2019.8.28.埼玉.
渡邊 あゆみ. 令和元年度埼玉県私立短期大学協会教職員研修会 (書記).埼玉県私立短期大学協会. 2019.8.28. 埼玉.
持田 奈穂美, 布施 好朗, 海野 文子, 加藤 久栄, 小池 啓子, 瀧山 文恵, 霜田 敏子, 平良 朝子. 「地域で健康増進! やってみよう TOMORROW 体操」. 埼玉医科大学短期大学第公開講座. 2019.10.5.
内田 貴峰, 鈴木 夕岐子, 海野 文子, 加藤 久栄. 地域貢献活動第 1 回「手洗い出前講座」. 養光保育園. 2019.6.13.
霜田 敏子, 勝久 淳, 秋山 佑紀, 持田 奈穂美. 地域貢献活動第 2 回「手洗い出前講座」. 保育園めぐみ. 2019.6.20.
霜田 敏子, 宮崎 素子, 海野 文子, 増田 睦美. 地域貢献活動第 3 回「手洗い出前講座」. 毛呂山愛仕幼稚園. 2019.10.31.
内田 貴峰, 清水 百子, 渡邊 あゆみ, 布施 好朗. 地域貢献活動第 4 回「手洗い出前講座」. 毛呂山町立旭台保育園. 2019.11.27.
今野 葉月, 蒲生 澄美子, 秋山 佑紀, 杉本 真弓. 地域貢献活動第 5 回「手洗い出前講座」. ゆずの里保育園. 2019.12.4.
瀧山 文恵, 秋山 千恵子, 勝久 淳, 加藤 久栄. 地域貢献活動第 6 回「手洗い出前講座」. あげぼの幼稚園. 2019.12.11.

(認定・資格等)

小池 啓子. eラーニングプロフェッショナル. eラーニングマネージャー取得. 日本イーラーニング
グコンソシアム. 2020.3.

小池啓子. eラーニングプロフェッショナル. eラーニングエキスパート取得. 日本イーラーニン
グコンソシアム. 2020.3

増田 睦美. アドバンス助産師, 新生児蘇生法「一次」コースインストラクター, 受胎調節実地指
導員.

専攻科

①講義

稲井 洋子. 令和元年度埼玉医科大学中堅看護師研修「看護研究の実際」. 2019.8.6.

稲井 洋子. 母性看護概論. 独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校.
2019.7.5,7.19 (2日間)

稲井 洋子. 排泄機能. 生殖機能. 免疫機能に障害のある成人の看護 (女性生殖器). 独立行政法人国
立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校. 2019.9.13,9.20 (2日間).

稲井 洋子. 母性看護学概論. さいたま看護専門学校. 2020.2.18, 3.3, 3.13 (3日間).

北川 典子. 母性看護学概論. 独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校.
2019.5.17,5.22.

今村 久美子. 母性看護学概論. 独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校.
2019.4.12,4.26,5.10.

②講演その他

稲井 洋子. 北本市マタニティセミナー (後期)「安心して出産・育児を迎えるために、助産師へ
の質問タイム、赤ちゃんをお風呂に入れてみよう」. 北本市保健センター. 妊娠 28 週以降の妊
婦とその家族を対象. 2019.5.30, 2020.1.24 (2日間).

稲井 洋子. 助産師国家試験直前セミナー2020 in 東京. 帝京科学大学千住キャンパス. 助産師学
生 (各回 100 名程度). 2020.1.11, 2020.1.26 (2日間).

稲井 洋子. 助産師国家試験直前セミナー2020 in 大阪. 大阪府助産師会館. 助産師学生 (100 名
程度). 2020.1.25.

③所属学会

稲井 洋子. 日本母性衛生学会, 埼玉県母性衛生学会, 東京母性衛生学会, 日本助産学会, 日本母子
看護学会, 日本生殖心理学会, 日本「性とこころ」関連問題学会, 日本周産期メンタルヘルス学
会.

北川 典子. 日本助産学会,日本母性衛生学会,日本母子看護学会,日本生殖心理学会.
今村 久美子. 日本看護科学学会,日本母性衛生学会,日本助産学会,日本性科学会,日本フォレンジック看護学会.
鈴木 操.日本助産学会,日本母性衛生学会.

④役員歴

稲井 洋子. 日本母子看護学会 (理事/広報)
稲井 洋子. 日本助産診断実践学会 (常務理事/学術担当)
稲井 洋子. 埼玉県母性衛生学会 (理事)
稲井 洋子. 日本分娩監視研究会 (常任幹事)
稲井 洋子. 日本生殖心理学会 (評議委員)
今村 久美子. 日本フォレンジック看護学会 (査読委員)

⑤出席学会

稲井 洋子. メンタルヘルス研修会 (MCMC) .2019.4.27. 東京.
稲井 洋子. 第 37 東京母性衛生学会. 2019.5.19. 東京.
稲井 洋子. 第 10 回全国助産師教育協議会総会. 2019.6.8-9. 大阪.
稲井 洋子. 第 53 回日本分娩監視研究会. 2019.6.22. 東京.
稲井 洋子. 日本「性とこころ」関連問題学会第 11 回学術研究大会. 2019.6.29. 東京.
稲井 洋子. 第 19 回日本母子看護学会学術集会. 2019.6.30. 東京.
稲井 洋子. 日本助産学会ウィメンズヘルスケア・ワークショップ. 2019.7.27. 東京.
稲井 洋子. 全国助産師教育協議会第 8 回関東甲信越地区研修会. 2019.8.31. 群馬.
稲井 洋子. 日本助産診断実践学会第 2 回学術集会. 2019.9.7. 滋賀.
稲井 洋子. 第 35 回日本分娩研究会. 2019.10.10. 千葉.
稲井 洋子. 埼玉県看護協会主催研修会「不妊治療の実際」. 2019.10.10. 千葉.
稲井 洋子. 第 60 回日本母性衛生学会. 2019.10.11. 千葉.
稲井 洋子. 全国助産師教育協議会 コアカリキュラム研修会. 2019.11.3. 東京.
稲井 洋子. 日本助産学会 2019 年度助産政策ゼミ第 2 回. 2019.11.10. 東京.
稲井 洋子. 第 36 回埼玉県母性衛生学会. 2019.11.16. 埼玉.
稲井 洋子. 第 54 回日本分娩監視研究会. 2019.11.24. 東京.
稲井 洋子. 日本助産学会 2019 年度助産政策ゼミ第 3 回. 2019.12.8. 東京.
稲井 洋子. 日本助産診断実践学会学習会「看護診断の動向から助産診断の新しい開発への示唆を得る」. 2020.2.5. 東京.
稲井 洋子. 第 35 回東京母性衛生学会学術セミナー. 2020.2.16. 東京.
稲井 洋子. 第 13 回医療従事者と養護教諭のための性の健康基礎講座. 2020.2.24. 東京.

北川 典子. 第 10 回全国助産師教育協議会総会. 2019.6.8-9. 大阪.
北川 典子. 第 19 回日本母子看護学会学術集会. 2019.6.30. 東京.
北川 典子. 全国助産師教育協議会関東甲信地区研修会. 2019.8.30. 群馬.
北川 典子. 日本助産診断実践学会第 2 回学術集会. 2019.9.6-7. 滋賀.
北川 典子. 第 60 回日本母性衛生学会学術集会. 2019.10.19. 千葉.
今村 久美子. 第 6 回日本フォレンジック看護学会学術集会. 2019.8.31-9.1. 東京.
今村 久美子. 第 60 回日本母性衛生学会学術集会. 2019.10.11. 千葉.
鈴木 操. 指導者のための避妊と性感染症予防セミナー. 2019.6.22. 東京.
鈴木 操. 第 19 回日本母子看護学会. 2019.6.30. 東京.
鈴木 操. 第 50 回日本看護学会-看護教育-学術集会. 2019.8.8-9. 和歌山.
鈴木 操. 全国助産師教育協議会 関東甲信越地方研修会. 2019.8.31. 群馬.
鈴木 操. 第 34 回日本母乳哺育学会学術集会. 2019.9.14-15. 岡山.
鈴木 操. 第 60 回日本母性衛生学会・学術集会. 2019.10.11. 東京.
鈴木 操. 第 47 回母乳育児支援学習会 in 東京. 2020.1.19. 東京.

⑥受賞

⑦ボランティア活動

⑧その他

(学会企画・運営, 実行委員)

稲井 洋子. 第 2 回日本助産診断実践学会. 2019.9.6. 京都. (プレコンgres/研修会. 司会)

稲井 洋子. 第 60 回日本母性衛生学会. 2019.10.11-12. 千葉. (学会企画委員, 一般演題座長)

稲井 洋子. 第 32 回埼玉県母性衛生学会. 2019.11.16. 埼玉. (学会企画担当, 講演座長)

(認定・資格等)

稲井 洋子. 日本子ども虐待医学会. 医療機関対象虐待研修プログラム BEAMS 受講修了.

2019.11.16. 埼玉.

(2) 地域貢献

手洗い出前講座

Plan

- ①看護学科カリキュラム委員会企画として看護学科教員全員で実施する。
- ②幼稚園や保育園で感染症が発生しやすい時期(6月及び11月)に日程を設定し、毛呂山町役場を通して対象施設を募集する。

- ③担当教員の名前が園児にわかるようにひらがなの名札をつける。
- ④本学所有の手洗いトレーニングボックス「グリッターバグ」を使用する。
- ⑤ばい菌に見立てた洗い残しチェック用の蛍光塗料入りクリーム（希釈したもの）を園児の手背に塗布し、手洗い前に見てもらう。
- ⑥手洗い後にばい菌（蛍光剤）が除去できたかを見てもらう。
- ⑦園児が見やすく、興味が持てるようなもの手洗い歌のポスターを作成する。

Do

- ①どこをどのように洗うのかをゆっくり実演した後、手洗い歌（ハッピーバースデーの替え歌）と一緒に歌いながら手洗い方法を練習した。
- ②ばい菌に見立てた蛍光剤をグリッターバグで確認後、手洗いを実施した。手洗い後にばい菌(蛍光剤)が落とせたかを確認し、手洗いの大切さを伝えた。
- ③園児が一度の手洗いで洗い流せるように、蛍光剤を塗布する部位を手背から手掌に変更した。実施状況を下表に示す。

	対象施設	実施日	対象	人数	担当教員
1	育心会 養光保育園	6/13 (木)	年少,年中,年長クラス	28名	内田,鈴木,海野,加藤ひ
2	大学埼玉医科大学 保育園めぐみ	6/20 (木)	3歳児,年少,年中, 年長クラス	60名	霜田,勝久,秋山ゆ,持田
3	聖公会北関東学園 愛仕幼稚園	10/31 (木)	年少,年中,年長クラス 未就学児	46名	霜田,宮崎,海野,増田
4	毛呂山町立 旭台保育園	11/27 (水)	年少,年中クラス 職場体験の中学生	32名 2名	内田,清水,渡邊,布施
5	毛呂山町立 ゆずの里保育園	12/4 (水)	年中,年長クラス	30名	今野,蒲生,秋山ゆ,杉本
6	社会福祉法人曙会 あけぼの幼児園	12/12 (水)	4歳児,5歳児クラス	19名	瀧山,秋山ち,勝久,加藤ひ

Check

実施時期は園からの希望もふまえ、適切に設定できた。実施する園が固定されてきており、園側の受け入れはよかった。また園児が手洗いを楽しみながら行っていた。

Action

- ①実施する園がほぼ固定されてきたので、園の希望を聞きながら手洗い出前講座の内容を検討する。
- ②実施施設を幼稚園や保育園のみではなく、小学生低学年への実施を継続検討とする。

ボランティア活動

Plan

東日本大震災に対して、もしくは同規模の災害の発生に対して、被災地に向け短期大学看護学科として支援する目的で平成23年度に結成した。今年度も情報収集と必要な支援を行う。

Do

①支援活動

東日本大震災をはじめとする災害に見舞われた人（地域）のニーズを把握する情報収集を継続した。

②義援金活動

台風 15 号と 19 号の被害状況を確認し、フリーマーケット（遙光祭）の収益を義援金(約 7 万 9 千円)とした。義援金の送り先は「日本赤十字社の台風 15 号義援金,台風 19 号義援金」、「埼玉医科大学台風 19 号義援金」、「さくら並木ネットワーク(桜苗木 1 本分)」である。

③ボトルキャップの回収

ボトルキャップを回収し、「キャップの貯金箱推進ネットワーク」へ 3 回送った。

Check

東日本大震災の復興をはじめとする、災害関連の情報収集は今後も継続し、必要な援助を見極める必要がある。義援金活動では、災害に対して速やかな義援金の対応が行えた。キャップの総重量は 29.63kg で約 14 名分のポリオ等のワクチン代になった。更に、キャップを送ることで、障がい者がキャップ洗浄の就労に付けることから、お礼のメッセージが 5 施設から届いた。

Action

東日本大震災をはじめとする災害に見舞われた人（地域）のニーズを把握する情報収集を継続して行う。義援金活動は東日本大震災（津波到達地点）に桜を植える活動への基金の継続や、災害に対する募金等の速やかな対応を行う。さらに、世界の子どもたちを対象としたワクチン購入と障がい者への働く場の提供に賛同し、ボトルキャップの回収といった活動も継続する。

高校生“夢”プラン

Plan

埼玉県民の日（11 月 14 日）高校生「学び」“夢”プランへの参加は、平成 26 年に第 1 回目を行い、今年度は第 5 回目を以下のように計画し実施した。

①目的 高校生が普段の大学・短大の授業を学生と共に受講することにより、将来の学校や部選択の参考にする。また将来の職業や生き方を考える機会とする。

②日時 2019 年 11 月 14 日（木） 8:30～13:00

③参加者 1) 埼玉県立浦和商業高等学校 1 名（2 年生）

2) 埼玉県立鷺宮高等学校 1 名（2 年生）

④スケジュール

時間	内 容	場 所	備 考
8:30	1. 受付（資料・昼食券受領） 2. オリエンテーション	1 F 事務部 控え室 (1 F 会議室)	・事務部窓口で受付を済ませ控え室へ移動 ・担当者の紹介を受けた後、自己紹介する ・資料、注意事項について説明を受ける
8:55 9:00 ↓ 10:30 ↓ 10:40 ↓ 11:20	3. 受講 1 限目：科目【成人看護技術Ⅰ】 (鈴木夕岐子先生他) 1 限目終了 (休み時間) 2 限目：科目【老年看護Ⅱ】 (瀧山文恵先生) 受講終了、控え室へ移動	2F 実習室 控え室へ移動 3F 2 教室 控え室へ	・実習室へ移動し受講する(90分受講) ・教室へ移動し受講する (11:20になったら在学生の誘導で食堂へ移動) ・食事をしながら在学生(2名)と懇談 ・食事終了後、控え室へ移動する
12:20 ↓ 12:40 ↓	4. 昼食・在學生と懇談 ・食事後、休憩(控え室で懇談) 5. 学内見学 6. ミーティング	職員食堂 控え室 短大校舎内 控え室	 ・学生・教員の案内により学内を見学する ・本日の内容を振り返り疑問点・感想等について話合う
13:00	7. 終了		・名札を返却し終了

Do

実施要領に基づいて実施した。参加校は2校で参加生徒は2年生2名、引率教員1名の予定であったが、教員は各大学を巡回中ということで来校しなかった。学内実習、講義は在學生(2年次生)と共に受講した。在學生との懇談では、3年次の在學生2名と職員食堂で昼食をとりながら学生生活や将来の道について懇談した。昼食後は在學生と教員の案内で7階大講堂及び図書館から地下1階の大教室まで見学した。まとめとして参加生徒と担当教職員でミーティングを行った。

Check

参加生徒は在學生とともに学内実習を体験し、グループワークを入れた授業に参加した。これにより大学における専門科目の授業を体験できたと考える。受講後は、「おもしろかった」、「楽しかった」という感想がきかれ、90分の授業も集中して聴講していた。昼食しながら在學生とも笑顔で懇談していた。参加生徒2名とも、看護師をめざしているということで、今回の参加は有意義だったとの感想であった。これらのことから企画の目的は達成されたと考える。

Action

県民の日(11月14日)が土曜日、日曜日になる場合は開講していないので協力できない。また本学に対しての高校生の希望がなければ実施できないが、希望がある限りは協力していく。

(3) 公開講座

Plan

看護学科カリキュラム委員会企画として公開講座を実施する。実施回数は2回とする。

①公開講座<1> テーマ「小論文の書き方」

日時：令和元年 8 月 24 日（土）オープンキャンパス同時開催

対象：本学の受験希望者及び保護者

②公開講座<2> テーマ「地域で健康増進！やってみよう TOMORROW 体操」

日時：令和元年 10 月 5 日（土） 遙光祭同時開催

対象：近隣住民、遙光祭参加中の高校生・保護者等、本学学生

Do

①公開講座<1>

場所	7階大講堂 9:45~10:30
内容	受験希望者を対象に、小論文の書き方に関する講義型プログラム
講師	看護学科教授 田村直俊
教材	資料配付
参加者数	112名 内訳 高校3年生：82%，高校2年生：13%，予備校生・社会人等：1%，保護者：2%，その他：1%

[アンケート結果]

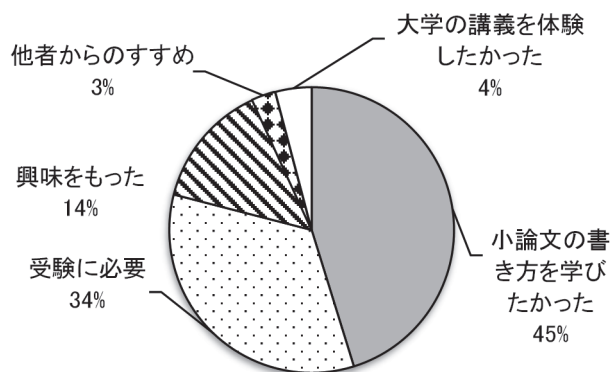
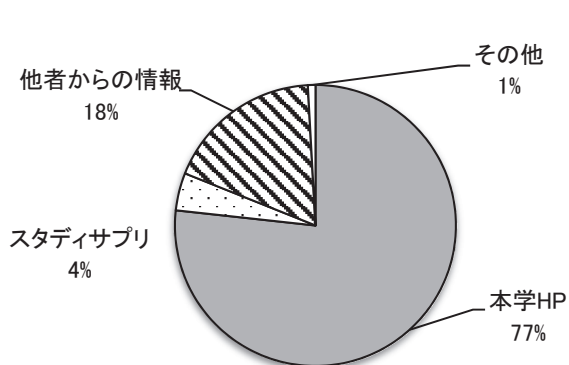


図 1. 公開講座を知ったきっかけ

図 2. 公開講座を受講動機（複数回答可）

・内容の満足度（4段階評価：4満足～1不満足）

4：82名（73.2%） 3：28名（25%） 2：6名（5.4%） 1：0名（0%）

②公開講座<2>

場所	3階教室2	・1回目 11:00~11:30	・2回目 14:00~14:30
内容	毛呂山町の健康体操「TOMORROW 体操」を題材に手軽にできる運動を提案する。さらに、リストウェイトを用いて負荷をかけ、身体の変化（脈拍の変化）に興味をもっていただく体験型プログラム		
講師	看護学科教員が担当（老年看護学、小児看護学、在宅看護学） 【主担当者】 持田菜穂美、布施好朗、加藤久栄、海野文子 【副担当者】 平良朝子、瀧山文恵、霜田敏子、小池啓子		
教材	資料配付、リストウェイト 予算なし。 購入品を決定し申告		
参加者数	11:00～ 20名 内訳：在学生10, TJUP3, 職員2, 大人2, 高校生2, 教員1 14:00～ 20名 内訳：在学生6, 職員1, 大人4, 教員7, 子ども2 単位：名		

Check

公開講座<1>は例年通りの内容と方法である。参加者による満足度は高い。参加のきっかけとなる情報取得には本学のホームページを介している者が多く、情報開示と参加者募集については引き続き効果的な方法で実施する。

公開講座<2>は、看護学科教員による体験型プログラムを実施した。今年度は TJUP（埼玉東上地域大学教育プラットフォーム）との連動による講座の位置づけであったが、参加者にとっては遙光祭の中のイベントの一部に過ぎない印象であり、TJUP の活動理念に沿うものであったかは不明である。

Action

- ①オープンキャンパス、遙光祭との同時開催における位置づけの明確化をはかり、参加者誘致について検討を続ける。
- ②公開講座<2>については、その意義を明確にし、実施者に依頼することが望まれる。

(4) 高大連携事業

Plan

高大連携事業の目的は「高校生に対して、看護に関する学習の機会を設け、大学及び看護への関心を高める。また、高等学校と大学の教職員間で教育上の情報交換を行い、相互理解を促進する。」とし、今年度は高校生対象の事業を1回、教職員間の情報交換会は2回計画した。

Do

①高校生対象の事業

- 日時と会場 2019年7月13日（土）13:30～15:30、埼玉医科大学短期大学校舎内
- プログラム
- i. 看護への道（看護師・助産師・保健師・養護教諭等のコースの紹介含む）
 - ii. 講義「看護とは ―看護の役割とは―」

iii. 体験「足浴」(2箇所でのデモンストレーションを行った。)

iv. 校内見学

v. 卒業生との懇親会

参加校と参加人数 i. 埼玉平成高等学校 4名(生徒3名,教員1名)

ii. 坂戸西高等学校 10名(生徒9名,教員1名)

iii. 武蔵越生高等学校 10名(生徒9名,引率教員1名)

担当者 i. 事務職員 2名、ii. 教員 6名、iii. 在校生 6名(参加校の卒業生2名ずつ)

②教職員間の情報交換会

第1回 日時と会場 2019年7月13日(土) 14:45~15:20、埼玉医科大学短期大学校舎内

テーマ:高等学校と大学の教育の現状-相互に確認したいこと・伝えたいこと-

第2回 新型コロナウイルス感染対策の一環により中止した。

Check

①参加校は3校で、引率教員を含めた参加者の合計は24名であった。

②高校生を対象としたプログラムに関するアンケートの結果は次のとおりで、ほぼ全ての項目で「理解できた」、「看護への興味・関心が高まった」と回答している。

アンケートの「参加した理由」は、「看護に興味がある」、「進路選択の参考にしたい」といった意見が大半を占めており、「本日の感想」では「卒業した先輩から学校や授業の様子が聞けて良かった。」や「先輩から直接話を聞き、現実的に考えられるようになった」といった意見が目立った。

以上の結果から、「看護に関する学習の機会を設け、大学及び看護への関心を高める」という本事業の目的はほぼ達成したと考える。特に「卒業生との懇親会」では昨年度と異なり全員が「満足」と回答していた。このような結果となった要因は、今年度から懇親会は在校生がリーダーシップを発揮して運営するようにしたため、高校生が遠慮無く質問できる雰囲気になったと考える。

n=21

項目		結果					
看護への道	理解	できた	4:19名	3:2名	2:0名	1:0名	難しい
	理解	できた	4:19名	3:2名	2:0名	1:0名	難しい
講義	看護への興味・関心	高まった	4:19名	3:2名	2:0名	1:0名	変わらない
	満足	できた	4:19名	3:2名	2:0名	1:0名	できない
体験	看護への興味・関心	高まった	4:19名	3:2名	2:0名	1:0名	変わらない
	満足	できた	4:17名	3:3名	2:0名	1:0名	できない
校内見学	満足	できた	4:21名	3:0名	2:0名	1:0名	できない
卒業生との懇親会	満足	できた	4:21名	3:0名	2:0名	1:0名	できない
プログラム全体	おもしろさ	面白い	4:21名	3:0名	2:0名	1:0名	面白くない
	時間配分	ちょうど良い	4:20名	3:1名	2:0名	1:0名	適切でない

③教職員間の情報交換会では、意見交換の話題は「専門学校と短期大学の違い」といった進路選択に関わる内容や、「看護師国家資格を取得する上で必要な能力」や「新聞を読む、読書をする習慣と情報の検索手段」、「高等学校で行っているグループディスカッション」といった看護学科のアドミッションポリシーに定められている「知識・技術」や「思考力・判断力・表現力」に関わる内容であった。情報交換の結果、高校生が本や新聞を読まなくなっている現状や、授業方法にグループディスカッションを取り入れてはいるものの意見を述べることを苦手としている生徒が多いといった現状を知ることができた。

Action

高校生を対象としたプログラムは今年度同様の内容で行い、特に在校生が懇親会の趣旨を理解しリーダーシップを発揮しながら運営できるように計画する。

教職員間の情報交換会では、「入学前教育のあり方」や「学力の三要素の教育」等についての情報交換を行う過程で、参加校(高等学校)及び短期大学との相互理解を促進するように事業を継続する。

(5) 正課授業の開放

Plan

- ①本学に興味があり受験を考えている高校生及び社会人に対して正課授業を公開する。
- ②参加しやすく、多くの授業を選択できるように日程の調整をする。
- ③看護学科カリキュラム委員会が企画をし、事務部学務課の協力を得て実施する。
(前期授業は4月下旬、後期授業は8月初旬にホームページ上で募集)
- ④公開する授業は「看護の基本」、「ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法」、「看護の総合」の科目とする。

Do

- ①参加者の内訳：高校1年生1名、高校3年生5名の合計6名であった。参加状況は表に示す。

表 1.前期：令和元年5月7日～7月29日

開講日	限	授業科目名	参加数
7月29日(月)	3	老年看護Ⅰ	1

表 2.後期：令和元年9月24日～令和2年1月31日

開講日	限	授業科目	参加数
10月10日(木)	1・2	老年看護Ⅱ	1
10月29日(火)	2	災害・救急看護	1
1月7日(火)	1・2	災害・救急看護	2
1月7日(水)	3	成人看護Ⅱ	1

- ②授業公開に関するアンケートの結果

正課授業の公開を知ったきっかけは「ホームページをみた」5件、「他者からの情報で知った」1件であった。参加の動機では「本学の様子を知りたかったから」6件、「本学の講義を体験したかったから」5件、「本学の講義に興味を持ったから」3件であった。

参加者の感想は「本学の様子がわかった」、「学生の雰囲気がわかった」、「学生の対応がよかつ

た」、「進路決定する上で参考になった」、「オープンキャンパスではわからなかったことがわかった」、「受験をしようと思った」、「講義の内容に興味を持てた」という内容であった。

Check

昨年度の参加人数 2 名から今年度は 6 名と増えた。その要因としては早い時期に正課授業の公開の案内をホームページ上に掲載したことが考えられる。参加者のアンケート結果では、本学の情報を得るのにホームページを参考にしていた。参加者 6 名中 5 名が高校 3 年生であり、受験を見据えて本学の授業に参加したと思われる。感想でも本学に興味があつて実際に授業を体験することで、様子や雰囲気がわかり良かったと好意的な意見が多く聞かれたため、本学を知ってもらう良い機会になったと思われる。今後も看護師を志望する方のために正課授業の公開は継続して行う必要はある。参加者を増やすための今後の課題として、オープンキャンパスや進路説明会などでも宣伝する。また、参加しやすくなるように申し込み方法を検討する。今年度、授業参加に遅れた高校生の対応に不手際があった。委員会で授業参加に遅れた方の対応方法を検討し、マニュアルに追加した。

Action

ホームページ上のバナーの位置や大きさ等を検討する。前期授業 4 月中旬、後期授業は 8 月初旬に参加者の募集を行う。

3)生活への支援

(1)奨学金制度

奨学金として次の制度を活用している。

①本学奨学金制度

看護学科全員を対象、月額 50,000 円貸与。

②日本学生支援機構奨学金制度

全学科を対象としている。貸与を受けている学生は次の通りである。

(令和元年 8 月 1 日現在)

	1 年生	2 年生	3 年生	合計
看護学科	35 名	32 名	29 名	96 名
専攻科 母子看護学専攻	—	—	—	—

貸与額 (令和元年 8 月 1 日現在)

第一種 (無利子)

	自宅通学月額	自宅外通学月額
H 29-R 元年度入学生	53,000	60,000

第二種 (有利子)

月額 20,000 円～120,000 円より選択(10,000 刻み)

③埼玉県育英奨学金制度

全学科を対象としている。貸与を受けている学生は次の通りである。

(令和元年 8 月 1 日現在)

	1 年生	2 年生	3 年生	合計
看護学科	0 名	0 名	0 名	0 名
専攻科 母子看護学専攻	0 名	—	—	0 名

貸与額：月額 36,000 円

(2)学生寮・家主会

①学生寮

キャンパス内に看護学科の希望者を対象とした学生寮がある。

入寮者 (平成31 年4 月1 日現在)

	1 年生	2 年生	3 年生	計		寮費 (月額)	
女子	42名	48名	43名	133名	女子寮	1 人部屋	15,000 円
						2 人部屋	12,000 円
						4 人部屋	6,000 円

②家主会 (埼玉医科大学家主会)

家主会(埼玉医科大学家主会)：埼玉医科大学家主会は、近隣のアパート・マンションの入居案内をボランティアで行っている大家(家主)の会であり、特に学生の学習に適した環境整備に力を入れている。

(3)食堂・売店

毛呂山キャンパスには、職員食堂があり、学生も 1 食 350 円で日曜祭日も含め昼・夕食共利用できる。利用時間：昼食 11：00～14：00、夕食 17：00～18：50

構内レストランも利用可能である。丸木記念館 1F：フォンテーヌ、本部棟 2F：カフェテリア、9 号館：マクドナルド、東館：タリーズコーヒー

コンビニエンスストアがオルコスホールの隣にあり、5 号館にも売店がある。また、校舎 1 階ロビーに昼食等の出張販売 (利用時間：11：50～13：00) が来る。

(4)駐車場

学生が利用できる駐車場として「阿諏訪駐車場」がキャンパスの近くにあり、料金は 19,440 円 (1,620 円×12 ヶ月) の年間一括払いとなっている。

(5)生活支援

Plan

看護学科学生部委員を中心に、アドバイザー等の協力を得ながら学生生活の支援、学生生活の支援を行う。

①学生生活の支援

- ・体調管理やスケジュール管理等の意識付けを目的とした月間目標の掲示(右表参照)
- ・夏季・冬季休業前の安全面・学習面に関する指導
- ・適切な SNS (Social Net-working Service) の利用についての指導
- ・接遇向上のための取り組み
- ・学習環境の整備
- ・学生寮の点検
- ・ロッカー室の点検
- ・寮生活に関する相談対応

表 看護学科学生部委員会 月間目標

月	月間目標 (テーマ)
4	あいさつでつなぐ・広める短大の輪
5	スケジュール管理でスクールライフをエンジョイしよう
6	体調管理 (食中毒予防) に気をつけよう
7・9	防犯強化月間
10	スケジュール管理でスクールライフをエンジョイしよう
11	感性を磨こう
12	体調管理 (インフルエンザ予防) に気をつけよう
1・2	国家試験、定期試験に向けて計画的に勉強しよう

②学生生活の支援

- ・学生会活動の相談対応
- ・大学祭 (遙光祭) の相談対応
- ・卒業アルバム・謝恩会の相談対応
- ・週番への役割を指導

Do

学生生活の支援では、月間目標の掲示、長期休業前の指導、適切な SNS の利用についての指導、接遇向上のための取り組み、ロッカー室の使用状況の定期的な点検、週番による授業終了後の節電と後片づけの校内放送、学生寮の点検と生活指導 (感染予防) を行った。また、女子更衣室ロッカーの鍵の暗証番号部分に目隠しをつけ盗難防止につとめる活動を継続した。接遇向上のための取り組みとして、2年次生はアドバイザーごとにチェックリストを作成し、それをもとにアドバイザーの1年次生へ指導を行った。また、3年次生からも看護を行う上でいかに接遇が重要かについて1年次生に話してもらった。年度末には1・2年次生合同で最終評価を行い、次年度のチェックリストを作成し接遇向上の取り組みを行った。

学生生活の支援では、学生が主体となって企画運営を行うよう、学生会や遙光祭では相談に応じた。また、学生会費の使用方法について、学生会や各クラブの部長へ見直しや検討への指導を行った。

Check

学生生活の支援として、SNSの利用についての指導では、情報の投稿についての指導を強化した。2年次生と3年次生からの1年次生への接遇指導については、実際に臨地実習での経験を踏まえた話を1年次生は真剣に聞いていた。また、1年次生は入学してしばらくは挨拶をする学生が少なかったが、次第に明るい笑顔で挨拶ができるようになってきた。実習先でも、エレベータ内での対応等他者への配慮ができるようになった。学内環境の整備では、学生がお互いに声を掛け合い、自主的に整理整頓を行うようになった。寮内でインフルエンザや胃腸炎等の感染性疾患が発生したときには、寮長を通して感染予防策を徹底するよう指導したこと、すみやかに保健室へ隔離し、その後自宅で療養するよう指導したことで、感染拡大の予防につながった。

ノロウイルス感染に備えた用品セットを保健室に置き、使用方法を寮生に説明した。学生生活への支援として、学生会の運営、遙光祭の企画運営に関する相談に対応し、事故なく安全に運営できた。学生会では、学生会費の使用方法を一部見直すことができた。

Action

学生生活の支援では、学生のSNS利用状況全てを把握することは困難であるが、指導時期や方法を工夫し、特に実習時の指導を徹底するよう全教員が意識する。接遇向上のための取り組みは、今年度と同様に2年次生が作成したチェックリストをもとに1年次生へ指導を行う。学内環境の整備では、引き続きロッカーの使用状況の点検を行う。学生寮の生活指導は定期的な点検に加え、必要時点検し、快適な集団生活を送れるよう関わる。

学生生活への支援では、学生が主体となってさまざまな学生生活活動に参加・協力するよう関わる。また、学生会費の使用方法についての見直しや検討は継続していく。

4) 学生の健康管理

健康管理委員会が担当している。活動内容は以下の通りである。

- (1) 新入生オリエンテーション：4月2日
- (2) 健康診断：5月9, 10, 11日
- (3) B型肝炎抗体価検査 1回目：健康診断時に実施
2回目：11月6, 7, 8日（予備日11月20日）
- (4) B型肝炎ワクチン接種：5月27日, 6月24日, 10月17日（予備日10月23日）
- (5) 麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体価検査：B型肝炎抗体価検査と同時に実施
- (6) インフルエンザワクチン接種：11月20日（予備日12月13日）

5) クラブ・同好会

本学の建学の精神である「師弟同行の学風の育成」をもとに、各クラブ・同好会活動が円滑にすすむように、顧問をはじめ、有志の教員が学生とともに活動に参加している。

2019年度クラブ・同好会と顧問の配置状況は以下の通りである。

令和元年6月1日現在

	団体名	代表責任者	学年	顧問	資格	会員数
1	茶道部	愛沼 結花	2	瀧山 文恵	クラブ	14
2	日本舞踊部	矢野 櫻	2	霜田 敏子	クラブ	4
3	華道部	小谷野 真那	2	今野 葉月	クラブ	9
4	バドミントン部	青津 汐音	2	鈴木 夕岐子	クラブ	30
5	アロマセラピー部	星 芽衣	2	石川 裕貴	クラブ	25
6	ダンス部	山形 良美	2	蒲生 澄美子	クラブ	6
7	バスケットボール部	宮崎 理緒	2	清水 百子	クラブ	5
8	軽音楽部	深谷 萌子	2	加藤 穂高	同好会	9
9	室内アンサンブル同好会	橋口 詩織	2	内田 貴峰	同好会	5

6) 学生のボランティア活動

看護学科では、平成21年度入学生を対象に新科目「社会活動」が開講した。選択科目であるが、令和元年度の履修学生は88名だった。この「社会活動」科目履修者も含め、全75件のさまざまなボランティア活動に、1年次生はのべ139名、2年次生はのべ8名、3年次生はのべ14名が参加した。詳細は、下記の令和元年度ボランティア活動一覧を参照

令和元年度 ボランティア活動一覧

No.	活動名 (活動内容)	期間	場所	参加人数		
				1年	2年	3年
1	Quatuor bebe 胎児ちゃんと音楽会	4/20	さいたま市産業文化センター			2
2	社会活動	5/20	埼玉医科大学キャンパス内			7
3	第1回FTR飯能一般ボランティア	6/15～16	飯能中央公園	5		
4	第39回UP RUN 荒川東大島河川敷マラソン大会	6/22	荒川河川敷大島小松川公園	2		
5	第7回お茶香る狭山茶マラソン	6/30	県営狭山稲荷山公園	4		
6	農しごと弟子入り道場 梅農家に弟子入り	6/8	越生町	3		
7	Color Me Red Tokyo 2019	7/13	味の素スタジアム	11		
8	第14回葛西臨海公園ナイトマラソン	7/13	葛西臨海公園汐風の広場	2		
9	第95回小松菜マラソン	7/14	荒川河川敷	2		
10	特別養護老人ホームのボランティア	7/14～15, 8/11～13	特別養護老人ホーム四季の郷上尾	2		
11	第7回季節の彩湖ハーフマラソン	7/26	埼玉県戸田市彩湖・道満グリーンパーク	2		
12	第60回スポーツメイトラン皇居マラソン	7/27	皇居外苑	2		
13	お化け屋敷 イベントボランティア	7/27,8/22～ 23	坂戸児童センター	2		

14	第0回ジャングルぐるぐるMAX	7/6~7	ゆうパークおごせ	4		
15	YOKOHAMASTAR NIGHTRUN2019	7/7	横浜赤レンガ倉庫	1		
16	豊洲ぐるり公園ナイトハーフマラソン	8/10	豊洲ぐるり公園	1		
17	東京都北区赤羽マラソン	8/10	東京都北区赤羽 新荒川大橋高架下	2		
18	第32回 埼玉サマーキャンプ	8/11~14	埼玉県立名栗げんきプラザ	1	1	1
19	ゆめねこ譲渡会	8/12	八重洲ファーストビル	1		
20	チャレンジキャンプ	8/12~16	名栗げんきプラザ	3		
21	鎌倉逗子葉山海水浴場ごみゼロナビゲーション	8/13	森戸海岸海水浴場	1		
22	学童保育ボランティア	8/13~20	鶴ヶ島市学童保育つばきやまクラブ 道院高原	1		
23	学童保育 サマーキャンプ	8/13~20	新潟県道院高原 学童保育	1		
24	2019 彩の国ボランティア in HIDAKA	8/14	介護老人保健施設日高の里	1		
25	西日本豪雨写真洗浄ボランティア	8/14,16,30,9/13,20	武蔵野市尼社協ボランティアセンター武蔵野分室	1		
26	所沢市立柳瀬保育園でのボランティア	8/14~15	所沢市立柳瀬保育園	1		
27	1500 万年前の海の不思議！たっぷり化石発掘体験ツアー	8/15	東松山市化石と自然の体験館	1		
28	西尾市民病院ボランティア	8/15,17,20,21,27,30,9/3~6	西尾市民病院	1		
29	2019 そらまめ夏休みウォーターキャンプ	8/15~18	管沼キャンプ村	2		
30	すばる探検隊	8/15~18	小川げんきプラザ	2		
31	2019 ボランティア体験プログラム	8/16,8/26~27	増美保育園	1		
32	ジャパンキャンサーフォーラム	8/17~18	国立がん研究センター築地キャンパス	2		
33	いばらき子ども自然体験キャンプ	8/17~20	県立里美野外活動センター	4		
34	川滝探検キャンプ	8/17~20	富士山 YMCA	2		
35	なみあい夏キャンプ	8/17~21	長野県下伊那郡阿智村浪合 1564	8		
36	小松菜マラソン	8/18	荒川河川敷	1		
37	サマーキャンプ in 信州@菅平高原	8/18~21	菅平高原	4		
38	サマーキャンプ・アシスタント	8/18~21	菅平高原	1		
39	第42回埼玉医科大学病院小児アレルギーサマースクール	8/18~21	千葉県立水郷小見川少年自然の家	2		
40	医療法人白報会グループ所沢幸楽園	8/19	所沢幸楽園	1		
41	きらめきクラブしんめい 元気な子どもと遊ぼう	8/19,21,26~29	放課後児童クラブしんめい	1		
42	柳瀬保育園でのボランティア	8/19~20	埼玉県所沢市本郷 297-1	1		
43	レイモンド坂戸保育園でボランティア	8/19~21	レイモンド坂戸保育園	1		
44	読書ボランティアグループ Jらっく文庫	8/20	防衛医科大学校病院	1		
45	森の幼稚園でのボランティア	8/20,25	初沢山、南浅川	1		
46	横浜 YMCA 道志パイオニアキャンプ	8/20~23	杉の里キャンプ場	1		

47	道志・パイオニア4キャンプ	8/20～23	山梨県道志村 杉の里キャンプ場	1		
48	夏！ボランティア2019	8/20～24	さつき保育園	1		
49	納涼茶会ボランティア	8/23	特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷	6	2	
50	坂戸東グループホームそよ風	8/24	坂戸市日の出町2-12	1		
51	千代田児童センターでのボランティア	8/24,26	千代田児童センター	1		
52	高館山少年教室一泊研修	8/24～25	山形県朝日地区大鳥自然の家	1		
53	なみあい夏キャンプ	8/24～28	長野なみあい遊楽館 通年合宿センター自然生活学舎	1		
54	幼保連携型認定こども園にだこども園でのボランティア	8/24～9/7	秋田県秋田市仁井田本町三丁目5番48号	1		
55	24時間テレビチャリティキャンペーン	8/25	岩手県	1		
56	所沢市立新所沢けやき通り老人デイサービスでのボランティア	8/26	所沢市立新所沢けやき通り老人デイサービス	1		
57	2019 彩の国ボランティア inHIDAKA	8/26	武蔵台公民館	1		
58	川越市児童センター 子どもの城	8/27～29	川越市石原町1-41-2	1		
59	夏！体験ボランティア2019	8/28,30	デイサービスセンターまちいろ	1		
60	いぶきの夏祭り	8/28～29	我が家の古民家ディいぶき	1		
61	なみあい夏キャンプ	8/28～31	長野なみあい遊楽館 通年合宿センター自然生活学舎	9		
62	埼玉スタジアムナイトハーフマラソン	8/31	埼玉スタジアム	2		
63	水原の森自然ふれあい楽習2019	8/31～9/1	群馬県みなかみ町藤原三菱UFJ 水原の森	2		
64	彩の国ボランティア体験プログラム	8/7	日高の里	1		
65	彩の国ボランティア体験プログラム	8/9	日高総合公園	1		
66	院内・診察補助ボランティア	8/9～10	関医院			1
67	献血ボランティア	8月,9月	川越クレアモール 献血センター	1		
68	第99回小松菜マラソン	9/1	東大島駅 小松川口	1		
69	第99回小松菜マラソン	9/1	荒川河川敷	1		
70	東金子保育所 保育ボランティア	9/10～12	入間市立東金子保育所	2		
71	代々木funランマラソンボランティア	9/14	東京都江戸川区陸上競技場	1		
72	献血ボランティア	9/14, 17～19	川越クレアモール 献血センター	1		
73	献血ボランティア	9/5,6,17	川越クレアモール 献血センター	2		
74	キッズキャンプ	9/7～8	埼玉県児玉郡神川町池田756	1		
75	アロマ部 ハンドマッサージ	2/20	特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷	1	5	3
	計75件			139	8	14

Ⅲ 教育資源と財的資源

1. 人的資源

1) 活動組織

(1) 活動組織

① 事務

学務課の主たる業務は、教育課程の編成及び授業に関すること、学業成績に関すること、学生の入学・進級・卒業・休学・留年・退学・除籍等に関すること、国家試験に関すること、講義室・学生寮の管理に関すること等である。

庶務課の主たる業務は、事務部の事務に関し連絡調整に関すること、教授会その他本学に係わる会議開催に関すること、学則・諸規程の制定・改廃に関すること、学生の募集に関すること、入学試験に関すること、調査統計等回答・報告に関すること等である。

学校群統括部長		内田 和利
事務部	部長	相田 香
庶務課	係長 課員	堀江 浩子 佐藤 真
学務課	係長 主任 課員	島田 典明 矢部 則昭 本間 美咲

② 教員

	専任教員					非常勤講師	
	教授	准教授	講師	助教	助手	法人内	法人外
基礎教育	—	—	0	—	—	4	15
看護学科	7	4	5	12	—	74	10
専攻科 母子看護学専攻	1	—	2	1	—	26	12

③ 司書 1名

2) 学生による授業評価

Plan

授業評価は「教員各自が担当科目の授業方法を向上させ、学生の教育満足度を上げる方法の1つとする」という目的で、看護学科、専攻科の非常勤教員を含む全教員で行っている。評価用紙は「講義用」「演習用」「臨地実習用」の3種類（p.100-104）である。

Do

- (1) 授業評価アンケートはそれぞれの項目を5段階評価にし、合計得点を100点に換算して、講義用、演習用、臨地実習用の平均をレーダーチャートで表している。この結果は「学生による授業評価アンケート集計報告書」として教員のみではなく学生にも公開している（学生による授業評価アンケート集計報告書参照）。
- (2) 平成29年度から教育の質の向上を図ることをねらいとして、全専任教員が授業評価アンケートの集計結果を基に授業改善策を立案し、授業実施後、評価した結果を看護学科長、専攻科長に

提出している。

Check

- (1) 授業評価アンケートの回収率は大半の科目が 80%以上であり、評価結果は 70 点以上であった。このことから、授業はおおむね学生の満足が得られていると考えられる。臨地実習用のアンケート用紙は今年度初めて使用したものであるため、評価項目、評価基準等の適切性について検証する必要がある。
- (2) 学生による授業評価アンケートの集計結果の活用では、教員個々が担当した授業の評価結果が最も低かったものについて、その原因の分析と改善策を考え実行してきた。このように教員個々が PDCA サイクルを稼動しながら授業改善を行うことにより、さらに教育の質は向上すると考える。

Action

- (1) 学生の教育満足度を上げるために以下の内容を実施する。
 - ①臨地実習用の授業評価アンケート項目、評価基準の適切性を検証する。
 - ②自己点検・評価委員会、IR 委員会からのデータを共有しながら、学生の教育満足度のみではなく、実質的な学力向上の方策を検討する。

【授業評価アンケート】

看護学科

授業評価アンケート(講義用)

埼玉医科大学短期大学
自己点検・評価委員会

このアンケートは、講義担当教員が、次回からの講義をより良いものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この講義について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

[A:満足 B:やや満足 C:普通 D:やや不満 E:不満]

1. 教員の声の大きさは適切であった。
2. 話し方は明快で、その速さは適切であった。
3. 教員の熱意が感じられた。
4. 教科書、参考資料(プリント等)の使用は適切であった。
5. 黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。
6. 参考文献等の紹介は適切であった。
7. シラバスにほぼ沿うように進められた。
8. 要点が理解できる内容であった。
9. 講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。
10. 他の講義とのつながりが説明されていた。
11. 講義は学生の知識・力量等に合わせて進められた。
12. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つよう努めていた。
13. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
14. 迷惑行為(私語、携帯電話の操作等)に対して適切な対応をしていた。
15. 集中して聴ける講義であった。
16. 知的好奇心が刺激される講義であった。
17. 新しいものの見方が得られる講義であった。
18. さらに深く学びたいと思える講義内容であった。
19. 総合的にこの講義は良かった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A:あてはまる B:ややあてはまる C:普通 D:ややあてはまらない E:あてはまらない]

20. 講義を受けるための事前準備(シラバスの確認・予習等)を行った。
21. 講義中は集中して聴いていた。
22. 迷惑行為をしなかった。
23. 教員の説明内容を積極的に書き留めた。
24. 不明な点は、担当教員に質問した。
25. 講義内容は授業中に理解できた。

このアンケートは、次回からの演習をよりよいものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この演習について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

尚、該当しない項目には「C」を、マークして下さい。

[A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満]

1. 演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。
2. 教科書、参考資料（プリント等）の使用方法・量は適切であった。
3. 要点が理解できる内容であった。
4. 演習に使用する器具・機器の使用法の説明が具体的でわかりやすかった。
5. 教員のデモンストレーション等は適切であった。
6. 教員の熱意が感じられた。
7. レポートの量・提出期限は適切であった。
8. レポートの書き方・考察の指導は適切であった。
9. 提出した学習課題の指導は適切であった。
10. 提出した課題の返却時期は適切であった。
11. 正しい知識・技術を習得できるように、その都度、教員は指導していた。
12. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
13. 学生の知識・力量等に合わせて進められた。
14. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。
15. 迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。
16. 積極的に参加できる演習であった。
17. さらに深く学びたいと思える演習内容であった。
18. 総合的にこの演習は良かった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない]

19. 演習を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）を行った。
20. 演習中は積極的に取り組んだ。
21. 迷惑行為をしなかった。
22. グループワークは協調性をもって行えた。
23. 不明な点は、担当教員に質問した。
24. 演習内容は授業中に理解できた。

専攻科

授業評価アンケート（講義用）

このアンケートは、講義担当教員が次回からの講義をより良いものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この講義について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

[A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満]

1. 教員の声の大きさは適切であった。
2. 話し方は明快で、その速さは適切であった。
3. 教員の熱意が感じられた。
4. 教科書、参考資料（プリント等）の使用は適切であった。
5. 黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。
6. 参考文献等の紹介は適切であった。
7. シラバスにほぼ沿うように進められた。
8. 要点が理解できる内容であった。
9. 講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。
10. 他の講義とのつながりが説明されていた。
11. 講義は学生の知識・能力等に合わせて進められた。
12. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。
13. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
14. 迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。
15. 集中して聴ける講義であった。
16. 知的好奇心が刺激される講義であった。
17. 新しいものの見方が得られる講義であった。
18. 次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える講義内容であった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない]

19. 講義をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。
20. 講義中は集中して聴いていた。
21. 迷惑行為をしなかった。
22. 不明な点は、教員に質問した。
23. 講義内容は授業中に理解できた。

授業評価アンケート（演習用）

このアンケートは、次回からの当演習をより良いものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この演習について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

尚、該当しない項目には「C」を、マークして下さい

[A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満]

1. 演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。
2. 教科書、参考資料（プリント等）の使用方法・量は適切であった。
3. 演習に使用する器具・機器の使用法が具体的でわかりやすかった。
4. 教員のデモンストレーション等は適切であった。
5. 要点が理解できる内容であった。
6. 教員の熱意が感じられた。
7. 正しい知識・技術を習得できるようにその都度、教員は指導していた。
8. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
9. 学生の知識・能力等に合わせて進められた。
10. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。
11. 迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。
12. 学習課題の量・提出期限は適切であった。
13. 学習課題の指導は適切であった。
14. 積極的に参加できる演習であった。
15. 次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える演習内容であった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない]

16. 演習をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。
17. 演習中は積極的に取り組んだ。
18. 迷惑行為をしなかった。
19. グループワークは協調性をもって行えた。
20. 不明な点は、教員に質問した。
21. 演習内容は授業中に理解できた。

授業評価アンケート（臨地実習用）

このアンケートは、臨地実習をよりよいものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいをお願いします。

この臨地実習(以下、実習)について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

前半は、実習担当教員に関する評価項目であり、後半はご自身に関する評価項目になっております。

[A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満 F：該当外]

1. 実習要項やオリエンテーション資料はわかりやすかった。
2. 実習で使用する資料や物品は準備されていた。
3. 参考文献などの紹介や使用方法の説明は適切であった。
4. 指導者（スタッフ）と連携をとり、指導に一貫性があった。
5. 学生が対象者（患者・家族等）とうまく関われるように配慮していた。
6. 学生がスタッフとうまく関われるように配慮していた。
7. 報告・連絡・相談がしやすい雰囲気を作っていた。
8. 学生が望む体験ができるような機会を作っていた。
9. 記録する場所や記録の保管場所、カンファレンスルームなどを確保できるように調整していた。
10. オリエンテーションは、実習の目的・目標・実習内容・実習方法が具体的でわかりやすかった。
11. 学生の看護観を深める実習内容であった。
12. 場面（行動計画・援助場面・カンファレンス）に合わせて適切な指導をしていた。
13. 正しい知識・技術・適切な態度を習得できるように、その都度、指導していた
14. 対象者の個別性を適確に捉え、計画・実施・評価の一連の過程を実施できるよう指導していた。
15. 看護者としてのモデルを示していた。
16. 熱意や誠実性が感じられた。
17. 学生の人格を尊重した関わりであった。
18. 記録物の量は適切であった。
19. 事前課題の提示の時期・量は適切であった。
20. 実習開始・終了時間が必要以上に超過しないよう配慮していた。
21. 学生の知識・力量などに合わせて指導していた。
22. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。
23. さらに深く学びたいと思える実習であった。
24. この実習指導は良かった。

ご自身に関して下記の評価をマークシートに記入して下さい。

[A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない]

25. 実習に臨むための事前準備(シラバスや実習要項の確認・予習・実技練習)を行った。
26. 積極的（意欲的）・主体的に取り組み、常に学ぶ姿勢をもっていた。
27. 常に倫理観をもって取り組んだ。
28. チームメンバーの一員として、行動（責任ある行動、約束を守る、協力する）した。
29. この実習の目的・目標が達成できた。

学籍番号

氏名

授業評価アンケート（講義用）の学習態度の自己評価（2019）看護学科

【目的】自分自身の学習態度を定期的に内省し、見いだした課題の解決に活用する。

該当する記号に○をつけてください。

A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない

	11月					1月				
講義を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）をした	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
講義中は集中して聴いていた	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
迷惑行為（おしゃべり・飲食・居眠り・携帯操作・退席など）をしなかった	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
教員の説明内容を積極的に書き留めた	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
不明な点は、担当教員に質問した	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
講義内容は授業中に理解できた	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
翌月に向けた自己の課題 (必ず記述すること)										

1. 自己評価後、学習成績管理ファイルに綴じ、アドバイザーに提出する。
2. アドバイザーが確認後、返却する。
3. アドバイザー、各委員会等で必要時、活用するため必ず綴じておく。

3) FD活動

看護学科

Plan

- (1) 今年度の目標設定:看護教育能力を様々な視点から見つめ、見えた課題の解決に向けて組織で取り組み、自己の教育能力向上につなげることができる。
- (2) 年間計画の立案:
 - ① 研究懇話会の実施; 4回/年
 - ② 課題解決に向けた組織での取り組み; 1回/月 (4月・8月除く)
- (3) 企画内容の検討・実施・評価:
 - ①各教員が問題意識を持ち、取り組む内容を提供する。
 - ②組織で取り組む必要がある内容についてディスカッションをし、具体策を立案する。
 - ③具体策をもとに実施・評価する。
- (4) 令和元年度 SD 活動・FD 活動報告書の作成

Do

- (1) 目標達成に向けて下記を実施した。
 - ①研究懇話会を4回、16:20～16:50（質疑応答含む）実施した（表1）。

表 1. 研究懇話会

月日（曜日）	テーマ	話題提供者	司会
2019年 6月25日（火）	老年看護において生活者という視点の省察 ～学生が看護の対象を生活者として捉える意味～	平良 朝子	石川
7月23日（火）	現代の若者の特徴と対応	鈴木夕岐子	布施
10月29日（火）	子育て期の夫婦間における役割期待に関する研究	内田 貴峰	浅見
11月26日（火）	大学教育における主体的な学びと学生エンゲージメントについて	清水 百子	加藤穂

- ②課題解決に向けた組織での取り組みとして、10回実施した（表2）。

表 2. 組織での取り組み

月日（曜日）	テーマ	方法	司会
2019年 6月25日（火）	1年次生への授業態度への関わり方①～授業態度の現状と原因および具体策	グループ⇒ 全体ディスカッション	浅見
7月23日（火）	1年次生への授業態度への関わり方②～具体策の実施状況と学生の変化及び改善策	全体ディスカッション	久保
9月24日（火）	後期に向けて取り組む課題の提案	グループ⇒ 全体ディスカッション	久保
10月29日（火）	1年次生の授業態度への関わり方③ 中間評価	全体ディスカッション	石川
11月26日（火）	ループリック評価表作成①	グループ	布施
12月24日（火）	ループリック評価表作成②	グループ	久保

2020年 1月21日(火)	ルーブリック評価表作成③	全体ディスカッション	加藤穂
1月29日(水)	ルーブリック評価表作成④	全体ディスカッション	浅見
2月25日(火)	ルーブリック評価表作成⑤	グループ	布施
3月24日(火)	総括:達成度及び次年度の課題発表	グループ	久保

(2) FD活動の企画会議を10回実施した。

Check

FD活動企画会議で、年間計画の立案や企画内容の検討・運営・評価を実施した。研究懇話会は、昨年まで話題提供者を2名/回としていたが、今年度1名/回にしたことで、テーマの内容を参加者全員で深めることができた。話題提供者は、準備も含めプレゼンテーション力や参加者とのディスカッション力などを向上させる機会となった。組織での取り組みは、各教員が問題意識を持って取り組むことができた。特にルーブリック表作成については、看護学科としての統一性を図るために各自の学習のもと、グループおよび全体でディスカッションを重ねることで、自己の教育能力の向上に繋がったと考える。実習のルーブリック評価表は概ね完成に至った。

Action

次年度は、目標達成のために教員が全員参加でき、効果的に活動できるよう、時間や方法を検討する。研究懇話会は、教員の研究活動の場として4回/年のペースで継続する。組織での取り組みとして、タイムリーなテーマを検討し全員が参加することで、FD活動の目的である教育能力（看護者、教育者、研究者、社会人としての能力）の質の向上につなげていく（なお、詳細はSD活動・FD活動報告書に記載する）。

専攻科 母子看護学専攻

Plan

助産師教員が授業内容・方法を改善し向上させるため取り組みとして、以下に取り組んだ。

- (1) 専任教員の為の研修会の開催（若しくは研修会への参加）
- (2) 教員相互の授業参観の実施
- (3) 新任教員のための演習（教育方法と評価）の検討

Do

- (1) 専任教員の為の研修会の開催（若しくは研修会への参加）について
全国助産師教育協議会と日本助産学会主催の下記の研修会へ参加した。
 - ・助産師国家試験プール問題作成・登録研修
 - ・デジタル教材を活用した助産教育の実際
 - ・望ましい助産師教育コアカリキュラム指定規則改正を受けての教育内容の変更点研修会
 - ・助産政策ゼミ

(2) 教員相互の授業参観の実施について

助産診断技術学の講義と演習に随時、専任教員が参加した。

(3) 新任教員のための演習（教育方法と評価）の検討について

・「妊娠期の助産診断・技術学」「分娩期の助産診断・技術学」「産褥期の助産診断・技術学」の各科目責任者が中心となり、新任教員の作成した演習計画書の作成、模擬演習、演習の実際、演習実施後の評価を行った。

Check

(1) 専任教員の為の研修会の開催（若しくは研修会への参加）

助産教員としての授業内容・方法に活用できる研修会へ参加することができたと考える。特に助産師教育コアカリキュラムに関する研修や助産ケアに関する法律については、カリキュラム構築、授業内容とその評価を振り返る内容であり、今後の授業改善に活かせるものとする。

例年、研修会を企画することは当面は難しい状況であるが教員としてのブラッシュアップを図れる内容を加味した研修の企画若しくは研修会への参加を検討したい。

(2) 教員相互の授業参観の実施

相互の授業に参加することで、学生の学習状況に応じた教育方法について評価し合い、学生の学習段階に応じた教育について意見交換する機会となった。

(3) 新任教員のための演習（教育方法と評価）の検討

専攻科の授業展開は前期に集中しており、数週間ごとに異なる演習が実施される。学習進度も速いために計画した演習内容を学生の学習状況に応じて修正することが難しかったと考える。

Action

次年度も引き続き同様のFD活動を続けてゆく。

(1) 専任教員の為の研修会の開催（若しくは研修会への参加）

(2) 教員相互の授業参観の実施

(3) 新任教員のための演習（教育方法と評価）の検討

4) SD活動

Plan

教員個々人の教育・研究能力の向上のみならず、図書館司書や事務系職員の職能開発も含めた短大教職員の資質の向上を図るために、SD活動を平成22年度から開始した。この取り組みが円滑に行えるように、SD活動の目的と目標を次のとおり定め、研修会を企画し開催する。

①SD活動の目的

学生の学習と生活の支援の充実および教職員の資質向上をはかる。

②SD活動の目標

Your Happiness is our Happiness を達成させるための **5つのC**

みんなで実践して **Happiness** に！

Communication	いつも笑顔で、丁寧にかかわりましょう
Compassion	思いやりをもって接しましょう
Courtesy	他者への礼儀を大切にしましょう
Corporation	互いに力を合わせとりくみましょう
Challenge	自分の成長のため、組織向上のために挑戦し続けましょう

Do

- ①SD 活動企画メンバーは学長、副学長、顧問、学校群統括部長・事務部長、入試部長・広報部長・学生部長、専攻科代表(1名)、看護学科代表(2名)で編成した。
- ②企画会議を2回開催した。昨年度の研修参加者へ行ったアンケート結果を踏まえて「個人情報の保護について (SNS 含む)」をテーマとした。各教職員が自己の資質を見つめ、課題に取り組み、協働するための能力を養うきっかけとなるように、研修スケジュールを立案したが、新型コロナウイルス感染対策の一環により研修を中止した。

Check

看護者を養成する短期大学の教職員として、感染対策の一環として本研修をはじめ様々な予定が変更されているが、教職員間で情報交換をしながら冷静に対応している。不測の事態に教職員が協力して対応することは、SD 活動の目的である「学生の学習と生活の支援の充実および教職員の資質向上」に資する能力と考える。

Action

中止した研修会は次年度改めて計画し開催する。

5) 委員会活動

(1) 全学委員会一覧

※任期：平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年間）

※◎印は委員長

令和元年7月1日現在

			看護学科	専攻科	事務系
A 第2火曜日 ブロック	代表者会議	丸木 学長 ◎所 副学長 平良 学生部長 今野 広報部長	久保	稲井	内田 相田 島田 堀江
	自己点検・評価委員会	丸木 学長 ◎所 副学長	久保 秋山千	稲井 (北川)	内田 相田 島田
	入学試験委員会 ※任期1年間	丸木 学長 ◎所 入試部長	久保 今野(SD) 宮崎	稲井	内田 相田 堀江
	広報部委員会	◎今野 広報部長	浅見, 勝久 榎本, 持田 増田	今村	内田 相田 島田 堀江
	IR委員会	丸木 学長 ◎所 副学長	久保 秋山千	稲井	相田, 島田 矢部, 荒川
	研究倫理審査委員会	丸木 学長 ◎所 副学長	看護学科教授	稲井	相田 堀江
	研究審議委員会	◎丸木 学長 所 副学長	久保	稲井	相田 堀江
B 第1水曜日 ブロック	教務委員会 (シラバス検討小委員会)	◎霜田 教務主任	瀧山, 宮崎	北川 (今村)	相田 島田 矢部
	紀要委員会		◎浅見, 田村 平良, 秋山千 内田	北川	荒川
	保健管理委員会		◎田村, 浅見 海野, 秋山佑 石川	鈴木操	島田 佐藤 本間
	認証評価準備委員会	丸木 学長 ◎所 副学長	霜田, 久保 今野, 浅見 秋山千	稲井	相田 島田 堀江
	学生部委員会	◎平良 学生部長	鈴木タ 清水	今村	相田 島田
C 第2月曜日 ブロック	防災委員会		◎ 清水	鈴木操	相田 島田 矢部
	学生便検討委員会		◎ 蒲生	今村	矢部
	情報ネットワーク委員会		◎宮崎, 渡邊	鈴木操	島田
	図書館運営委員会	◎ 平良図書館長		鈴木操	荒川

附表 令和元年度 専門部会一覧

令和元年7月1日現在

専門部会区分	専門部会		看護学科	専攻科	事務系
改革総合支援事業 専門部会	教員評価企画部会	◎丸木 学長 所 副学長	久保 霜田	稲井	相田 島田 矢部
	高大連携企画部会	◎丸木 学長 所 副学長	久保 霜田 今野	稲井	相田 堀江
SD 活動企画部会		◎丸木 学長 所 副学長	今野 平良	稲井	内田 相田
長期総合計画企画部会		◎丸木 学長 所 副学長	久保	稲井	相田
学習環境整備部会		◎丸木 学長 所 副学長	浅見 瀧山 宮崎	今村	相田 堀江
県民の日 高校生「学び」“夢”プラン 企画部会		◎丸木 学長 所 副学長	久保 平良	稲井	堀江
30周年記念誌編集委員会		◎丸木 学長 所 副学長	蒲生 瀧山 鈴木タ	稲井 北川	相田 堀江

※任期：平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年間） ※◎印は部会長

(2) 全学委員会：活動総括

教務委員会

Plan

- ①カリキュラムに関する調整・運営
- ②試験に関する調整・運営
- ③その他教学に関する必要事項への対応

Do

本年度は、10回の定例会議と1回の臨時会議を開催し、計画に沿って以下のように実施した。

- ①カリキュラムに関する調整・運営
 - i. カリキュラムは、今年度の日程に沿って運営した。
 - ii. 令和2年度授業日程・学事予定表・学年暦を作成した。
 - iii. 令和2年度前期及び後期時間割を作成した。
 - iv. 令和2年度看護学科・専攻科の新入生オリエンテーション日程を作成した。

②試験に関する調整・運営

- i. 令和元年度前期及び後期試験日程・時間割・試験監督者割り振りを行った。看護学科は、8回終了科目を後期定期試験期間前の12月～1月に試験を実施した。
- ii. 定期試験受験心得・試験監督要領の変更はなく、定期試験を実施した。
- iii. 看護学科は、非常勤講師担当の解剖学、生理学、微生物学の前期定期試験フィードバックを行った。

③その他教学に関する必要事項への対応

- i. 履修登録の提出や確認状況について情報交換し、問題のある学生へ対応した。
- ii. 学生の授業態度について、定期的に情報交換を行い、看護学科は必要時指導を行った。
- iii. 新入学生に対する既修得単位の認定は、申請1名に対して行った。
- iv. 令和2年度の授業遂行に関わる非常勤講師の異動状況の調査および調整を行った。
- v. GPA実施規則に則り、学生の個別指導及び全体の成績把握に活用した。看護学科は、科目毎のGP平均値や学年別GPAのグラフを公表し全体指導を行った。専攻科も今年度より、前期試験結果による中間GPAを用いた個別指導を行った。
- vi. 令和2年度シラバスの編集と発行を行った。詳細は、1.教育課程 3)教育課程編成・実施(3)シラバスの作成状況 (p. 43-44) 参照。
- vii. 看護学科の「法学」を2年次後期から1年次後期へ変更した。
- viii. 認証評価受審で明らかになった課題の検討を行った。

Check

①カリキュラムに関する調整・運営

令和2年度授業日程・学事予定表・学年暦は、スポーツ庁や文部科学省の通達により、オリンピック日程を配慮したが、例年と異なる祝祭日の影響により、難航した。看護学科は、授業変更表を共有ファイルに置き教員全体で把握しやすくなった。

②試験に関する調整・運営

定期試験受験心得・試験監督要領に沿って、不正行為なく試験を実施できた。看護学科では、定期試験時に私物を放置する学生が一定数見られ、その都度指導した。

③その他教学に関する必要事項への対応

実施(Do)のi, ii, iii, iv, viは、例年通り問題なく実施した。GPA制度は導入5年目となり、昨年度から成績不振者の基準を1.90未満に引き上げて、個別指導に活用している。看護学科では、学年別GPAを示したり、カリキュラムの科目区分別GPAを算出したりして全体指導を行い、学生の学習への取り組み姿勢、及び年度末の成績に好影響が認められた。専攻科は、中間GPAの成績不振者に対し、後期実習開始前に個別面接を行い、学習の取り組み方や実習の履修条件について確認した。その後、実習中においても随時継続した個別面接を実施した。中間GPAの活用により、最終的には、成績不振者も含めた全員が3月に修了を迎えることができた。

看護学科は「法学」を1年次後期へ変更したことで履修者が増加した。一方で、2年次「英語Ⅱ」と「ドイツ語」の履修者数のアンバランスが顕著となり、教室確保が困難となった。

認証評価受審で「学習成果の明記」「国内外の留学に関する支援」「成績優秀者への学習上の配慮」という課題に対し、他大学の情報収集や学科会議により検討し、令和2年度より施行する。

Action

①カリキュラムに関する調整・運営

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大とその予防対策による授業日程や方法の修正が予想される。授業実施に支障を来さないよう、各方面の情報収集を密にして、柔軟なカリキュラム運営を行う。看護学科の2年次「英語Ⅱ」と「ドイツ語」の履修者数のアンバランスによる教室確保、科目間の難易度差に対し検討が必要である。引き続き学生の学習状況や学年毎の担当時間に目を向け、時間割の作成、カリキュラムが円滑に実施できるようにする。

②試験に関する調整・運営

前期・後期の定期試験が円滑に実施できるよう、科目責任者と調整を行い、試験監督要領と受験心得を教員および学生に周知徹底する必要がある。

③その他教学に関する必要事項への対応

学生が自主的、主体的、かつ責任を持って学習に取り組めるよう、履修オリエンテーションの内容検討、GPA制度の効果的な活用、科目責任者との情報交換、シラバスの内容検討等を継続課題とする。認証評価受審で明らかになった課題「学習成果の明記」「国内外の留学に関する支援」「成績優秀者への学習上の配慮」の実行について継続して検討する。

入試委員会

Plan

本学看護学科及び専攻科のアドミッションポリシーに基づいて的確に入学試験を実施し、本学の学生としてふさわしい人材を確保する。

Do

- ①埼玉医科大学短期大学入試委員会規則(平成30年11月改正)に則って委員会を11回開催した。
- ②看護学科は、2020年度入学試験実施要領に基づいて推薦入学試験、一般入学試験(I期、II期)を実施した。専攻科は2020年度年度入学試験実施要領に基づいて、推薦入学試験(学内推薦)、一般選抜試験・社会人選抜試験を実施した。
- ③令和3年度(2021年)看護学科推薦入学試験指定校について検討した。
- ④本学看護学科および専攻科の令和3年度(2021年)入学試験日程について検討した。
- ⑤看護学科アドミッションポリシーの文言の一部見直しをした。
- ⑥令和3年度(2021年度)学生募集要項について検討した。

Check

- ①入学試験実施結果は本誌 p.63-64 参照

看護学科は昨年度に比して一般入学試験Ⅱ期のみ若干増加したが、他の入学試験は志願者が若干減少している。これは4年制看護系大学の増加、18才年齢人口の減少、という状況から考えて必然のことと考えられる。一般Ⅱ期が若干増加したのは試験日を3月に遅らせたためと考えられる。このような状況の中で、本学の特色をだして如何に入学生を確保していくか検討してきた。具体的には推薦入学試験に地域特別選抜入学試験の導入を検討してきたが、次年度は高等学校の教育内容等について、さらに新たに情報を得る必要性がでてきたため継続検討していくこととなった。

専攻科は志願者数が昨年度と比べ減少している。今後も、助産課程の増設がみられることから、大幅な増加は期待できない。志願者数を少しでも増加、維持できるような検討が必要である。

- ②入学試験種別に看護学科の入学後のGPAや留年・退学率をみると、例外はあるものの、指定校推薦入学者は他の入学試験種別入学者よりもGPAは高く、留年・退学者は少なかった。モチベーションも高く、比較的基礎学力が保障されていると考えられ、指定高等学校と指定人数等を見直した。
- ③入学試験日時が他校と競合しないよう、推薦入学試験日、一般入学試験日を調整し志願者数を確保することにした。
- ④看護学科のアドミッションポリシーを見直し、受験生が理解し易いよう“入学者の受け入れ方針”を追記した。
- ⑤令和3年度（2021年度）学生募集要項については、4月完成をめざし検討を開始した。

Action

- ①志願者を減少させず、本学のアドミッションポリシーに合った入学生を確保できるようにするため以下の活動をしていく。
 - i. IR委員会の情報を共有し、広報部委員会と連携し本学の特色をだした活動をする。
 - ii. 入学試験方法（試験日、試験種別、試験方法）の見直しを継続していく。

研究審議委員会

Plan

埼玉医科大学短期大学特別研究助成規則（第1条）埼玉医科大学短期大学研究審議委員会規則（第2条）に則って、本学の学術を振興するため、看護学科、専攻科（母子看護学専攻）の各分野から優れた独創的・先駆的な研究を発展させることを目的として、特別研究費として特に重要なものを取りあげ研究費を助成する。

Do

- ①埼玉医科大学短期大学研究審議委員会規則（平成30年11月16日改正）に基づいて、本年度は3回の委員会を開催し、以下のスケジュールで2020年度の助成金申請の募集を行い、交付について審議した。

申請期間：2019年11月5日（火）～2020年1月27日（月）17時まで

②これまでの研究報告書（実績報告書・論文報告書）の提出状況を確認し、未提出者には提出を促した。

③2019年度に助成を受けた研究費の執行状況を確認した。

Check

①2020年度の申請件数は1回目の募集期間内では1件（共同研究）であった。このため再募集することになった。再募集期間を2020年2月21日（木）17時まで延長した。その結果、共同研究1件の追加申請があった。審議の結果、採択が決定し教授会の承認を得て交付することになった(表1)。申請件数が少ない状況が続いているので、その理由を分析し、より多くの申請を受け付け助成できるように検討する。

表1 2020年度の助成対象研究

研究課題	助成金額	備考
仮想現実機材を使用した認知症高齢者の疑似体験を通して得た、看護学生の認知症高齢者への理解	¥483,446	共同
シミュレーション学習を活用した妊婦健康診査の演習とモチベーション評価	¥999,907	共同
合計	¥1,483,353	

②これまでの研究報告書の提出状況について確認した結果、平成27年度助成対象者1件の研究成果論文報告書が未提出であった。これは今年度が提出期限となっている。また、平成29年度助成対象2件、平成30年度助成対象1件、平成31年度助成対象3件の研究実績報告書が未提出であった。これらの実績報告書は、提出期限が過ぎているものと今年度中が提出期限となっているものである。早急に実績報告書を提出するように指導した。論文報告書は5年以内に報告することとなっているため、期限内に論文作成し発表するように促していく。

Action

教員（特に助教）の研究を推進するための方法を検討する（看護学科、専攻科ともに教員の研究に対する意識改革および業務改善により研究時間を確保する等）。

学生部委員会

Plan

本学学生が、有意義な学生生活を送れるよう、次の事項について委員会で協議する。

- ①学生の学内外における事故、事件等への対応と処理
- ②学生の諸行事への支援（課外活動への支援）
- ③学生のルール、マナーの徹底
- ④学生の福利厚生に関する事項
- ⑤学則28条に関する罰則に関する事項

⑥学生寮の生活指導に関する事項

⑦教授会より委嘱された事項

Do

本年度は 11 回の定例会議と 1 回の臨時会議を実施し、次の対応を行った。

①諸行事への支援

- i. 学生総会にむけて学務課職員と教員の協力を得ながら指導を行った。
- ii. クラブ顧問と教職員の協力を得てクラブ活動の助言をした。
- iii. 遙光祭の実施に向けては、早期から開始したが、授業・実習等の影響や外部との交渉に苦慮することがあった。
- iv. 謝恩会に向けては、謝恩会案内状の宛名確認等、事務部の協力を得ながら実施した。

②ルール、マナーの徹底

- i. ポスター掲示の他、口頭で交通ルール・構内の自転車の乗り方・授業中の携帯使用・歩きスマホの注意を促した。
- ii. 校内の整理整頓（特にロッカールーム）と、部外者の立ち入りについて指導した。
- iii. 節電に向けて、学務課職員と協力し学生の校内放送を支援した。

③学生の福利厚生：リライトカードを看護学科学生に導入し、ウェルフェアの訪問販売を行った。

④学生寮の生活指導

- i. 学生寮の防犯対策、寮規約についての指導を強化した
- ii. 夜間に体調不良者がでたが、「緊急時の対応」のマニュアルに沿って受診できた。
- iii. 寮生がインフルエンザになり、寮の保健室を使用した。
- iv. 寮生で集団生活のルールを守れない学生がいた。

Check

①諸行事への支援

- i. 学生総会や、遙光祭では資料作成に不備が目立った。目的を考えた資料作成を指導する必要がある。
- ii. 遙光祭では、事故なく無事終了することができた。学生間の連絡を適切に行うこと、外部との交渉時には、学生と十分に打ち合わせを行ない、計画的な指導を行うことが必要である。
- iii. 謝恩会の案内状（特に招待者の確認）の準備に時間を要した。
- iv. 学生会費の部活動費の使用方法を確認した。今後も計画的な部活費の使用を実施していく。

②ルール、マナーの徹底

接遇指導内容はおおむね守られているが、校舎内の指定場所外での飲食、ながらスマホが見られた。無謀な自転車の乗り方をしている学生はいなかった。「学習態度が悪い」と非常勤講師に数回注意を受けた。

③学生の福利厚生：出張販売の利用者数は増加傾向にある。

④学生寮の生活指導

学生から様々な報告が寄せられるが、教員の対応を統一し、当事者間で話し合いを持ち、学務課の協力を得て解決に向けて指導した。

Action

①学内外における事故、事件への対応：例年の指導を継続して実施する。

②諸行事への支援

i. 学生会、遙光祭等の活動支援を通し、報告、連絡、相談に心がけ、効率的な準備作業ができるように指導する等、学生のノンテクニカルスキルが向上できるように関わることを心がける。

ii. バランスが取れた部活動費を使用できるように指導する。

③ルール、マナーの徹底

i. SNS 利用時の通年教育について指導を継続する。

ii. 駐車場、駐輪場、自転車の乗り方、ながらスマホについて指導を継続する。

④学生の福利厚生：出張販売内容（学生の希望する商品）についてウェルフェアと調整する。

⑤学生寮について

i. 寮生が安全に安心して勉学に取り組めるよう、寮生活のルールを継続して指導する。

ii. インフルエンザ等感染性疾患の場合は、原則として自宅療養とする。

iii. 災害時の寮内一斉連絡方法を防災委員とともに考える。

(5) その他

教員と学務課職員が密に連絡をとり、各情報を共有し話し合い、必要時役割を分担する。

図書館運営委員会

Plan

①平成 30 年度図書利用統計報告

②平成 30 年度図書館予算決算報告、令和元年度図書館予算の説明

③平成 30 年度購入図書リスト作成、令和元年度購入希望図書の受付

Do

①年間の利用者について、データにまとめた。令和元年度の開館日数は 217 日であった。

②図書館利用案内について学生便覧の見直しを行った。

③図書館掲示板に新着図書リストを掲示した。

④外国雑誌の購入見直しの検討を行い、一部廃止をした。

⑤研究室にある未登録の図書及び視聴覚資料を整理した。

⑥認証評価における図書館内の学内視察が行われた。

⑦図書購入の優先順位は学生の利用頻度の高い図書を購入した。また、利用頻度の高い経年劣化した図書の補充を行った。

⑧継続図書(参考図書)及び雑誌購読・国家試験関係の見直しを行った。

- ⑨看護学科、専攻科ともに予算内で決算できるように行った。
- ⑩前期後期と年 2 回に希望図書を受付をした。共有ファイルに提出及び購入データを掲載した。
- ⑪学生対象に「図書希望のリクエスト」を継続して行った。
- ⑫新入生を対象に図書館の利用方法や文献検索のオリエンテーションを実施した。また、一部在学生及び医療従事者対象に文献検索講義を実施した
- ⑬看護・医学系 DVD 教材の Web 映像コンテンツの無料トライアルを実施した。

Check

- ①利用状況については、過去 2 年間で比較してみると減少傾向である。(令和元年度:5,247 名) 学年別は、2 年生及び専攻科が増加したが、1 年生は特に減少した。
- ②今年度も各学科内で予算内での運用ができた。
- ③国家試験問題集を利用する学生が増えたため、さらに教材等の充実をはかる。
- ④利用頻度の高い雑誌に切り替えることで、雑誌の利用頻度が増えた。
- ⑤継続図書・雑誌等の見直しを行い、削減した経費より希望 DVD を購入した。
- ⑥医中誌 Web はアクセスフリーとなり、学外からも利用が可能となった。
- ⑦医学書院を中心とした電子ジャーナルを最新号からタイムラグなしに利用でき、学外からも利用可能となった。

Action

- ①本学図書館は、特に看護に特化した図書の充実を図る必要がある。利用者のニーズを把握し、講義や実習に役立つ図書の充実を図る。
- ②予算内での購入ができるよう確認する。
- ③引き続き、教員や学生が購入希望しやすい環境作りを行っていく。
- ④相互貸借や文献検索のアドバイスなど、利用しやすい図書館の運営に心がける。
- ⑤図書館内にパソコンの増設や視聴覚教材の充実を考える。
- ⑥古い図書及び雑誌のバックナンバーを保管できる場所を確保する。
- ⑦ DVD 教材の映像コンテンツ利用を 4 月から Web 上で視聴できるように進める。

紀要委員会

Plan

- ①第 31 巻埼玉医科大学短期大学紀要の編集・発行
 - ・ 2 月末、原稿募集メールの配信
 - ・ 演題エントリー 4 月末日
 - ・ 原稿提出 8 月末日
 - ・ 原稿審査結果報告書提出 9 月 30 日
 - ・ 訂正原稿提出 10 月 15 日
 - ・ 令和 2 年 3 月発行

Do

9月、2月に委員会を開催した（2月はメール会議）。

- ①第31巻の演題エントリーは11編であった
- ②原稿の提出は7編(原著1編、報告6編)であった。
- ③投稿数の減少について検討した。
- ④紀要のサイズ、材質等について検討し、変更しないことに決定した。

Check

- ①演題エントリー11編であったため追加募集はしなかったが、原稿は7編の提出であった。
- ②画像で提出された図表データの調整に時間を要した。
- ③原稿のエントリー、提出等の期日は守られたため、令和2年3月に発行できた。

Action

- ①第32巻埼玉医科大学短期大学紀要の編集・発行を継続する。
- ②埼玉医科大学、丸木記念福祉メディカルセンターの看護部や職員キャリアアップセンター、関連学校を通じて投稿を募集する。

保健管理委員会

Plan

- ①学生の保健相談
- ②定期健康診断
- ③B型肝炎抗体価検査およびワクチン接種（抗体陰性者）：看護学科1年生、専攻科生対象
- ④麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体価検査：看護学科1年生、専攻科生対象
- ⑤インフルエンザワクチン接種：希望者対象（実費）
- ⑥学生の健康上の問題が生じた場合の対策協議

Do

4, 9月にメール会議を行った。

- ①B型肝炎ワクチン接種、インフルエンザワクチン接種の日程調整

Check

- ①専攻科生の実習の都合により、後期の日程調整に困難を極めた。
- ②麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体価検査の結果、陰性者には実習開始までに各自でワクチンを接種するよう実習委員会から促している。そのワクチン接種をインフルエンザワクチン接種の時期と重なる日に行った学生が1名いたため、その学生はインフルエンザワクチン接種を希望していたが、実施できなかった。

Action

- ①実施スケジュールを早めに調整する。
- ②実習委員会とワクチン接種の日程等の情報を共有し、安全性を確保する。

学生便覧検討委員会

Plan

2019 年度学生便覧の掲載事項及び 2020 年度（令和 2 年度）学生便覧の発行に関する審議を行う。
委員会の開催は業務の状況に合わせ調整する。

Do

- ①2019 年度学生便覧の配付：教職員に対しては年度開始時に配付し、在校生および新入生への配付は 4 月オリエンテーション時とした。
- ②2019 年度学生便覧の正誤確認： p.5 アドミッションポリシーの一部文言の修正をはじめ計 8 ヶ所の誤植に対しては、ページ数と修正内容を掲示し学生に周知した。また、2 ヶ所の脱字についても同様に掲示した。教職員に対しては誤植 ヶ所と加筆・修正内容をメール配信した。
- ③令和 2 年度版学生便覧の編集・発行：各委員へ学生便覧への記載内容の検討を依頼し、編集作業をおこなった。原稿の校正回数は 3 回（12 月、1 月、3 月）を予定し、発行部数は 450 部（看護学科学生 350 部，専攻科学生 20 部，教職員 50 部，予備 30 部）とした。

Check

- ①学生便覧を事前に教員に配付し、オリエンテーション時には学生に配付したことで学生生活を送る際の一助として活用してもらえたことと考える。
- ②2019 年度学生便覧の見直しを行い、誤植について掲示したことで周知でき、学生生活への影響はなかったと考える。
- ③令和 2 年度学生便覧の編集について、各委員会、部署と連携し、順調に発行作業が進行した。

Action

- ①令和 2 年度学生便覧に誤植、落丁等が生じた際には学生、教職員に対して速やかに周知する。
- ②今後も各委員会・部署と連携し、学生、教職員が活用しやすい学生便覧の編集・発行を継続する。

防災委員会

Plan

活動目的：防災意識の向上を図る。

- ①消防訓練
- ②学生寮の避難訓練
- ③防災標語の作成
- ④短期大学の備蓄品の点検、整備

Do

- ①新入生に対し、4 月 2 日（火）の新入生オリエンテーションで本学における防災について説明した。
- ②消防防災訓練及び看護学生寮防災訓練についての実施要領は、早めに掲示し、学生の日程調整を促した。また、学生寮の学生に対しては、防災に対する意識を高められるよう「寮の防災対策」

の資料を配付した。

- ③4月5日（金）9時から11時30分、消防防災訓練を全学生及び教職員を対象に、西入間広域消防組合・大野消防設備株式会社の協力のもと実施し、無事終了した。
 - i. 訓練場所：短大及びいこいの広場
 - ii. 訓練内容：「火災・地震発生時の安全対策についての講話」、「避難梯子の使い方の説明」、「心肺蘇生法及びAED（自動体外式除細動器）の講習」、「避難訓練」、「消火器の使い方の説明」等
- ④7月25日（木）16時30分から17時30分、看護学生寮寮生全員を対象として、学生部長・看護学科学生部委員の協力のもと看護学生寮防災訓練を実施し、無事終了した。
- ⑤防災意識の向上を図るため防災標語を募集し、毎月短大の目のつく所に掲示した。
- ⑥「埼玉医科大学短期大学 災害時発生時避難マニュアル」「学内での災害・事故・事件等発生時の緊急連絡先」「火災・地震等における避難心得」の掲示を確認し、学生に周知した。
- ⑦地震発生後の教職員行動マニュアルを新任教職員へ配付した。
- ⑧学科ごとに保管している危険物（火災の原因となる物、鋭利な物、薬品類）の設置、保管状況を点検した。
- ⑨災害備蓄品（飲料水等）の数量と賞味期限の確認し、適宜追加購入した。
- ⑩学生便覧に記載されている「防災関連事項」について検討し、追加・削除等の修正を行った。
- ⑪今年度も消防設備について法令点検を2回受けた。

Check

- ①防災訓練では、欠席2名（無断欠席1名、体調不良1名）であった。無断欠席者には、AED体験講習に参加したレポート課題を提出してもらい、防災に対する意識を高めるように働きかけた。今後も、防災訓練の必要性を十分に認識できるよう指導が必要である。
- ②学生寮の防災訓練では、欠席者2名（無断欠席1名、休学者1名）であった。無断欠席者には、課題レポート（AED体験講習に参加しての学び、寮で地震や火災が発生した時の行動）を提出してもらい、火災または大規模な地震発生時に速やかに避難できるように働きかけた。
- ③防災訓練は、事前に実施要領を掲示し、学生の日程調整を促したことで、欠席者が昨年度より減少した。
- ④災害備蓄品の数量と賞味期限の確認を行い、災害時に使用できるように整備した。
- ⑤連絡網（教員と学生間）の徹底、防災意識に関する啓蒙活動（防災に関するパンフレットの配付や掲示、防災標語の掲示等）により、災害時の行動に役立てるように働きかけた。

Action

- ①防災訓練前に日程調整を促しても、防災訓練を欠席する学生がおり、防災訓練の必要性を十分に認識できるよう指導する。
- ②今年度の実施・評価をふまえて、消防防災訓練や学生寮の防災訓練の実施時期や方法を検討する。
- ③今後も、防災標語や防災訓練の活動を通して、防災意識の向上や消防計画の周知徹底を図る。
- ④今後も、防災意識が高められるような方法や、災害時の一斉メールの活用等を検討していく。

自己点検・評価委員会

本学における自己点検・評価体制（p.18-22）を参照

情報ネットワーク委員会

Plan

- ①ネットワーク ID の利用に関する運用・管理
- ②コンピューター機器のネットワーク利用上の管理
- ③学内ホームページの運用・管理
- ④共有フォルダの運用・管理
- ⑤コンピューター実習室の管理

Do

- ①ネットワーク ID の利用に関する運用・管理
 - i. 新入生及び新任教職員のメール ID 登録と、退職した教職員のメール ID 削除を情報技術支援推進センターへ依頼した。
 - ii. 看護学科・専攻科とも一斉メールの運用を開始し、緊急時一斉メールが送信できるよう登録設定を行った。また、年 2 回一斉メールの受信状況を確認し、転送設定等の指導を行った。
 - iii. 教職員及び学生の電子メール・WWW 利用状況を情報技術推進センターから収集し集計した。
- ②コンピューター機器のネットワーク利用上の管理
 - i. 教職員のネットワーク接続状況を確認し、情報技術支援推進センターへ報告した。
 - ii. ウイルス対策は、定期的に Windows update、ウイルスソフトの更新を教職員に促した。
 - iii. 学内に設置された Wi-Fi や有線 LAN 等のネットワーク環境の確認を行い、Wi-Fi については、ルーター等の設置を検討した。
- ③学内ホームページの運用・管理
 - i. 看護学科の学生向けホームページについて、臨地実習記録用紙等を随時更新した。
- ④共有フォルダの運用・管理
 - i. 教職員共有フォルダについて、セキュリティー強化と利便性の向上を目的に運用・管理方法を見直し、ID の個別登録とフォルダの利用制限設定を行った。
 - ii. 教職員共有フォルダの利用方法について全教職員へ連絡し、データの整理・確認を促した。
 - iii. 学生－教職員間で利用できる共有フォルダを作成した。
- ⑤コンピューター実習室の管理
 - i. コンピューター実習室の利用方法について新入生にオリエンテーションを行った。
 - ii. コンピューター実習室の機器や備品の故障や破損、使用状況を確認し対応した。
 - iii. パソコンの買い換え及びシステム改善を検討し、関連部署や業者への連絡調整を行った。

Check

①ネットワーク ID の利用に関する運用・管理

- i. ネットワーク利用に関して、授業でネットワークを使用できない状況があったり、新入生のメール ID またはパスワードが利用できない状況があった。
- ii. 看護学科における一斉メールの利用状況については、昨年度の仮運用時よりも大幅に利用頻度が増えた。1 年次生は、前期に配信数が少なく一斉メールが送られていることに気がついていない学生がいた。また、誤って一斉メールに対して返信してしまう学生がいた。
- iii. 専攻科における一斉メールの利用状況については、学生向け一斉メールが専攻科教員にも配信されたため、登録アドレスを確認した。そのため、一斉メールの利用を見合わせている。

②コンピューター機器のネットワーク利用上の管理

- i. ウイルス対策について、学生・教職員ともに随時注意を促し、トラブルは発生しなかった。
- ii. ルーター設置等 Wi-Fi 環境の拡大を試みたが、利用方法や予算の関係で整備できなかった。

③学内ホームページの運用・管理

- i. 看護学科の臨地実習記録用紙の更新について、データが更新されていない状況があった。

④共有フォルダの運用・管理

- i. 職員共有フォルダについて ID の個人登録を行った結果、セキュリティー強化につながった。また、フォルダの整理により、利便性が増し多くの組織で利用するようになった。

⑤コンピューター実習室の使用に関する管理

- i. コンピューター実習室の利用状況を定期的に確認し、その都度学生に指導したが、室内での飲食、ゴミ・忘れ物の放置、備品の破損等があった。
- ii. 現在のパソコンの利用は 7 年以上経過し、学生から起動が遅い等の意見があり、買い換えとシステムの改善を試みたが、次年度以降に見送りとなった。

Action

①ネットワーク ID の利用に関する運用・管理

- i. ID とパスワードの管理等のセキュリティー強化について、引き続き学生・教職員ともに定期的に注意を促し、周知徹底していく。
- ii. 一斉メールについて、教職員及び学生へ利用方法をオリエンテーションし、随時利用状況を把握しながら、有効利用できるよう対応する。

②コンピューター機器のネットワーク利用上の管理

- i. ウイルス対策について、引き続き学生・教職員ともに定期的に注意を促し、周知徹底する
- ii. ネットワーク環境について、年度開始時には点検を行い、随時整備する。また、講義室・実習室での授業におけるネットワーク利用が可能となるように、Wi-Fi 環境を整える。

③学内ホームページの運用・管理

- i. 教職員のホームページ管理と学生にとっての利便性を検討し、改善する。

④教職員共有フォルダの運用・管理

- i. 教職員間及び学生・教職員間の共有フォルダの利用状況を把握し、セキュリティー管理を含め、正しく利用できるよう周知徹底に努め、有効利用できるよう運用・管理する。

⑤コンピューター実習室の使用に関する管理

- i. 次年度以降に、コンピューター機器類の入れ替えやシステムの変更を行い、学生及び教職員に利用方法を連絡する。

広報部委員会

Plan

本学の教育研究活動の取組を広く社会に発信するとともに、学生募集を円滑に行うことを目的とする。

- ①オープンキャンパス・ミニオープンキャンパスの企画、運営
- ②埼玉医大グループスクールフェスタ（合同学校説明会）への参画
- ③本学への個別相談、団体見学の調整
- ④高校訪問の企画、調整
- ⑤学外説明会への参加、担当者の調整
- ⑥電子媒体、紙媒体の広報（受験生インフォメーションの改訂、入試用Q&A、本学ホームページの更新、オープンキャンパスポスターの改訂、進学関連の電子媒体と紙媒体への広告）
- ⑦受験生アンケート「志望校決定について」の実施
- ⑧本学の教育研究活動の取組の公開

Do

学校法人埼玉医科大学委員会運営規程（平成11年3月20日制定）に基づき、埼玉医科大学短期大学に設置する埼玉医科大学短期大学広報部委員会（平成30年11月16日）の運営に則って、定例会議を実施した。

- ①オープンキャンパス・ミニオープンキャンパスの企画、運営
 - i. 看護学科のオープンキャンパスは5回(3月・5月・7月・8月・10月)開催した。ミニオープンキャンパスは2回(6月・12月)開催した。
 - ii. 専攻科のオープンキャンパスは2回(7月・8月)、看護学科と同時開催した。
- ②埼玉医大グループスクールフェスタ（合同学校説明会）は3月27日にウエスタ川越で開催され、個別相談と医療体験「一次救命処置(AED含む)」を行った。
- ③個別・団体見学については教職員で対応した。
- ④高校訪問は4名の教職員で、合計58校訪問した。広報の要点として一般推薦枠が拡大することを強調した。同時に看護・医療への進学に関わる高校生の志向について意見交換した。指定校へは入学した学生の動向を伝え、推薦者の選抜に関わる情報を提供してもらった。
- ⑤学外説明会（高校生・予備校生対象）については、教員の出張対応による模擬授業等を行った。

⑥電子媒体、紙媒体の広報

- i. ポスターを作成し、高校訪問で配付した。ポスターにはオープンキャンパス情報・本学の特徴・オープンクラスの情報を掲載し、入試情報はQRコードからホームページにアクセスできるようにした。
- ii. 過去3年出願のあった高校を対象に、看護学科の募集要項を263部郵送した。
- iii. 近隣の病院や看護系大学を対象に、専攻科の募集要項を14部郵送した。
- iv. リクルートスタディサプリ進路のアプリ（フォト・ムービー）の更新は、広報部委員が行った。
- v. ベスト進学ネットの在校生からのメッセージを一部差し替えた。進学関連の電子媒体、紙媒体については、業者からの依頼に迅速な対応で更新した。

⑦受験生アンケート「志望校決定について」を集計した。

- i. 本学のホームページに、受験生のほぼ全員がアクセスしていた。
- ii. 看護学科の結果から、本学オープンキャンパスの参加は、推薦入試受験生91%、一般入試受験生62.3%であった。本学を志望する際参考にしたこと（複数回答）は、推薦入試ではオープンキャンパス、パンフレット、ホームページが多く、受験の決め手（複数回答）は関連施設での実習、専攻科への推薦制度、オープンキャンパスの雰囲気であった。一般入試では、オープンキャンパスやパンフレットを参考にして、関連施設での実習や専攻科への推薦制度があることを受験の決め手と回答していた。
- iii. 専攻科の結果から、受験に際して最も参考にした内容（複数回答）は、オープンキャンパス、教育設備、ホームページであった。

⑧本学の教育研究活動の取組については、ホームページの「本学の特色」に教員一覧（専任教員名、職位、担当領域、研究活動）を示した。この表中の「研究活動内容」から専任教員ごとのページに移動し、学位、研究テーマ、書籍・学術論文の内容が確認できる。

Check

オープンキャンパス・ミニオープンキャンパス、高校訪問、本学への個別相談・団体見学、学外説明会等の参加人数を含めた詳細は、学生募集の広報p.61-62を参照する。

- ①オープンキャンパス・ミニオープンキャンパスについては、看護学科も専攻科も例年同様に参加者の満足度は高く、来場者のニーズに一致した運営ができた。
- ②高校訪問、学外説明会について
 - i. 高校訪問をとおして、本学の特徴を進路指導の教諭へPRすることで受験生確保につながっている。
 - ii. 学外の説明会の内、県内で開催される説明会へは全教職員の協力を得て可能な限り参加した。県外（遠方）で開催される説明会は資料の送付のみとした。本学受験生の進路説明会の参加は30%程度に止まっていることから、今後も同様の対応が望ましい。

③電子媒体、紙媒体の広報

- i. 本学のホームページ・パンフレット・ポスター等の内容及び表現を見直し、最新の情報が提供できるように可能な限り努めた。
- ii. 進学関連の電子媒体、紙媒体は広告費用の関係もあり庶務と相談して調整する。

④受験生アンケートの考察

- i. 受験者のほぼ全員がホームページを閲覧していることから、ホームページの充実及びホームページへのアクセスを容易にする工夫も求められる。正確な情報の提供と、写真やイラストを用いた分かりやすい情報の配信も求められている。
- ii. 受験生のほとんどが本学オープンキャンパスに参加していた。今後も魅力的なオープンキャンパスの企画・運営が求められる。

Action

- ①本学の特徴を明確にして、その特徴を社会に正しく発信することを継続する。配信方法としては、ホームページやパンフレット、ポスター及び進学関連業者の広告（紙媒体と電子媒体）を用いる。
- ②受験生のニーズ及び学校選択に関わる志向等の情報収集を行う。
- ③アドミッションポリシーに基づいた入学生の確保を実現するために、広報活動で得た情報や高校からの要望、保護者の意見等を入試委員会へ提供する。
- ④専任教員の教育研究活動の取組を始めとする情報を更新する。

研究倫理審査委員会

Plan

埼玉医科大学短期大学研究倫理審査委員会規定（平成 30 年 11 月改正）に則って、本学看護学科及び専攻科における人間を対象とする研究（教材も含む）に関する倫理性を審議する。

Do

今年度は合計 5 件の申請があり申請受理後、その都度会議を開催し審査した。
申請内容の内訳は以下の表の通りである。

表 令和元年度 申請状況

		申請件数 (件数)	
学内 (5)	教員 (3)	看護学科 (2)	
		専攻科 (1)	
	学生 (2)	看護学科 (2)	
		専攻科 (0)	
学外 (0)		(0)	

表 平成 27 年度～令和元年度 申請状況 (件数)

		年度					
		H.27	H.28	H.29	H.30	R.1	
学内	教員	看護学科	2	8	7	6	2
		専攻科	0	1	4	3	1
	学生	看護学科	7	3	5	1	2
		専攻科	21	18	18	0	0
学外		4	4	4	0	0	

Check

- ①今年度は申請件数が昨年度の2分の1であった(昨年度10件)。申請された研究計画書5件の内、2件は1回の申請で承認された。2件は条件付き承認となり、1件は再審査となった。条件付き承認のうち、1件は計画書を修正後、再提出されたものを委員会において確認した。他の1件については再提出次第、確認する。再審査の対象は2月末の申請であったため年度内での再申請は期間が短く難しい状況である。再申請があり次第、審査する。
- ②平成27年に研究倫理審査委員会規定が定められ、正式に委員会が発足してからの申請状況の推移をみると、大きな変化は専攻科学生からの申請がなくなったことである。これは臨地実習の関係で、選択科目である「母子看護学研究Ⅱ」の履修者がなく、受け持った症例をまとめるところに留まったため申請者がいなかったのではないかと考えられる。

また、教員の申請が減少してきている。これは教員の欠員状況が1つの要因となっていることが考えられる。欠員状況の中で教育活動、学生指導を行っているため、限られた時間の中では研究活動が思うようにできなかったのではないかと考える。看護学科の学生からの申請が少なかったのは、今年度の看護研究5件のうち3件が人間を対象としない文献研究であったことが要因であると考えられる。
- ③委員の役割遂行のための個々の活動として、学校法人埼玉医科大学主催の「公的研究費の適正使用」に関する研修会への参加や、研究倫理向上eラーニング受講などにより学習してきた。しかし、より適正な倫理審査を行うためにも、さらに学習を継続していく必要がある。

Action

- ①教員、学生に対して研究倫理の教育を強化する。
- ②審査委員のスキルアップのため研修を受講する。

IR (Institutional Research) 委員会

Plan

埼玉医科大学短期大学 IR (Institutional Research) 委員会規則(平成30年11月改正)に則って委員会を7回開催した。目的は次の通りである。教育、研究、その他の運営に関して、データを調査、収集し、分析することで得た客観的エビデンスを教育、研究、学生支援、経営等に活用し、本学の質の向上を推進する。この目的のもと次の4つの役割を実行した。1.各部署からのデータ収集(教育、研究、学生支援、経営等に関する)、2.分析のためのデータの統合と資料作成・管理、3.データの分析と課題の考察、4.分析結果の報告(教授会、関係各部署へ)、5.分析結果の活用の促進。

今年度は昨年度に引き続き1)受験者数の減少、2)在学生の基礎学力低下という2点を課題として取り上げ、データ収集し分析した。

Do

- ①2つの課題の取り組みとして以下のデータを収集した。
 - a. 志願者数推移

- b. 入学試験種別退学者数・留年者数（看護学科）
- c. 入学試験種別受験年度別平均 GPA 推移（看護学科）
- d. GPA 伸び率上位 10 名、下位 10 名（看護学科）
- e. GPA 入学時上位 10 名、下位 10 名、卒業時上位 10 名、下位 10 名（看護学科）
- f. 学年毎 GPA の分布（看護学科）
- g. 公立・私立指定校出身校別在学リスト（留年者数）（看護学科）
- h. 平成 25 年 4 月入学から平成 31 年 3 月までの入学者の、入学試験種別名、卒業時 GPA、進路、准看護師試験合格結果、国家試験合格結果（看護学科）
- i. 平成 25 年 4 月入学から平成 31 年 3 月までの入学者の、入学試験種別名、修了時 GPA（平成 27 年入学生より）、進路、国家試験合格結果（専攻科）
- j. 2019 年度（令和元年度）アセスメントテスト結果（看護学科、専攻科）
- k. 2017 年度（平成 29 年度）卒業・修了後 1 年目の動向
- l. 2015 年度（平成 27 年度）卒業・修了後 3 年目の動向
- m. 2019 年度看護学科入学生のプレースメントテスト結果
- n. 2019 年度卒業生のディプロマ・サプリメント

②上記①のデータを分析し、課題について考察した。

Check

①受験者数の減少（看護学科）

超高齢化、少子化社会を反映して 18 歳年齢人口が減少していること、また、看護系大学が増加し大学全入学の時代に入ってきた今日、志願者数の減少はやむを得ない状況である。今後、大幅な志願者増加は望めないまでも、いかに現状を維持していくかが課題である。入学生を確保するために、門戸を広げた入試形態の工夫として、入試委員会が中心となり地域特別選抜試験の導入を検討してきたが、高等学校の学習内容等についてさらなる情報収集が必要ということで次年度は見送ることとなった。高大接続会議を充実させて教育に関する情報交換を密に行っていく。また、本学の特色を周知してもらえるような広報活動を広報部委員会、入学試験委員会等と連携し対応していく必要がある。

②在学生の学力低下

看護学科は留年者及び退学者が減少してきている。これは GPA 導入により自己の能力を客観視できるようになったこと、学習成績管理ファイルの活用、試験結果のフィードバックの徹底、学修ホール等の整備により学習し易い環境が整ってきたこと等が要因の 1 つと考えられる。また、今年度より、初年次にプレースメントテストを実施した。1 年次生全員と 2 年次生 1 名が受験した。得点分布では、80 点以上の上位レベル 3.7%、50～79 点の中位レベルは 80.3%、49 点以下は 15.9%であった。科目では、数学(特に、割合、単位換算、百分率)、化学（特に物質質量）の得点が低かった。結果は学生個々にアドバイザーがフィードバックした。プレースメントテストは、学生が自己の基礎学力を客観視し、専門科目を効果的に学習する方法を身につけられるようにな

ること、また、教員は学生個々の基礎学力に応じた指導方法を追究し学習効果を高められるように支援することをねらいとしたが、この効果については引き続き追跡調査し分析していく必要がある。

指定校推薦入学者は、個人差はあるが他の入学試験種別（公募推薦・一般入学試験）よりも留年者、中途退学者が比較的少なく、GPAは上位にいる。指定校推薦入学者は入学の責任を自覚しており、モチベーションが高いことが考えられた。

学年ごとのGPA分布をみると1年次も2年次も低い傾向にある。しかし、年度末に実施したアセスメントテストの平均得点では、1年次(68.08点)よりも2年次(78.25点)、2年次よりも3年次(95.09点)の方が高かった。このことから専門的知識は確実に身につけてきているのではないかと考えられる。したがって1、2年次生のGPA分布が低かった理由は、1年次生は大学教育を受けるのに慣れるまでに時間がかかったこと、2年次生はカリキュラム上、1年次よりも専門科目を多く学ぶことから効果的な学習方法を模索している段階であったこと等から、学習目標の到達度が低くなったのではないかと考えられる。アセスメントテストの結果からは、学生が不得意とする問題が明確になってきたため、各科目担当者、アドバイザーと連携し、初年次教育の充実、専門科目の学習方法について個別指導等を強化する等の工夫が必要である。

専攻科については、モチベーションが低く成績も低迷し学習態度に問題のある学生が1名いたが、個別指導を強化し全員修了した。

③卒業生、修了生の卒業・修了1、3年後の動向

アンケートの回収率は、卒業後1年目が78%、3年目が約54%、修了後1年目、3年目ともに65%であった。卒業生の方は3年目になると回収率が低くなった。これは、結婚退職等で連絡先が不明瞭になった、奨学金の返済期間が終了し職場を移動した等の理由で回収率が低くなったのではないかと考えられる。回収率を下げない工夫が必要である。修了生の方は少人数のためか追跡調査し易く、年数が経過しても回収率は同じであった。

3年を経た卒業生・修了生の動向をみると、在職率は60%以上である。日本医療労働組合連合会の労働実態調査(2014年)による3~5年未満の看護師の勤続年数が、12.7%であるのに比べ高い在職率を示している。また、卒業後・修了後の活動として、卒業生の4割、修了生の約2割が研究発表を行い、卒業生の約2割、修了生の約5割がクリニカルラダー他の資格をとりキャリアアップしている。これらのことから、就職先の職場環境(人的・物的)が影響し、仕事に対するモチベーションも高められているのではないかと考えられる。

④ディプロマ・サプリメントの作成と配布

学修成果の可視化を行い、学生個々が自己の学習成果を客観視できるようにし、卒業後・修了後も主体的に学びを継続し成長できることをねらいとして、ディプロマ・サプリメントを作成した。これを卒業時に成績表と一緒に配付した。この効果については、今後、学生の反応をみて判断していく。

Action

受験者数の確保

①入学者の追跡調査結果を入試委員会、広報部委員会、看護学科、専攻科へ情報として提供し検討する。

学科会議で令和3年度(2022年度)入試の総括時の資料として活用し、令和4年度(2023年度)入試に向けて対策を考える資料とする。

②基礎学力低下への対応

i. 入学者の追跡調査結果を教務委員会、全教員へ提供しモチベーションを高め、学習する習慣を身につける。

・プレイスメントテストの活用、GPAの活用、学修ポートフォリオの活用等。

ii. 教授方法の改善

・授業評価結果の活用、双方向型授業の取り組み、ティーチングポートフォリオの作成等。

iii. ディプロマ・サプリメント作成効果の確認

学習環境整備専門部会

Plan

学習環境整備委員会は看護学科、専攻科、事務部の有志で構成され、教授会の承認を得て専門部会として発足し平成28年4月から活動を開始した。平成29年3月には学習環境整備専門部会運営方針が制定され、この方針に則って現在は活動している。構成メンバーは、学長、副学長、看護学科教員3名、専攻科教員1名、事務部2名の計8名である。活動目的は次の通りである。1. 学生の自主学習・協働学習のスペースを設け、自主的・自律的な学習を支援し、知識の創造を促進する。2. フリースペースでの教員と学生の学習活動が他学生の学習意欲を刺激することにより学力の向上につなげる。3. 安全・安心な学習および生活環境を確保する。

以上の目的のもと今年度は3つの目標を設定し年間計画を立て活動した。

①安全・安楽な環境を確保する(校舎、寮)。

②自己学習スペース・指導環境を充実する。

③教室の整備・視聴覚機器、教材の充実

i. 7階講堂の机、椅子の改修とモニターの設置

ii. 学内実習用教材の充実(看護学科・専攻科)

iii. 2階実習室のリネン類の新調

iv. 9号館演習室の床の改善とクリーニング

v. Wi-Fi環境の整備(2階,3階,4階,7階)

Do

全体委員会は3回開催し、随時、小委員会(看護学科の委員と委員長、専攻科の委員と委員長、事務部委員と委員長)で活動内容を調整しながら実施した。活動した内容は次の通りである。

①安全・安楽な環境の確保に努めた（校舎、寮）

《校舎》

i. 保健室の整備

室内の物品を整理し、体調不良の学生に対応できるように環境を整えた。

さらに、保健室のスペースを利用しカウンセリング室を設置した。

ii. 校舎内に看護学科の寮生用ロッカーを設置

5階更衣室（専攻科学生用）を4階講義室3に移動し、その後に、埼玉医科大学短期大学同窓会の協力を得て、看護学科寮生のロッカーを設置した。

iii. 専攻科更衣室、教室の整備

・5階にあった専攻科更衣室を4階講義室3に移動し、ロッカーで仕切り、教材の収納とミーティングができるスペース（ゼミ室2）を確保した。

・受講教室を4階講義室3から4階講義室2へ移動した。

《寮》

i. 防犯対策を徹底した

・玄関、バルコニー、廊下に防犯用カメラを設置した。

・1階非常階段入り口にドアを設置した。

・1階、2階のバルコニーにパネルを取り付けた。

ii. 各階洗濯室の洗濯機を2台ずつ新調した。

②自己学習スペース・指導環境を充実するよう努めた

i. 自己学習スペースを充実するための検討を行った。

・図書館内の一部のテーブル上に卓上パーテーションを設置できないか検討した。

・5階ロビーに模型や人体モデル教材を配置した。

③教室の整備・視聴覚機器、教材の充実を図った

人体モデル（筋肉・血管モデル）を新調した。

Check

①活動目標1

校舎内は保健室とカウンセリングスペースが整備され相談しやすい環境が整った。寮生は校舎内にロッカーが設置されることにより、学習と生活の場を区別して生活できるようになった。

専攻科学生の更衣室が4階に移動したことで受講教室も変更し、狭かった机と椅子が適切なものになった。これにより4階はほぼ専攻科専用のフロアとして使用できるようになった。しかし、演習室が9号館にあり、教員も、学生も動線が長く時間的にゆとりがもてないこと、また、今回は予算の確保ができなかったため、更衣室とミーティングスペースがロッカーで仮に仕切られていることなど今後の課題が残った。

看護学科の寮については、寮の立地条件を考えハード面での防犯対策を徹底した。しかし、防犯カメラの設置位置等については、プライバシーを遵守する点など学生の反応をみながら適切性

を検証していく必要がある。また、洗濯機を各フロアーに 2 台ずつ新調したことで生活は容易になったと考える。

②活動目標 2

図書館内のテーブルに卓上パーテーションを設置する案については、種々の案が出されたが、継続検討課題となった。

自己学習教材として 5 階ロビーに随時、活用できるように模型、人体モデルを配置したが、活用の程度は把握しきれていない。次年度は学生の反応をみて、積極的に活用できるようにしていく。

③活動目標 3

7 階講堂の設備については、大規模工事で費用が高額になるため、実現の可能性を求めて継続検討することになった。また、2 階実習室のリネン類の新調、Wi-Fi 環境の整備についても予算の確保を考えながら継続して検討していくことになった。さらに、各教室の壁の修繕やカーテンのクリーニング（または新調）も継続課題となった。

開学以来、使用されてきた人体の筋肉、血管モデルが摩耗し破損した。これについては修理不可能ということで新しいものが購入できたので、次年度から教材として活用できるようになった。

9 号館の床の改善については、衛生上、フローリングに改修する案があったが、絨毯の方が授業で活用し易いということで、クリーニングか清掃を徹底するという事になった。

Action

①安全・安楽な環境を確保する

《校舎》

- i. 各教室のカーテンの交換（またはクリーニング）
- ii. 各教室の壁の修繕

《寮》

- i. 室内の設備の修繕（カーテン、壁、ベッド等）

②自己学習スペース・指導環境を充実させる

- i. 図書館内に個人学習スペースを確保する

③教室の整備・視聴覚機器・教材の充実

- i. 7 階講堂の机・椅子の改修とモニターの設置
- ii. 学内実習用教材の充実（看護学科・専攻科）
- iii. 2 階実習室のリネン類の新調
- iv. Wi-Fi 環境の整備

(3) 看護学科

①臨地実習委員会・看護学実習協議会

<臨地実習委員会>

Plan

臨地実習が円滑に行われるように、i)各看護実習開始前に諸手続き及びオリエンテーション、ii)領域別看護実習・総合実習の中間・最終フィードバック（3年次生）、iii)基礎実習終了後に<まとめ>、iv)次年度の実習ローテーション表の作成を計画した。看護実習施設は「学外実習施設一覧」（p.59-60）に記した。

Do

諸手続、オリエンテーション及びフィードバック・まとめについては以下の通りである。

		領域別看護・総合実習	基礎看護実習Ⅱ	基礎看護実習Ⅰ
臨地実習事前手続き		①電子カルテシステム利用登録申請作成（実習開始1ヶ月前提出） ②抗体価検査およびワクチン接種自己申告作成（実習開始1ヶ月前提出） ③その他		
オリエンテーション	時期	3月27~28日	8月	12月
	内容	臨地実習のねらい、健康管理、安全に関する事項 ほか	臨地実習のねらい、基礎看護実習の位置づけ、実習における諸注意、健康管理、ほか	
フィードバック	中間	4月~8月の出欠席の状況/ヒヤリ・ハット・事故・物品管理報告の集計と分析結果/グループディスカッション 「テーマ：グループで学ぶ意義」	<まとめ> 実施日：9月27日 グループディスカッション	<まとめ> 実施日：1月10日 グループディスカッション
	最終	年間の出欠席の状況/ヒヤリ・ハット・事故・物品管理報告の集計と分析結果/グループディスカッション「テーマ：臨地実習のねらいに対する到達度」	テーマ 「知識・技術・態度を統合して看護実践するために必要な取り組み」	テーマ 「“他者を理解するための姿勢”を養うための課題」

2020年度実習ローテーション案は各領域の要望を確認し作成した。その後、領域ごとに他校と調整し、埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議を経て、再調整後決定した。

Check

臨地実習に関わる諸手続きの感染対策に関する書類作成は、6月に書類作成、ワクチン接種の学生の把握と個別指導を行った。数名の学生は実習直前まで指導を必要とした。

ヒヤリ・ハット報告の種類が多かったものは学年を問わず「情報の漏洩」であった。要因として学生の個人情報の取り扱いに関する基礎的知識や注意力の不足、自らヒヤリ・ハットに気づく学生が少ないことから、フィードバック（中間、最終）でヒヤリ・ハットに対する学生の認識を改善するような働きかけが不足していたと考える。

グループディスカッションのテーマ設定では、3年次生はカンファレンスや各実習の<まとめ>と内容が重複していると感じる学生が多数見受けられた。1年次生、2年次生は話し合いに慣れていないことを考慮し、テーマを設定する必要があった。

領域別看護実習・総合実習のローテーション作成では、川越キャンパスでの実習と毛呂山キャンパスでの実習の回数について、実習グループによる偏りをなくす努力をしても限界があり、継続課題である。学生には他校、病院・病棟との複数の条件を調整する必要があることを説明し理解してもらう必要がある。

Action

臨地実習事前諸手続き、特に感染対策に関わる書類作成は学生が期限を意識し行動できるように計画的に指導する。書類提出できない場合には臨地実習が許可されないことを周知する。

ヒヤリ・ハット報告は常に教員と学生で共有し、随時発生したヒヤリ・ハット報告を通して学生の知識不足の改善や自らの気づきの向上を図るように指導する。フィードバック時のグループ活動は、SNSに関する諸注意やヒヤリ・ハットの原因分析・対策を深める話し合いにする必要がある。

学生による授業評価アンケート（臨地実習）が2019年度より開始された。その結果を参考に、今後も実習内容・方法を継続検討する。「臨地実習指導の手引き 第6版」は改訂から5年が経ち、記載内容が現状と一致しない箇所があるため改訂に向けて検討する。

<看護学実習協議会>

Plan

看護学実習を円滑に実施するために実習指導に関する連絡・協議を行う。①看護学実習協議会開催：7月（2019年度委員・規約の確認、年間計画等）、②埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議へ代表者参加、③臨地実習指導者会議の開催：2020年2月（2019年度看護実習評価と2020年度看護実習計画）を計画する。

Do

看護学実習協議会では、2019年度委員・規約の確認、協議会の年間計画の決定、6月までの実習状況（出欠席、ヒヤリ・ハット及び事故・物品管理報告の途中経過）の報告と情報交換を行った。

埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議は10月21日に開催され、副学長、学科長、実習委員長が参加した。総合医療センター主催の調整会議が別途行われ、総合医療センターを利用する関連領域の代表者が出席し調整した。大学病院、丸木記念福祉メディカルセンターについては実習病棟の調整後、学校間で学生数を調整した。

臨地実習指導者会議の開催は毛呂山キャンパスと川越キャンパスに分けて計画し、議題は2019年度看護実習評価と2020年度看護実習計画である。

Check

看護学実習協議会の年間計画に沿って活動した。病院の改修工事に伴う病棟の移動等の情報交換により学生の戸惑いを最少にでき有用であった。埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議後に、学校間で実習生数、実習期間、実習病棟を調整するための話し合いが数回必要であった。

Action

臨地実習指導者会議日程は他校の開催時期に関する情報収集も検討する。

主たる実習病院は高度な先進医療を提供しているため患者の在院日数の短縮、在宅医療への移行、他大学の臨地実習参入等、実習期間を通して一人の患者を継続して受け持つことや実習病棟の確保が困難になりつつある。実習方法の検討や実習施設との密接な連絡・協力が重要となる。

②国家試験委員会

Plan

- 1 年次生
 - i. 人体の構造と機能が国家試験での重要科目と認識でき学習に取り組める。
 - ii. 看護師国家試験について理解し、国家試験に向けての自己の取り組みを一つあげることができる。
- 2 年次生
 - i. 「調べ学習」「解説学習」のスキルを身につける。
 - ii. 必修問題の出題基準を理解し、2月の必修模擬試験で7割以上とる。
- 3 年次生
 - i. 過去問題集使用の習慣化、外部での学習による競争意識の向上と臨地実習と国家試験の学習を連動させる。
 - ii. 学習の統合と個別対策と自己管理ができる。

Do

- 1 年次生
 - i. 部講師による看護師国家試験ガイダンス
 - ii. 模擬試験を1回実施（解剖生理学）
 - iii. 解剖学の参考書の購入、購入した参考書を用いての試験の実施（2回）
- 2 年次生
 - i. 外部講師による看護師国家試験ガイダンス
 - ii. 模擬試験を4回実施（解剖生理学・病態生理学、必修問題）
 - iii. 必修問題集購入、学習方法の指導、学習状況の確認
- 3 年次生
 - i. 模擬試験を9回実施
 - ii. 習熟度別による学習指導の実施、夏季・冬季学習対策の実施
 - iii. 外部講師によるガイダンスおよび講義の実施
 - iv. 過去問題集活用セミナーの実施
 - v. 必修問題朝テストの実施
 - vi. 学生委員との協働

Check

- 1 年次生：看護師国家試験のガイダンス、模擬試験、国家試験過去問題を用いた試験、解剖学の参考書の購入と参考書を用いての試験を実施した。参考書を持ち込み可の試験について、学習は進んでいる学生とそうでない学生の差がみられた。外部講師のガイダンスを通して、国家試験に対する認識を高めることができた。
- 2 年次生：必修問題集を購入して、その学習方法の指導、学習状況の把握を行った。学習が進んでいる学生とそうでない学生の差がみられた。問題集を購入することで国家試験を受験することへの認識が高まった学生もいた。

3 年次生：模擬試験を活用して、中間目標を設置し、目標が達成するように支援した。模擬試験の結果を元に習熟度別に学習指導を行った。実習期間中は、例年模擬試験を実施していなかったが、学生自身が学習の進行状況を知るためと学習の進行状況が学生個々で違うので、学生が自ら学習する意思を育てるために今年度は実施し、学習進度に合わせて予備校の利用を勧めた。学生の個性を把握した上で指導をするため、アドバイザー教員による指導の強化を図った。

Action

- 1 年次生：学生が、1 年次から国家試験に対しての意識を向上させるために、学内の教員だけでなく積極的に外部講師ガイダンスや講義を取り入れてることが必要である。
- 2 年次生：2 年次に必修問題集を購入して学習することで、2 年次から国家試験勉強と日常の学習を結びつけられるのではないかと考える。学習が進んでいない学生に対しての支援方法を検討する必要がある。
- 3 年次生：習熟度別に学習を進めることで学生の進度に合わせて支援したが、学生の受け止め方はさまざまであり学習成果に反映していない結果がある。今後ますます学生個々への対応は、アドバイザーによる丁寧な個別指導が必要と判断している。

(4) 専攻科

臨地実習の運営と実施

専攻科では「助産管理実習」「周産期援助実習」「新生児援助実習」「分娩期援助実習」「地域母子保健実習」を行った。今年度実習施設の確保が難しく「出産前教育実習」は未開講になった。

周産期医療を取り巻く状況は県内でも大きく影響しており、分娩介助の実習を展開する施設での妊婦のハイリスク化と正常分娩の減少という状況が学習進度に影響している。今年度は学生数が 19 名で実習が開始された状況であったが、実習期間内に終了した。もし 20 名であった場合には、実習期間の延長になることがおおいに考えられる。今後も今まで同様指定規則に定められた分娩介助例数（学生 1 名につき 10 例程度）の確保が困難となる状況は変わらないであろう。

今年度のその活動内容を示す。実習施設は、「学外実習施設一覧」（p.60）に記した。

Plan

- ① 専攻科実習における学生への学習支援：臨地実習オリエンテーション企画、分娩介助の技術確認、臨地実習記録の事前確認等
- ② 臨地実習関連の準備：専攻科 臨地実習会議の企画(7 月、2 月)、実習要項、評価表の作成、臨地実習記録と評価表の見直し、実習ローテーション作成、グループ編成、臨地実習調整会議の参加（大学病院主催、総合医療センター主催、愛和病院主催）、外部実習における打ち合わせと教員研修

Do

①専攻科実習における学生への学習支援

- ・臨地実習オリエンテーションは、前期2回と後期の1回に分けて実施した。特に個人情報の保護や情報漏洩について指導した。ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書、物品管理報告書を記載する意義を説明した。
- ・各実習施設の特徴や施設に関して、実習のやり方について担当ごとに実施をした。
- ・夏季休業中や講義終了後に演習室を調整し、技術確認や練習ができるように準備をした。実習担当教員が技術の確認および実習記録について、実習開始前に確認をした。

②臨地実習関連の準備

- ・臨地実習会議においては、7月と2月に企画、実施をした。7月では、実習概要、実習指導者の役割、各実習内容の確認をし、実習が円滑に行くように指導者との意見交換を行なった。実習施設が複数となるため分娩介助評価を新たなものを作成し工夫した。実習中も実習指導者と担当教員間で随時調整を行った。2月は今年度の実習総括、実習評価や来年度に向けた課題について検討をした。
- ・新たな外部実習施設では、担当教員が病棟管理者及び実習指導者の協力を得て、実習における打ち合わせや教員の動きや実習の際の注意点、学生が実習しやすくするために病棟でのオリエンテーションを実施した。
- ・埼玉医科大学病院、総合医療センター、愛和病院、清水病院では、実習にあたり「抗体検査及びワクチン接種自己申告書」を提出した。抗体価が規準に満たない場合は学生への指導を行った。
- ・実習学生の人数調整のため、各実習施設に事前調整を行った。また、各実習施設主催の臨地実習指導者調整会議に参加した。外部施設においては、他の学校との調整も実施した。

Check

①専攻科実習における学生への学習支援

- ・各施設実習オリエンテーションについては、担当教員が実施した。
- ・「周産期援助実習」では 3 施設で実施した。全員が予定帝王切開術の方を受け持ち、妊娠初中期から産後 1 か月健診までを受け持った。実習期間内に終了した。
- ・「分娩期援助実習」では、7 ヲ所の実習施設に学生を配置した。助産管理実習と継続ケースの予定日を加味してスケジュールを組んだ。実習施設と学生配置の都合で、実習配置できない場合もあったが、担当教員が調整をして施設間でのやり取りをしながら期間内に終了した。しかし、1 名が、実習開始が 2 週間遅れたために分娩介助残り 1 例目を国家試験終了後に再開する予定である。
- ・「新生児援助実習」では、ハイリスク新生児を対象にした NICU 見学実習を 1 日と新生児期の経過診断や援助を行う能力を強化するために、継続ケースの新生児を対象に展開し、新生児訪問を含めて 5 日間実施した。全員が帝王切開直後の児のケアを見学することができた。

- ・「助産管理実習」では、3カ所の助産所での実習を実施した。正常経過にある妊婦の健康増進の取り組みを体験させる機会として、1カ所で妊婦水泳に参加している。助産管理実習予定期間に継続事例が出産となり2名の学生が予備期間を利用してスケジュールを変更して実習終了することができた。
- ・「地域母子保健実習」では、県内5カ所の保健センターで予定通り実習した。新生児訪問や乳幼児訪問、乳幼児健康診査等の参加、母子健康手帳交付時の面接を通して、地域の母子保健における助産師の役割や地域のニーズをしっかりと理解できた。
- ・各実習において、カンファレンスを実施している。発表資料を作成することに精一杯であることが目立ち、研究的な視点での分析や課題を明確に打ち出すためのディスカッションが十分できていなかった。

②臨地実習関連の準備

- ・臨地実習会議では、各施設の指導者に参加頂き、前年度の修正点・検討事項を踏まえた話し合いができた。施設ごとに事前打ち合わせを行った。
- ・実習ローテーションも、実習科目や各施設の状況を踏まえながら調整をした。
- ・分娩介助評価表を修正したが、問題なく実習できた。

Action

①専攻科実習における学生への学習支援

出生数の減少、高度な医療や合併症妊婦、高齢妊婦等ハイリスク妊婦が多くなってきている現状や、学生が「周産期援助実習」や「分娩期援助実習」で事例を確保することが難しくなっている。また、妊産婦の意識の変化から分娩介助実習への同意が得られにくい状況がある。これらのことから学生が今後、実習期間内に正常分娩を10例介助するとは、非常に困難である。今後も分娩例数によってはさらに実習施設の拡大が望ましいが、実習施設の確保自体が困難な状況である。分娩介助10例が優先となり、妊娠期の助産診断や保健指導が十分できず、実習内容が十分目標達成できていない一面も見られる。特に後期実習は「周産期援助実習」「分娩期援助実習」「新生児援助実習」「助産管理実習」と実習が重なるために実習施設との調整を強化していく必要がある。学生が有効な実習を展開できるようにする。

本科は看護師国家試験を取得している学生であるため、普段から倫理的配慮や個人情報保護の視点等ができていくか指導していく必要がある。実習における事故防止に対する認識や倫理的配慮、「保健師助産師看護師法」等の法律に基づいた、実習の展開や情報の取り扱いなどを実習中はもちろん実習オリエンテーションで十分に注意を促していく必要がある。また、他職種との連携に意識しにくい面があるためそのような視点での実習ができるように指導していく。

②臨地実習関連の準備

臨地実習において、施設の協力は不可欠である。有意義な実習を実施するために実習施設とは、連携を図ることが必要となってくる。また、24時間体制での実習になるため、体調不良や事故が発生しないよう調整が必要となる。

病院実習受け入れのため、感染対策の一環として「抗体検査およびワクチン接種自己申告書」の提出が求められる。今後、医療機関で就業する学生にとっては、自己管理という点でも認識できるよう指導していく。

6) 教育・研究活動(実績)

(1) 埼玉医科大学短期大学特別研究助成金制度

本学では平成 10 年度より表記の研究助成制度を発足させ、学長を委員長とする研究審議委員会がこの制度の運用の任にあっている(p.114-115 参照)。

(2) 研究誌の発行状況と編集方針

「埼玉医科大学短期大学紀要」が紀要委員会の編集により、1990 年以来毎年 1 巻発行されている。

①発行状況

令和 2 年 3 月に第 31 巻(原著 1 編、報告 6 編の計 7 編掲載)が刊行された。300 部発行し、学内 84 部(図書館、教職員、関連施設)、学外 216 部(医療系の大学・短期大学・専門学校、その他)に配布した。

②編集方針

他雑誌に未発表の原著論文、総説、報告等を掲載する。投稿者は本学及び埼玉医科大学、丸木記念福祉メディカルセンターの教職員(非常勤を含む)及び紀要委員会が特に認めた者とする。4 月末を演題エントリー(投稿する意思の表明)、8 月末を入稿の締め切り日としている。

(3) 教育研究に関する意思決定の方法・体制

学校法人埼玉医科大学には寄附行為に基づき理事会(理事 15~17 名、監事 2~3 名)が設置されており本学を含む法人の管理運営と設置目的の遂行にあっている。一方本学には学則に基づき教授会が置かれており本学の教育研究に関する事項の決定実行にあっている。理事会と本学教授会の意見調整の必要のあるときは学長(理事長兼務)がこれを行う。

(4) 研究業績

看護学科

①原著

中里 良彦, 田村 直俊, 奥田 理沙, 大田 一路他. Idiopathic pure sudomotor failure 治療後に全身性多汗症となった 1 例. 発汗学 2019;26:47-48.

大田 一路, 中里 良彦, 田村 直俊, 山元 敏正. 体幹の帯状表在感覚低下と顔面を含む分節性無汗を呈した1例. 発汗学 2019;26:49-51.

秋山 千恵子. 看護学生のストレス対処能力と健康行動との関連. 埼玉医科大学紀要 2020;30:1-22.

秋山 佑紀, 富田 幸江, 小林 由起子. 回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師のキャリアコミットメントとその関連要因. 自立支援介護・パワーリハ学 2019;13(2):88-97.

②著書

③総説

田村 直俊, 光藤 尚, 中里 良彦, 山元 敏正他. 片頭痛と体位性頻脈症候群 (PoTS). 日頭痛会誌. 2019;45:536-540.

田村 直俊. 逆説の自律神経学. 自律神経 2019;56:64-69.

田村 直俊. 多系統萎縮症—新たな展開. 起立性低血圧. Clin Neurosci 2019;37:1124-1126.

田村 直俊, 中里 良彦. 唾液腺の自律神経支配—歴史的展望—. 自律神経 2019;56:155-161.

田村 直俊, 光藤 尚. 脳脊髄液減少症の歴史的展望—Schaltenbrand の業績を中心に—. 自律神経 2019;56:162-169.

田村 直俊, 中里 良彦. 交感神経切除後の代償性発汗・味覚性発汗と発汗の二重神経支配仮説. 発汗学 2019;26:35-40.

④報告その他

今野 葉月, 宮崎 素子, 小池 啓子, 蒲生 澄美子. 看護学生の看護技術習得過程におけるメタ認知の特徴—血圧測定に焦点をあてて—. 埼玉医科大学短期大学紀要 2020;31:65-73.

霜田 敏子, 加藤 久栄, 布施 好朗. 看護学生の「子どもの権利の尊重」に関する認識と実践—短期大学三学年の相違—. 埼玉医科大学短期大学紀要 2020;31:75-86.

瀧山 文恵, 持田 奈穂美, 平良 朝子. 義歯を装着した高齢者の口腔ケア実践における学生の学び—口腔ケアモデルによる体験学習と臨地実習での実践—. 埼玉医科大学短期大学紀要 2020;31:55-63.

加藤 久栄. 保育所・幼稚園における医療的ケアに関する研究動向と課題. 埼玉医科大学短期大学紀要 2020;31:35-44.

石川 裕貴, 内田 貴峰, 一花 詩子. 「産婦の看護」にシミュレーション教育を取り入れた学習方法の検討. 埼玉医科大学短期大学紀要 2020;31:23-34.

布施 好朗. 小児看護実習で学生が子ども・家族に感じた不安に対する指導方法に関する国内文献検討. 埼玉医科大学短期大学紀要 2020;31:45-53.

⑤学会発表

- 菅谷 洋子, 所 ミヨ子, 佐伯 千寿子. 「医行為でない行為」の看護と介護の連携のあり方. 第 50 回日本看護学会－看護管理－学術集会抄録集 2019;140.
- 田村 直俊, 中里 良彦, 山元 敏正. 交感神経切除後の代償性発汗と汗腺の二重支配仮説. 第 27 回日本発汗学会総会.2019;7:26-27.
- 内田 貴峰, 米山 万里枝. 育児期における夫婦の役割・調整に関する文献検討.第 60 回日本母性衛生学会総会. 2019;60(3):140.
- 小池 啓子. 中堅看護師の行動変容を促す研修パッケージの開発計画－キャリアラダーとアクションプラン省察による受講者の成果－. 日本教育工学会 2019 秋季全国大会. 2019.9.7. 愛知.
- 海野 文子. 重症児の在宅支援について. 第 5 回地域包括ケア研究発表会抄録集. 2019;76-79.
- 渡邊 あゆみ. 看護学生の自己省察時の視点－精神看護実習におけるプロセスレコードとインタビューを活用して－.日本精神科保健看護学会第 29 回学術集会. 2019.6.9. 愛知.
- 石川 裕貴, 内田 貴峰, 一花 詩子. 分娩期の演習にシミュレーション教育を用いることでの母性看護実習への効果. 第 60 回日本母性衛生学会学術集会. 2019.10.11.東京.
- 秋山 佑紀, 富田 幸江, 福澤 知美, 横山 ひろみ, 中澤沙織. 回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師のキャリアコミットメントとその関連要因. 日本看護研究学会雑誌 2019; 42(3): 592.
- 福澤 知美, 富田 幸江, 秋山 佑紀, 横山 ひろみ, 中澤 沙織. 新卒看護師のレジリエンスとその関連要因. 日本看護研究学会雑誌 2019;42(3):478.

⑥学術講演

- 所 ミヨ子. 看護論 (V. ヘンダーソン). 看護学生臨地実習指導者講習会. 2019.6.1,8.埼玉県看護協会 埼玉高齢者介護研修センター.

⑦公的研究費

- 今野 葉月, 宮崎 素子, 小池 啓子, 蒲生 澄美子, 所 ミヨ子. 看護学生の看護技術修得過程におけるメタ認知の特徴－血圧測定に焦点をあてて－. 埼玉医科大学短期大学特別研究費.埼玉医科大学短期大学.平成 29 年度.
- 小池 啓子, 海野 文子. 臨地実習での活動促進をめざす在宅看護領域の授業改善－実習で経験する看護技術強化を目的とした演習設計と実践－. 埼玉医科大学短期大学特別研究費. 埼玉医科大学短期大学. 令和元年度.
- 渡邊 あゆみ. 看護学生の自己省察時の視点－精神看護実習におけるプロセスレコードを活用して－. 埼玉医科大学短期大学特別研究費.埼玉医科大学短期大学. 令和元年度.

石川 裕貴, 内田 貴峰, 一花 詩子. 母性看護実習での学生のストレスと産婦への共感性に及ぼす影響—分娩期の演習にシミュレーション教育を用いて—. 埼玉医科大学短期大学特別研究費. 埼玉医科大学短期大学. 平成 29 年度. 継続.

⑧学外との共同研究

所 ミヨ子. 介護基礎教育における「医行為でない行為」の卒業時到達目標—看護と介護の連携・協働に向けて—. 2018.11～2022.11. 菅谷 洋子. 東北文化学園大学.

所 ミヨ子. 看護と介護の連携シートの開発—V.ヘンダーソン看護論を基盤にして—. 2019.12～2020.12. 菅谷洋子. 庄司幸恵. 東北文化学園大学.

田村 直俊. 令和元年度日本医療研究開発機構研究費・障害者対策総合研究開発事業「脳脊髄液減少症の病態生理と診断法の開発」班, 分担研究者.

秋山 佑紀. がん診療連携拠点病院に勤務する看護師のレジリエンスとその関連要因. 2019.12.～2020.12 月. 福澤 知美. 東都大学.

⑨調査活動

専攻科 母子看護学専攻

①原著

弓削美鈴, 稲井洋子. ピアカウンセリング活動は自己効力感を高めるのか. 日本生殖心理学会誌. 2019;5(2):6-12.

②著書

稲井 洋子. 初めての夜勤. 齋藤益子編著. 助産師ものがたり. 東京:クオリティケア; 2020:13-15.

稲井 洋子. 初めての沐浴指導. 齋藤益子編著. 助産師ものがたり. 東京:クオリティケア; 2020:27-28.

稲井 洋子. 尊敬できる医師. 齋藤益子編著. 助産師ものがたり. 東京:クオリティケア; 2020:100-101.

③総説

④報告その他

⑤学会発表

稲井 洋子, 齋藤 益子, 北川 典子, 今村 久美子, 鈴木 操. 助産師学生の性行動に関する授業の実践報告～性同一性障害当事者と性犯罪加害者支援者からの講義後レスポンスより～. 第 19 回日本母子看護学会学術集会. 2019.6.30. 東京.

稲井 洋子, 北川 典子. 助産師学生の助産過程と分娩介助の学習状況に関する調査～分娩介助 3 例目迄の自己評価アンケートより～. 第 2 回日本助産診断実践学会学術集会. 2019.9.7. 滋賀.

今村 久美子, 藤村 博恵. 妊産褥婦の性に関する保健指導についての勤務助産師の行動. 第 60 回日本母性衛生学会学術集会, 2019.10.11. 千葉.

Kumiko Imamura, Hiroe Fujimura, Yuko Yasuda. Awareness of hospital midwives about health guidance for pregnant and parturient women concerning sexual activities. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2020.2.29. Osaka.

⑥学術講演

稲井 洋子. ワークショップ I 「妊娠出産のポイントを考える」 分娩期の助産診断と実践 ～教育の現場からケアを考える～. 第 35 回日本分娩研究会. 2019.10.10. ヒルトン東京ベイ.

⑦公的研究費

稲井 洋子. 助産師学生の助産診断と助産実践における知識獲得状況について. 埼玉医科大学短期大学特別研究費. 埼玉医科大学短期大学. 平成 30 年度. 継続.

鈴木 操, 今村 久美子, 北川 典子, 稲井 洋子. 助産師学生の妊娠期の演習における技術到達度状況について. 埼玉医科大学短期大学特別研究費. 埼玉医科大学短期大学. 令和元年度.

⑧学外との共同研究

⑨調査活動

2. 物的資源

1) 施設設備の整備・運用状況

(1) 学内ネットワークの整備

学校法人埼玉医科大学 IT 化推進委員会と協調して短期大学の IT 化の一環として進めてきたネットワーク基盤強化は平成 17 年度までにほぼ整備され、以下の様に運用と保守を継続して行っている。

- ①事務部のネットワークは、強化されたセキュリティの下で共有サーバを用いて教職員間の情報交換に有効に利用されている。
- ②コンピューター実習室の学生用機器は、コンピューター活用の授業以外の教育にも広く利用されている。コンピューター実習室内の学生用 PC は、平成 24 年 8 月にノート PC となり、実習室内に複合機とプロジェクターが設置されている。
- ③学生のノート PC 用に盗聴防止策を施したアクセスポイントを配備し、安全な接続が可能である。

(2) 建物・設備

校舎・学生寮としては、短大本校舎・専攻科棟の 2 棟と学生寮 1 棟を、施設部と短大事務部により日常の保守管理を行っている。その他、施設・設備・衛生設備・電気設備・防火設備に関する保守管理については、法令に基づき定期的に専門業者により実施されている。

(3) 危機管理体制

防災委員会に拠る教職員の防火・防災体制については、フローア責任者及び各室に責任者を置き、防火・防災体制を敷いている。消防訓練・避難訓練については学事に組み入れ、地区の消防組合の指導の下、4 月、7 月に実施している。

(4) 防犯体制

キャンパス内の防犯体制については、警備会社による、夜間の立ち入り検問、校内巡回等により、厳重に行われている。

2) 令和元年度購入教育備品

品 名	規 格 等	数 量
日本人男性骨格交連複製モデル 吊下げスタンド式	11801-100 (SH1)	1 体
人体解剖模型 M-100 形	11001-000 (A1A)	1 体
助産演習モデル母体	LM-0637	2 体
分娩介助モデル用外陰部 II 型 (初産婦・経産婦セット)	LM-101S	2 セット

3) 図書利用状況

(1) 令和元年度単行本受入冊数

	購入分	寄贈分	研究費分	合計
和書	225	0	0	225
洋書	0	0	0	0
A V	6	0	0	6
合計	231	0	0	231

(2) 令和元年度製本雑誌受入冊数

	購入分	寄贈分	合計
国内雑誌	68	13	81
外国雑誌	16	0	16
合計	84	13	97

(3) 令和元年度現行受入雑誌数

	購入分	寄贈分	合計
国内雑誌	46	109	155
外国雑誌	12	0	12
合計	58	109	167

(4) 平成元年度（開学年度）からの累計冊数

	和書	洋書	合計
単行本	18,650	51	18,701
製本雑誌	2,863	530	3,393
A V	187	0	187
合計	21,700	581	22,281

(5) 令和元年度 図書貸出状況及び入館者数

	教職員	看護	専攻科	その他	合計
貸出者数	224 人	1,480 人	151 人	51 人	1,906 人
貸出冊数	638 冊	3,189 冊	265 冊	103 冊	4,195 冊
入館者数	392 人	4,284 人	482 人	89 人	5,247 人

(6) 令和元年度開館日数 217 日

3. 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

1) 学術情報システムの整備・活用状況

	E-Mail 件数					WWW			短大 HP アクセス
	学内		学外		合計	学生	教職員	合計	
	学生	教職員	学生	教職員					
2019/01	2,915	4,480	2,294	26,218	35,907	915	6,795	7,710	9,600
/02	1,202	2,852	1,169	28,114	33,337	675	6,340	7,015	8,122
/03	898	4,471	375	27,091	32,835	364	6,281	6,645	8,888
/04	1,716	4,841	847	29,533	36,937	692	6,003	6,695	8,957
/05	1,765	4,015	1,674	26,742	34,196	746	7,610	8,356	8,307
/06	2,228	3,458	2,006	27,056	34,748	1,302	6,766	8,068	9,107
/07	3,447	4,149	3,064	29,997	40,657	742	6,304	7,046	9,743
/08	1,845	2,968	1,691	22,518	29,022	423	6,170	6,593	8,566
/09	3,867	3,233	3,557	25,716	36,373	659	5,580	6,239	8,156
/10	3,159	3,620	2,991	27,249	37,019	847	5,631	6,478	8,367
/11	2,616	3,519	2,217	28,826	37,178	587	6,396	6,983	8,777
/12	2,517	3,684	2,367	25,836	34,404	526	5,394	5,920	6,519
2019/01-12	28,175	45,290	24,252	324,896	422,613	8,478	75,270	83,748	103,109

4. 財的資源

資金収支及び事業活動収支は、過去3年間にわたり均衡して順調な運営がなされている。平成28年度から令和4年度の第4次長期総合計画を策定し、計画的な事業運営に取り組んでいる。収支バランスも良く健全な運営がなされている。

IV リーダーシップとガバナンス

1. 理事長のリーダーシップ

理事長は、当該法人の運営全般にリーダーシップを適切に発揮している。法人の寄附行為を基に、学校行事、特別講義等で学生及び教職員に講和し、意識づけることによって、本学の発展に寄与している。理事長は、本学の学長を兼務し、自己点検・評価委員会の委員長として、リーダーシップの下、全専任教職員で教育の質保証を図る査定の仕組みが機能している。

2. 学長のリーダーシップ

学長は、人格高潔で、学識が優れ識見に富み、かつ教学運営の最高責任者として、その権限と責任において、教授会の意見を参酌して最終的な判断を行っている。寄附行為及び建学の精神に基づき教育研究を推進し、本学の向上・充実に向けて努力している。また、校務をつかさどり所属職員を監督している。

3. ガバナンス

理事長のリーダーシップのもと、医療人としての意識改革に努めている。学校法人埼玉医科大学の基本理念『限りなき愛』を基本にして、5年ごとに長期総合計画を策定し実施し、現在は第4次長期総合計画を実行中である。この法人全体の理念を引き継ぎ、本学においても、建学の精神及び教育目標、三つの方針を明確にした「行動のしおり」を作成し、教職員及び全学生が携帯し意識改革に努めている。

令和元年度自己点検・評価委員

丸木 清之 (学長)
所 ミヨ子 (副学長・委員長)
小室 秀樹 (短大事務部顧問)
内田 和利 (学校群統括部長)
相田 香 (事務部長)
久保 かほる (看護学科)
稲井 洋子 (専攻科)
今野 葉月 (SD 活動企画代表)
秋山 千恵子 (看護学科)
加藤 久栄 (看護学科)
島田 典明 (学務課)

令和元年度報告書編集委員

秋山 千恵子 (看護学科)
加藤 久栄 (看護学科)
島田 典明 (学務課)

学校法人 埼玉医科大学
埼玉医科大学短期大学

令和元年度自己点検・評価報告書
(2019年度年報)

令和2年3月31日発行

埼玉医科大学短期大学
自己点検・評価委員会

〒350-0495

埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049-276-1512

FAX 049-294-8604

E-mail : tangakumu@saitama-med.ac.jp